一般社団法人 長岡青年会議所

創立六十周年記念誌

Anniversary
NAGAOKA JC
60th

JCI
Junior Chamber International NAGAOKA
一般社団法人 長岡青年会議所

一般社団法人 長岡青年会議所
創立60周年記念誌

Anniversary
NAGAOKA JC
60th

目　次

	長岡青年会議所 趣意書	2
	長岡 JC 宣言	3
	JCI Creed・JCI Mission・JCI Vision	4
	JC 宣言・綱領	
ごあいさつ	一般社団法人 長岡青年会議所 2015 年度　理事長　丸山　清貴	5
祝　辞	新潟県知事　泉田　裕彦	6
	長岡市長　森　民夫	7
	長岡商工会議所　丸山　智	8
	公益社団法人 日本青年会議所 会頭　柴田　剛介	9
	公益社団法人 日本青年会議所 北陸信越地区協議会 2015 年度　会長　浦　崇典	10
	公益社団法人 日本青年会議所 北陸信越地区新潟ブロック協議会 2015 年度　会長　小山　大志	11
	公益社団法人 東京青年会議所 2015 年度　理事長　中村　豪志	12
	韓国ソウル江南青年会議所 2015 年度　会長　南映在	13
歴　史	理事長対談	16―21
	長岡 JC の歴史　1955 年～ 1994 年	22―41
	1995 年～ 2004 年	42―51
	2005 年～ 2014 年	52―71
	出向者一覧　2005 年～ 2015 年	72―75
	事業の歩み　総務広報系委員会	78
	経営系委員会	80
	ひとづくり系委員会	82
	まちづくり系委員会	84
	おまつり系委員会	86
	灯籠系委員会	88
	青少年系委員会	90
	クラブ活動　野球クラブ同好会・ソフトボールクラブ	94
	長岡 JC サッカークラブ	
	じゃがいもクラブ同好会	
	クラブソイガイヤー	95
	くおーれ長岡	96
	クラブ Y・O・Y	97
	フェニックスクラブ	98
震災と復興	新潟県中越大震災	100
	復興祈願花火 フェニックスの誕生	100―101
	復興支援活動を通じて	102
2015 年度の活動	1 月～ 7 月	104
	記念事業（8 月）	106―111
	記念式典・祝賀会	112―115
	記念式典・祝賀会スナップ集	116―121
	記念事業（9 月）	122
	11 月～ 12 月	124
未来（あす）への挑戦と覚悟		125
過去を引継ぎ未来の JC 活動へ繋がるメッセージ		126
編集後記		128

長岡青年会議所設立趣意書

青年会議所の目的は具体的な個々の目的をもった団体ではなく莫としたある意味に於いては「観念的な」「抽象的な」団体であります

依って「なすべき事」「行はるべき事」は決して定まって居るものではなく寧ろ無限定でありますがそこに又大きな意義があるのであります

何故ならば「J・C」メンバーは個々の人の力により支えられるべきもので意欲ある青年の集いであります

斯様な情熱の人々が情熱をもって結合して其処に何ものかを創造しやうとするものであります

故に莫然とした会だから入会すると言ふのでなく自分が入会してこうしやうと言ふ人々を以って形成されるものであります

然も現実に於いて形態をもつ以上莫然とはしながらも一定の形態を備へて居る事は言ふ迄もないのであります

今青年会議所の目的を要約すれば左の通りであります

一、青年がその青年による独自の立場に於いて互いに啓発陶冶し自己を練磨すると共に進んで現実周囲の諸問題に干与して社会に奉仕更に友愛の精神を通じて全世界と連携せんとするものであります

そこで我々事業に携はる青年が理解ある提携と相互の協力のもとに団結して共々に経済の発展と社会福祉に寄与しやうとするのが青年会議所設立の根本とするところであります

今や青年会議所は正しい理想と熱情によって結ばれし同士相集い地方産業の振興並びに社会福祉各般の活動体として将又中核体として推進するため今般長岡市に於いても品位ある青年実業家をもって結集する青年会議所の設立の義がまとまり雄々しく発足する事になった次第であります

長岡JC宣言

われわれ長岡青年会議所は

創立50周年を迎える今日まで、多くの先輩方のご尽力により存続してまいりました。
これからも永続するために、我々の組織の進むべき方向性を示します。

メンバーの絆を礎に

長岡青年会議所の最大の強みはメンバーの絆の強さにあります。
事業や様々な活動を通して互いに切磋琢磨し、
それによって生まれるメンバー間の絆を深めることが、
より良い組織づくりに繋がると考えます。
その絆を礎に、地域社会に必要とされる人間になれるよう、
常に高い志を持って自己修練していきます。

夢あふれる社会の創造に向けて

常に夢を持ち続ける事の大切さを訴え、
実践していくことこそ
次の世代に繋げる我々の責任であり、
現在よりも未来に視点を置くことにより
郷土に息づく米百俵の精神にも繋がります。

地域とともに歩み続けることを宣言する

我々の愛する「ふるさと長岡」を夢あふれるまちにするために、
必要とされる人財輩出し続けることが長岡青年会議所の責務です。
我々は企業、家庭、地域社会のリーダーとして困難に挫けない強い意志を持って行動し、
この地域とともに未来に向かって進んでいきます。

2005. 9. 4　社団法人 長岡青年会議所

Photo : 小 幡 和 成　復興祈願花火フェニックス

JCI Creed

The Cleed of Junior Chanber International

We Believe :
That faith in God gives meaning
and purpose to human life ;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations ;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise ;
That government should be of laws
rather than of men ;
That earth's great treasure lies in
human personality ;
and That service to humanity
is the best work of life.

我々はかく信じる：
信仰は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は
国家の主権を超越し
正しい経済の発展は
自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって
運営さるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である

JCI Mission

To provide development opportunities
that empower young people to create
positive change.

青年が積極的な変革を創造し開拓するために、
能動的な活動ができる機会を提供する。

JCI Vision

To be the leading global network of
young active citizens.

青年の行動的市民活動を支援する
国際的なネットワークをもつ先導的機関となる。

JCI 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動する事を宣言する

綱　領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

JC三信条

ごあいさつ

一般社団法人 長岡青年会議所
2015年度 理事長 丸 山 清 貴

一般社団法人長岡青年会議所は、1954年9月5日、力強い覚悟と気概を持った志高き先輩諸兄により正しい理想と情熱のもと、現在の公益社団法人東京青年会議所がスポンサーとなり、全国で64番目の青年会議所として誕生し、本年度60周年を迎えることができました。60年という歴史と伝統は、時代の変遷の中で創始の志はそのままに「夢あふれる社会の創造」に向け、地域とともに歩み続けてこられました先輩諸兄の活動、運動はもちろんでありますが、地域の皆様、関係諸団体の皆様、そして同士であります各地青年会議所の皆様の多大なるご支援とご協力があったからこそであります。あらためまして深く感謝申し上げます。

大きな節目を迎える本年は、地域の発展のために先輩諸兄から脈々と受け継がれてきた長岡JCの礎に敬意を表すとともに、「未来を語り、変化を恐れず、未来への挑戦と自らの覚悟が、新たな長岡の発展に繋がる」と信じ、未来へ向け大きな一歩を歩んでまいりました。これからも、変化を恐れることなく覚悟を持って何事にも果敢に挑戦し続けることが、これまで支えてくださった皆様への恩返しであり、新たな長岡の発展を創造していくことで地域に必要とされる長岡青年会議所であり続けてまいります。

末筆になりますが、60周年記念式典はもとより、本年度すべての事業に関わり頂きました皆様方の、益々のご隆盛、ご健勝を心よりお祈り申し上げますとともに、これからも我々の活動、運動にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Photo：星野儀平　正三尺玉とナイアガラ

新潟県知事

泉　田　裕　彦

一般社団法人長岡青年会議所が創立 60 周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴所におかれましては、昭和 29 年の創立以来、「修練・奉仕・友情」の3信条のもと、若々しい感性と柔軟な発想で地域社会や地域経済の発展に貢献してこられました。
これもひとえに、歴代の役職員や会員の皆様の御尽力の賜物であり、深く敬意を表します。

さて、戦後 70 年の本年、戦災復興を目的とした長岡まつりも節目を迎えました。「柿川灯籠流し」や小・中学校で実施する「平和学習」は長岡空襲の史実や慰霊に向けた想いや恒久平和への願いを深める機会であり、若い世代へ戦争の悲惨さと不屈の精神を持って復興に挑む先人の思いを伝達する意義深いものであります。

また、高校生が企画、運営する「Nagaoka 高校生フェスタ」の開催等を通じ、若者の自立心の向上など青少年の育成に御尽力されているところであり、郷土長岡の偉人である故 山本五十六氏のひとづくりの精神を実践しておられます。

中越大震災の発生から昨年で 10 年が経過しました。本震災においては、全国の青年会議所とのネットワークを活かして、支援物資の配布やボランティア活動に機動的に対応し、復興に向けて御尽力いただきました。その後の東日本大震災においても、貴所の取組により長岡から多くの支援物資が被災地へと届けられたところです。

このような数々の社会貢献活動が、地域社会における皆様の高い評価と信頼につながっているものと考えております。

近年、経済のグローバル化や人口減少など地域社会を取り巻く環境が大きく変わる中、地域経済を支える若きリーダーとしての皆様の役割は益々大きくなっております。創立 60 周年を迎え、皆様におかれましては市民協働の精神のもと、「明るく豊かな社会」の実現のため、益々の御活躍を期待しております。

長岡市長

森　民夫

一般社団法人長岡青年会議所の創立60周年を心よりお祝い申し上げます。

貴会議所は昭和29年9月に結成されて以来、「修練・奉仕・友情」という三つの信条のもと、地域社会に根差したさまざまな活動を積極的に展開されております。

中でも、市内小中学校の子どもたちに慰霊と平和の想いを継承する平和学習活動や柿川灯籠流しの主催、フェニックス花火協賛金募金活動、東日本大震災や昨年の広島土砂災害の被災地へのメンバー派遣など、長岡市の発展と地域力・市民力の向上にご尽力いただいております。

さらに、中越大震災から10年が過ぎ、震災を知らない子どもたちが増えてくる中、昨年からは、震災の記憶や教訓、復興への道のり、フェニックス花火に込められた想いを子どもたちに伝える出張授業にも取り組んでおられます。これは、子どもたちにふるさと長岡への愛着と誇りを育むものと思います。皆様の姿は市民の誇りです。その熱意と結束力に深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

今年は、地方創生元年です。その成功のカギは、20年、30年後に長岡で暮らしていく若者や子どもたちが、地方創生を自らの問題として捉え、志を持って取り組むことにあります。貴会議所が、長年にわたる活動を通して、まちの発展と未来を担う子どもたちの育成を牽引されてきたことは、まさに地方創生そのものです。

地方創生の推進には、これまでにも増して、若者の代表である皆様の斬新な発想と行動力が必要不可欠です。今後も一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。市も、貴会議所と共に長岡市の発展に全力を尽くしてまいります。

結びに、創立60周年を迎えられた一般社団法人長岡青年会議所のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、祝辞といたします。

長岡商工会議所
会　　頭
丸　山　　智

一般社団法人長岡青年会議所が創立 60 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

長岡青年会議所は、青年実業家の連携と相互の協力のもとに団結して、経済の発展と社会福祉に寄与することを設立の趣意に謳い、全国で 64 番目、県内で 2 番目の青年会議所として、昭和 29 年 9 月に創立されました。以来、進取の気概と若き企業家の熱情をもって、多岐にわたる地域活動に取り組んでこられ、今や地域社会に欠くことのできない存在となっております。これもひとえに、歴代理事長様をはじめ、メンバーの皆様方が築き上げてこられた実績と伝統、そして先輩諸氏の志を受け継いだ会員各位の不断の研鑽と努力の賜であると深く敬意を表します。

この 60 年の間、長岡青年会議所におかれましては、多くのまちづくり運動を提唱されてきたほか、災害時における被災された人たちに対する救援活動への取り組みや、長岡空襲で亡くなった方々への慰霊と恒久平和の願いを込めた8月1日の「柿川灯篭流し」、復興祈願花火フェニックス打ち上げへの参画、そして、近年では「Nagaoka 高校生フェスタ」の開催など、文字通り地域に根ざした活動により、長岡青年会議所への高い評価と信頼につながっております。

また、創立 50 周年記念において「長岡JC宣言」で表明されたように、メンバーの絆を強め、様々な活動を通して互いに切磋琢磨するとともに、常に高い志を持って自己修練に努め、地域に必要とされる人財を輩出し続けることを組織の責務に位置づけたことで、長岡の経済・社会を牽引する多くの卓越したリーダーを輩出されております。

経済のグローバル化や人口減少など地域社会を取り巻く環境が大きく変化している中で、若きリーダーとして、また、地域社会、経済活動の担い手として長岡青年会議所の役割はますます大きくなっております。

どうか、輝かしい 60 周年を契機に、丸山理事長様のもと、従来にもまして会員各位が英知を結集し、地域社会の発展に一層のご貢献をされますようご期待申し上げますとともに、長岡青年会議所の更なるご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

公益社団法人 日本青年会議所
2015年度 会頭
柴　田　剛　介

平素より、公益社団法人日本青年会議所に多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、一般社団法人長岡青年会議所が創立60周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年の日本経済は円安、そして日経平均株価の高値等アベノミクス効果の影響を受け、海外輸出を行なう企業を中心に再び力を取り戻す年となりました。また、17年ぶりとなる消費税の増税や戦後の安全保障政策の大転換ともいえる集団的自衛権の行使容認の閣議決定など、歴史的に大きな節目を迎えた年でもあります。本年に入り、地方創生の基礎となる自治体への権限移譲や地方分権改革が決定され、そして、4月に行われた統一地方選挙では与党が圧勝し、これまでの経済戦略や地方創生などの国家方針が再び強く支持されました。このように国家が示す方向に、より期待が膨らむ本年だからこそ、我々青年は、未来を生きる人のために、どのように地域に山積する課題と向き合うのか、現実を直視する勇気が求められています。地域が慢性的な不況のまま殺伐とした地域へと成り下がるのか、それとも先駆者として課題を乗り越え、再興を遂げた地域として脚光を浴びるのか、これは一概に政治家や官僚の裁量や責任ではなく、我々青年の肩にかかっています。

本年、日本青年会議所では『文化と文明が生み出す「底知れぬ力」による日本再興』を基本理念として活動を進めております。全国を見渡すと日本には様々な文化が存在します。それら文化はどの地域にも必ず存在し、その地域らしさを誇っています。また、日本は高度文明社会の中で、古来の文化を守り、時には独創的な文化を創り出す、そんな「底知れぬ力」を持った万世一系世界最古の自然国家であります。そこに我々青年の斬新な発想力が加われば、必ずや日本は地域から再興できると信じてやみません。

結びとなりますが、長岡青年会議所の更なるご発展と丸山理事長をはじめとするメンバーの皆様のご多幸とご健勝を心よりご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

公益社団法人 日本青年会議所
北陸信越地区 2015 年度 会長
浦　　崇　典

一般社団法人長岡青年会議所が、記念すべき創立60周年を迎えられましたことを、公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区協議会を代表して心よりお祝い申し上げます。

貴青年会議所は1954年の創立以来、愛する地域の明るい豊かな社会を築くために常に現状を打破する変革の能動者としての気概をもって活動を展開してこられました。本年は「未来への挑戦と覚悟～未来を語り、変化を恐れず　未来への挑戦と自らの覚悟が、新たな長岡の発展に繋がる～」をスローガンに掲げられた丸山清貴理事長のリーダーシップの元、創始の精神と紡いできた歴史を継承し、創立60周年を新たなスタートに輝かしい未来への確かな一歩を踏み出されることを心よりご期待申し上げます。

市民と共に歩み続け、JC運動を展開されている皆様方に改めて敬意を表する次第であり、併せてわたしたちの住み暮らす地域の発展を目指す同志として、末永く共に歩んで頂けますことをお願い申し上げます。

結びに、輝かしい60年という伝統を絶えることなく受け継いでこられた皆様方のお力が、この記念すべき年を契機に一層強く結集され、今後さらにご活躍、ご発展されることを祈念し祝辞といたします。

公益社団法人 日本青年会議所
北陸信越地区新潟ブロック協議会 2015年度 会長
小　山　大　志

一般社団法人長岡青年会議所が創立60周年を向かえられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

1954年9月5日に、全国で64番目の青年会議所として発足して以来、60年という歳月が経過をいたしますが、先輩諸氏より連綿と受け継がれてきた伝統と情熱、そして勇気と実行力をもって、地域社会の発展のために率先してJC運動を展開し、これまでの歴史を築いてこられましたことに深く敬意を表します。

過去、二度にわたって不屈の精神で戦火から復興を成し遂げた歴史を乗り越え、先人より脈々と受け継がれてきた「米百俵の精神」と未来へ向けた「夢」。50周年の時に、その2つを融合し、長岡JCのシンボルとして掲げた長岡JC宣言の「ゆめ百俵」。その行動指針を基に、10年の歳月で成長された貴青年会議所の先輩諸氏をはじめとする現役会員の皆様は、能動的に企業、家庭、地域社会のリーダーとして困難に挫けない強い意志を持って行動し、新潟をはじめ日本の明るい未来を照らす燈火であります。

本年度、一般社団法人長岡青年会議所の皆様におかれましても、丸山清貴理事長の掲げる「未来への挑戦と覚悟」～未来を語り、変化を恐れず　未来への挑戦と自らの覚悟が、新たな長岡の発展に繋がる～のスローガンの基、「ふるさと長岡」を夢のあふれるまちにするために、地域に必要とされる人材を輩出し続け、次なる5年10年へと更に進化を遂げられることと存じます。

公益社団法人 東京青年会議所
2015 年度 理事長

中　村　豪　志

一般社団法人長岡青年会議所創立60周年を心からお祝い申し上げます。
青年会議所運動は第二次世界大戦後の荒廃の中から生まれた運動ですが、長岡の地におきましては戊辰戦争からの復興において、既に若者の魁があり蓄積がありました。

戦後の青年会議所運動が「修練」・「奉仕」・「友情」を三信条として、世界との普遍的なつながりをもったことが新しいことです。私達青年はいかなる時も「他を範として学ぶ姿勢」を持ち続けることで成長することが重要であります。
長岡青年会議所におきましても、歴代の理事長、役員の皆様をはじめとするシニアメンバーの方々の、時代時代における熱い想いが脈々と紡がれ現在に至り今日があります。

現在は、ウクライナ問題、北方領土問題、ISIL、南シナ海等、戦争と平和に関する諸問題が世界には山積し日本も関わり解決していかなければならない問題も多々あります。青年会議所は地域にも、日本にも、世界平和にも果たすべき役割が求められていると言えます。

ローカル主義である青年会議所運動は「まち起こし、村おこし」運動に代表されるようなリーダーシップ開発（LD）・社会問題の発見と解決（CD）を基盤とした運動と取られがちですが、国際的な世界との友情も大きな柱の一つであることを、創立60周年という振り返りの年にあたり想起して頂き、新たな課題を見出す重要な機会としていただけましたらスポンサーLOMとしまして幸いです。

最後に、長岡青年会議所と東京青年会議所は青年会議所運動設立の精神を形骸化することなく、常に基本に立ち返り、現実の諸問題にしっかりと向き合うことで切磋琢磨し、青年会議所運動を牽引していくという志を確認するのとともに、これから先も続く長岡青年会議所がますます発展し長岡の地域にとってなくてはならない青年会議所であり続けることを祈念し、祝辞とさせていただきます。

韓国ソウル江南青年会議所
2015 年度 会長
南　映　在（ナムヨンジェ）

一般社団法人長岡青年会議所の 60 周年記念式典開催を祝し心よりお喜び申し上げます。また今後ますますのご発展をお祈りいたします。

さて、長岡 JC の皆様とは、1982 年の姉妹締結からのご縁であります。以来今日まで 30 年以上の間、国境を越えた友情関係を継続し続ける事ができましたのも、両 JC 諸先輩方の努力の賜物であり、長岡 JC 歴代理事長の方々を始めとします、関係者の皆様に改めて敬意と感謝の意を表します。異なる国ではありますが、お互いに切磋琢磨することのできる親しみを感じる同世代の仲間であり、誇りでもあります。60 周年記念式典並びに懇親会が大成功に終わる事、その後の両 JC の関係が末永く続くことを願っております。

最後に、長岡 JC が時代の変化に柔軟に対応し、積極果敢な行動力でますますご発展することと、会員の皆様、関係者の皆様のご活躍及びご健康をご祈念申し上げまして祝辞とさせていただきます。

JCソング

一、JCJCJC
世界を結ぶ若き団結
新しき世紀の希望となりて
永遠に繁栄こそん我等の集い

二、JCJCJC
奉仕の理想探究めつつ
祖国の進歩の力となりて
先駆けゆかん我等の集い

若い我等

一、若い我等が手を取り合って
進む行手の青い空に
輝くJC明るい希望
足なみをそろえて行こうじゃないか

二、世界を結ぶ若さの力
互につくす楽しさこそ
JCの理想だ新しい日だ
足なみそろえて行こうじゃないか

三、若い我等の心を集め
つくる集いに未来をかけて
JCの仲間は皆信じあう
足なみそろえて行こうじゃないか

長岡JCの歴史

1954－2014

理事長対談

「地域と青年会議所活動」編

第51代理事長 桐生伸一
第52代理事長 今井雅人
第53代理事長 関川卓至
×
第61代理事長 丸山清貴

丸山理事長：本日は、「地域と青年会議所」をテーマに歴代理事長経験者の桐生伸一先輩及び今井雅人先輩並びに関川卓至先輩よりお話をお伺いしたいと思います。
理事長をされていた当時皆さんがどのような想いで地域と関わってきたのかをお伺いさせていただきます。

桐生先輩：前年に中越大震災が発生したことがあり、震災復興についてかなり力点を置いて当時の事業を行いましたね。大きな被害を受けた山古志村の被災者達への物資の調達やイベントなどにメンバーを動員して支援することが出来ました。こういう支援活動を迅速に行えることこそが長岡青年会議所の強みだと思います。

丸山理事長：50 周年という長岡青年会議所としても大きな節目を迎えた年でもありましたが、まずは震災復興を第一に活動されたのですね。

桐生先輩：そうですね。その復興の中で生まれたものが震災復興祈願花火フェニックスです。

今井先輩：フェニックス花火は、今や長岡大花火大会のメイン花火にまで成長しましたが、長岡青年会議所から生まれたプロジェクトですからね。

桐生先輩：市内の街頭や東京県人会総会などいろいろなところでPRや協賛金のお願いに訪問し、メンバーが震災復興祈願花火を打ち上げることを目標に一丸となって活動しました。

丸山理事長：フェニックス花火が打ち上げられた時はどのような想いでしたか。

桐生先輩：フェニックス花火を見上げながら、この事業をやり遂げた達成感と仲間への感謝の想いでとても感動しました。あの感動は長岡青年会議所に入会していなければ味わえないものですね。

今井先輩：私はちょうど長岡市制 100 周年を迎え、長岡市から市制 100 周年事業として何か行ってほしいと要請がありました。

丸山理事長：長岡市から直接長岡青年会議所に要請がきたのですか。

今井先輩：はい。ただ、長岡市からの要請から事業当日までの準備期間が 3 か月程度しかなくメンバーが危機感をもちながらも、絶対成功させてやるんだという想いで乗り越えました。

関川先輩：ゆめ100戦士ソイガイヤーは、当時の事業から生まれたものですからね。

今井先輩：そうです。「次代を担う子供たちの夢を育む」というテーマから 3 つの事業を行ったのですがその中のヒーロー事業です。

丸山理事長：ソイガイヤーショーは、現在でも開催していますが、毎回多くの家族連れが来場されていますよ。

今井先輩：私の当時の事業が今でも受け継がれていることは大変嬉しく光栄に思います。

関川先輩：私は、郷土が発展するにはメンバーをはじめそこに住んでいる人たちが自らの郷土を愛さなければ発展はないと考え地域の皆が郷土に誇りを持てるような事業ができないかと考えました。

丸山理事長：確かに自分たちが自分たちのまちを愛せなければ発展することはできないですよね。

関川先輩：そこで着目したものが「若い力」です。私はこれからの長岡を担う若い世代の力をお借りして長岡を活性化させようと考え、通年事業にてダンスを通じたまちづくりを行いました。

今井先輩：長岡を活性化させる条件として若い力は必須ですからね。

関川先輩：長岡青年会議所メンバーをはじめ若い世代が地域を愛さなければ郷土の発展はありえないですからね。

丸山理事長：2013 年から毎年長岡まつりにてながおか高校生フェ

ソイガイヤーショー

当時について語る（左から）桐生先輩、今井先輩、関川先輩

ダンス事業

スタという事業を行っているのですが、これも関川先輩のお考えと同様高校生に地域を愛してもらいたいとの想いから始まった事業なんですよ。

関川先輩：これからも郷土愛を大切にした事業をたくさん行ってくれることを期待しています。

丸山理事長：地域からみた長岡青年会議所への知名度は当時どうでしたか。

桐生先輩：あまり認知されていませんでしたね。私が理事長に就任した時代は長岡市との連携もほとんどなかったと記憶しています。長岡市と連携しだしたのは今井さんの時代からではなかったでしょうか。

今井先輩：当時は商工会議所青年部とよく間違われていましたよね。

丸山理事長：そんな状況から、何を契機にして連携が始まったのですか。

今井先輩：きっかけは中越大震災ですかね。

関川先輩：震災の復興活動などで、われわれ長岡青年会議所がさまざまな場面に顔を出したことで行政も私たちの活動を理解してくれたのだと思います。

桐生先輩：行政も私たちの必要性を認めてくれたのでしょうね。

丸山理事長：今、長岡青年会議所が広く地域に根付くことができたのも先輩方のご苦労があったからなのですね。これからも私たちが先輩方の想いを継承し、次世代を担うメンバーに伝えていかなければなりません。

今井先輩：私たちも先輩方の想いを受け継ぎながら活動してきました。今年は創立 60 周年ということで節目の年を迎えていますね。

丸山理事長：はい。多くの先輩方が築いてこられた長岡青年会議所の礎を受け継ぎ、また未来への私たちの挑戦と覚悟を発信していきたいと考えています。

関川先輩：先輩方の意思を受け継ぎながら、新しいものを開拓していくことは大変なことだと思いますが頑張ってください。長岡青年会議所の新たな一歩に期待しています。

丸山理事長：最後に現役メンバーに向けてお願いいたします。

桐生先輩：長岡青年会議所は、ほかの団体では味わうことができない感動や仲間づくりをすることができるとても貴重な場です。積極的に活動を行って悔いのないJCライフを送ってください。

今井先輩：長岡青年会議所で活動することによって自らが大きく成長することができます。修練・奉仕・友情の三信条が揃う団体は青年会議所をおいて他にはないです。今しか経験することができない貴重な体験をして失敗を恐れずにどんどん活動してください。

関川先輩：青年会議所は世界最大の学び舎です。多くのことを学んで次世代の長岡を担う人財になってください。そして多くの仲間と絆を深めてください。長岡青年会議所から繋がった絆はとても強いです。

丸山理事長：本日は貴重なお話大変ありがとうございました。

理事長対談

「会員拡大」編

第54代理事長 町田大輔
第55代理事長 渡邊滝博
第56代理事長 木村信丈
×
第61代理事長
丸山清貴

丸山理事長：今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は会員拡大についてということで、是非ご自身が行ってきた当時のことをお話しいただきたいと思います。まず、会員拡大の必要性について当時はどうお考えでしたか?

町田先輩：我々の時に会員拡大を頑張ったのは、率直に言ってメンバー数が純減し、メンバーを増やさなければ事業構築も組めないというのが一つの理由でした。

丸山理事長：詳しくお聞きかせください。

木村先輩：確か 2008年の開始時点で繰越金が全然無くて、いろいろと苦労したんじゃなかったかな。

町田先輩：予算的にはマイナスからの出発で、年の初めの時に116 名しかいなかったのもあって特別負担金までいただいたと思います。

町田先輩：でも、これは前年度の所為って事ではなくて、前年度までに50周年式典の設営とか、市制 100 周年のイベント等で予算が多く必要だったこともあり、このような事業を今後も LOM として続けるためには、メンバーの充実と予算の確保が不可欠ではないかという結論に達したんです。

渡邊先輩：会費は入会が遅れるほど、月割りになって予算額が減ってしまうので、早く入会させなければならないということで、1 月に 25名入会してもらったんだよね。

丸山理事長：よく、会費が高いという話がありますがそのあたりの障害はどうしましたか。

木村先輩：他団体と比較する人もいて、そちらの方は会費が安いのでそっちの方を選ぶという人もいるじゃない?これって行っている活動内容がそもそも違うからその議論はあまり関係ないと思うんだよね。

渡邊先輩：JC は会議体であり、議論を通じて人を成長させ、まちをつくる組織なので本質が違うよね。

木村先輩：そう。皆で議論しひとつのことを成す、その活動が会員資質の向上につながっているわけだからね。

町田先輩：会費から事業費を捻出するわけだから、議論した結果の事業規模が大きくなれば必然的に会費収入に頼らざるを得ないからね。もっと前の先輩たちは外からお金を集めるのがもっと上手だったイメージもあったんですけどね。

丸山理事長：そうですね。本年度でも助成金などを活用した事業なども行っていますが、助成金などの効果的な活用を今後も継続するべきですね。

丸山理事長：続いて会員拡大の手法等で工夫したことはありますか?

渡邊先輩：町田理事長の時は会員拡大にかなり力を入れた組織図でしたよね。私が特別委員長でフロアーメンバーは全て委員長という構成だったんだけど、町田理事長にもお願いして毎回委員会に出席してもらいました。確か、一回も欠席されずに出ていただいたんじゃないですか?

町田先輩：そうだね。「発言しなくてもいいから来てくれ!」と、渡邊委員長からはかなりプレッシャーをかけられましたよ・・・。

木村先輩：僕の時は組織とかではなくて、JC を語れとメンバーの一人ひとりに伝えていたね。メンバーが JC を語れなければ、ただ飲んで例会に出るだけの団体になっちゃうじゃない。事実、本質を語れない人は組織の足かせになってしまう。常に言い続けていたら、委員会や例会を重ねる毎にみんなの顔付きが替わっていったね。

渡邊先輩：あと、僕らが会員拡大に取り込んだときはまだ長岡市内に潜在会員が多くいた土壌があったんだと思うよ。

町田先輩：確かにその前の年までは入りたくない奴は入れなくていいというスタンスであまり積極的ではなかったからね。

井戸端会議の様子

木村先輩：JC は入会してみて、やってみないと本質がわからないしね。食わず嫌いで入らない人もいるけど、そういった人が入会した後に開花しその後の JC を支えていったなんて事例は多いじゃない。

丸山理事長：そうですよね。私も騙されてはいった口ですが、今は理事長なんてさせてもらっていますからね（笑）。

丸山理事長：毎年の課題だと思いますが、退会や休会を考えているメンバーのフォローはどの様にしていましたか?

木村先輩：僕の時はみんなで気にかけてみるように心がけていたよ。様子が変わった仲間がいれば意識して声を掛けたり、飲みに誘ったりね。

渡邊先輩：僕の時は 2 年間で 70 人以上の入会者がいて、LOM の役職も足りないし、そんなことを気にしている余裕はなかったね。町田さんの時に 45 人入会してもらいましたが、その次の年も 20人以上入れるということを使命にしていたしね。「2年連続でやらなければ、前年度に多く入会したからということを言い訳にして会員拡大は継続しない。今後の会員拡大の基礎が築かなければならない」って思っていたからね。その目標設定は当初理事会等で「無理だ」って反対されていたけどね（笑）。

町田先輩：それでもしっかり結果を残したからね。すごいよ。

渡邊先輩：ただ、翌年の木村理事長は大変だったと思いますけど・・・。

木村先輩：ホントだよ。ぺんぺん草も生えてない、もう候補者は誰も残ってないんじゃないかとひやひやしていたよ。

木村先輩：あと、質問の退会者の件だけど、やっぱり入ったからにはやめるのはもったいないよ。続ければ、何かしら気づきはあるし、得られるものがあるんだから。中途半端にやめるとJCもできないのかって言われちゃうからね。

丸山理事長：私も今年「一人もかけることなく12月31日まで」と自分で言っているので、恥ずかしい結果にならないように頑張ります。

丸山理事長：続いて会員資質の向上に何か気を付けたことがありますか?

町田先輩：私の時は、メンバー数が少ないにも関わらず、あえて委員会の数を増やしました。最初のスタートでは委員会スタッフを除くと一委員会あたり4,5人しかいなくて、全員で頑張らなければ事業もままならないし、結果みんなでやるという雰囲気になったんじゃないかな。あと人手不足を実感して会員拡大しなければという機運にもなったと思います（笑）。

丸山理事長：確かに、危機感は大事ですよね（笑）。
また、今はあまり出てこない状態になって、名簿でしか顔を見ないというような会員もいるのですが、そのような会員にはどのようにしていましたか。

町田先輩：僕の時はやっぱり、本人と話をしながら状況を整理してもらって、これ以上続けられないという人には残念だけどやめてもらっていたね。

木村先輩：私の時も100%総会・例会を機に、スリープメンバーには結論を出してもらっていたね。

渡邊先輩：やっぱり、人と人との繋がりだよ。会員同士の繋がりとかがメンバーを繋ぎ止め、出てくるきっかけになると思うし。

丸山理事長：最後に現役会員に向けてエールをお願いします。

町田先輩：頑張れ。

渡邊先輩：そうだね。

丸山理事長：え、頑張れだけですか?

渡邊先輩：卒業した OB は「金は出しても、口は出すな」と言われていますので、余計なことは言いません。自分たちの考えで是非頑張って下さい。

木村先輩：もう我々は卒業した身です。今現役の皆さんが今後の JC を創っていくことを忘れずに頑張ってもらいたいと思います。

町田先輩：現状をわかっているのは、今在籍しているメンバーです。みんなで知恵と力を出し合って進んでいっていただきたいと思います。

渡邊先輩：と、いう事で、頑張れ!!

理事長対談

「市民協働」編

第57代理事長 平石祥吉
第58代理事長 村上揚市郎
第59代理事長 村田　靖

×

第61代理事長
丸山清貴

丸山理事長：今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は市民協働を一つのテーマにご自身が理事長時代のころを思い出してお話しいただければと思います。

村田先輩：市民協働の機運が出てきたのは、2011年の平石理事長の時に東日本大震災が発生し、JCとしてメディア戦略を活用し出して、行政との繋がりができた事が起点になったと思います。

村上先輩：確かに、我々より前の世代の青年会議所活動も行政や関係諸団体と連携した活動をおこなっていましたが、、メンバー同士の友情の構築や次世代を担うメンバーのひとづくり活動にウエイトが高かったように感じます

平石先輩：そうですね。私が理事長の時にアオーレ長岡が誕生し、市民協働という言葉が一つのキーワードとなっていたと思います。私はしっかりしたメンバーの構築の後は、対外的な活動へシフトチェンジしたいと考えていた節もあってエンジン 01 等、市と絡んだ事業が多かったのかもしれません。

丸山理事長：その年の理事長によって、対外的な事業が多いとか、対内的な事業が多いとかのカラーが出てくるということでしょうか。

村田先輩：2011年までの JC は比較的対外的なつながりをさらに構築するより、メンバーを中心とした活動をする機会が多かったと思います。

村上先輩：もっと以前までさかのぼれば、対外的な関係は、ごく一部だけと連携していた時もあったと思います。しかし、これからの時代は JC が自分たちだけで行うのではなく、多くの市民や団体の巻き込みがより必要になると思います。

村田先輩：やはり、JC メンバーが活動できる事はごく僅かな事で、行政の街を動かす力を借りなければならないし、一緒に行動する市民と協力しなければいけない、まちづくり活動での長岡JCが掲げる一つの想いを達成するためには、それぞれの機関をうまく連携させながら、自分達だけが主張するのではなく、バランスをとりながら、歩み続けていくことが大切です。

平石先輩：それに、対外的に自分たちの活動をアピールできた方がいいと思います。中には JC はただ集まりで酒だけ飲んでいると誤解している方々もいると聞いていますし。せっかくやっているからには理解してもらって協力してもらった方が、より多くの結果を出せると思います。

丸山理事長：市民と一緒に行うということでは、村田理事長の時に長岡まつりの際に高校生フェスタを行うことになりました。高校生を対象とした巻き込みは今までの JC としてあまりなかったと思いますがどのような想いで始められたのですか。

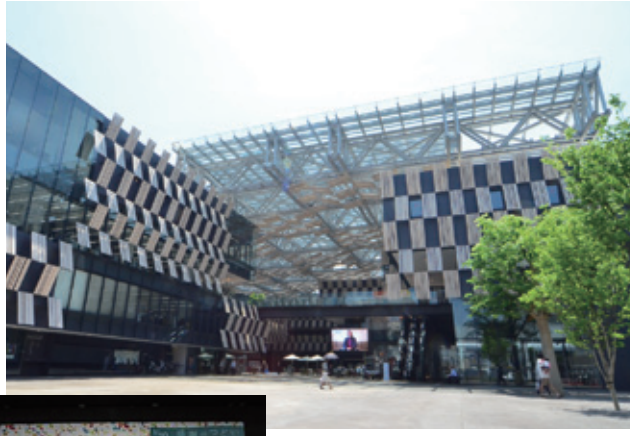
村田先輩：青年会議所の行う青少年系の事業はどうしても、小中学生を対象とした事業になりがちですが、ともに長岡の未来を担う人財である高校生を巻き込んだ事業を以前からやりたいと思っていました。

平石先輩：長岡商工会議所青年部はラーメン選手権をやって先に高校生を巻き込んだ事業をやっていましたね。

村田先輩：それを見たときは先にやられたと思いましたね。

村上先輩：そうですね。各団体ともに理念や方向性は違いますが、今後はより一層多くの団体が幅広い層と活動を連携させていくのではないかと思います。

丸山理事長：対外的なアピールという点でいくと、多くの OB から現役メンバーが今何をやっているかなかなかわからないとの言葉をいただいています。卒業生ですらわからないのに一般の市民にはなかなか伝わらないのではないかと思います。



シティホールプラザ アオーレ長岡

村上先輩：やっぱり卒業してしまうと、理事会等に出ているわけでもありませんし、なかなか情報が伝わってこない現状があります。だからメディア戦略が大事で PR をどんどんしていくべきだと思います。

平石先輩：確かに、子供が学校から持って帰ってきたチラシから JC の活動を知る機会も結構ありますね。

村田先輩：それに、今はラジオやテレビなどでの PR も頑張っていますので、そこから知る機会も多いです。どんどんアピールして、参加してもらうしかないと思いますね。

丸山理事長：最後となりますが、皆さんが理事長時代に取り組んだ経験から市民協働とはどのようなもので、どうあるべきと考えていらっしゃいますか。

平石先輩：私が理事長の時にちょうどアオーレができる年で「市民協働」が一つのキーワードで、まち全体にそういった一つの流れがあった時だったと思います。そうであれば JC もその流れに乗って活動した方が良い活動ができるだろうと考え、2011年はそれを意識して活動した年だったと思います。これからも、そのニーズがあれば続けていくべきですし、市民と共にまちを作っていく想いは必要だと思います。

村上先輩：私が理事長の時は平石理事長の時代の流れを受けた年で、対外的な活動も多くやりました。その中で市民協働というけれど、それは単なる行政の下請けでなくて市民のニーズをくんだ中で行政と連携し、やるべきことであると思います。これからもそのように行っていってほしいですね。

村田先輩：市民協働にはやっぱり核になる組織が必要だと思います。市民から要望がどんどんでてくればいいですが、なかなかすぐにそこまでは難しい現状があります。また、行政から一方的に投げかけてもうまくいかない、そうなるとその両方の立場にたてる JC が非常に大事になってくると思います。行政にもアプローチできるし、市民にもアプローチできる。

村田先輩：あとは巻き込みではないかと思います。自分たちの行いたいことをやる中でも、うまくニーズを吸い上げてベストマッチを探りながらやっていく、それが JC のやるべき姿ではないかと思います。

丸山理事長：今日はお忙しい中ありがとうございました。

初代理事長
覚張良次

1955

日本青年会議所の元会頭の服部礼次郎君と私がたまたま大学の同期であるという関係で同君から是非長岡に青年会議所をつくってもらいたいとの強い要請があったので、当時の駒形商工会議所会頭並びに小林専務理事にご相談し、チャーターメンバーを選考し、設立されたのが、長岡JC誕生の動機であります。

設立前も、又その後も事務面を会議所職員の鷲尾氏にお世話をお願いしたわけでありますが、先ず最初すでにJCのある土地の二、三の商工会議所にJCの活動状況、地域社会との関係、地元のJCに対する評価等を照会した結果、あまり良い回答がなかったことを記憶にしております。この度満20周年を迎えるときき、心からお祝い申し上げると同時に当時若かったチャーターメンバーの仲間（当時は満35才が停年）も20年たった今日、娘の結婚、孫の話、入れ歯の話等誠に月日が経つのが早いものだと感慨無量であります。

第1回JC全国大会が服部礼次郎元会頭のもとに開催された時のJCメンバーの数が約2,400名と記録されておりますが現在の会員数とこれを比較する時（長岡JCにおいても同様）この20年間に驚くべき会員の拡大がなされたかがわかります。又、その活動事業も修練、奉仕、友情のJCスローガンの下に年々充実し、発展していることは誠に慶賀にたえません。JCとは先輩から学ぶのではなく年毎に新しい意志が生れることを知り、これから始まる厳しく、そして激しい時代に即応する活躍を期待し20周年のお祝いの言葉といたします。
（20周年記念誌より抜粋）

認承証伝達式

認承証

創立時よりの書籍箱

2代理事長
駒形宇太郎

1956

当時をふりかえってみますと、1年間何をしたかと云う事も思い出せない次第です。今日の様に未だ社会的にも認められておらず、早く云えば相手にされてはいなかったのであります。今日とは隔世の感が致します。それで私は対外的に働きかけるよりは内部の団結と融和と云う事に重点を置こうと考えて、私なりに努力をしてきました。従ってメンバーの方々には運営について幾多の不満があった事と思います。

思い出は数多くあります。それは私の生来の楽天家の為でしょうが、全部と云ってもよい程に愉快な、そして楽しい思い出ばかりです。富山(会員大会)の帰りに湯涌に行った事、ロータリークラブとの親善野球、悠久山での家族会、年末の助け合い運動等々他の会ではとうてい味合えない様なことばかりでした。しかし、それはそれとして、私の一番感謝している事は、JCに入会させてもらった結果、若い方達と親しく御付合いを出来る様になった事です。其の事が私の人生にプラスを与えて呉れた事ははかり知れません。今後も若い方達にどんどん入会してもらって、JCそのものに清新の気風を送りこむ様にして戴きたいと思います。
（20周年記念誌より抜粋）

双葉寮慰問

迷子相談所

3代理事長
岸　孝一

1957

創立間もない頃であり、メンバー全員が前向きの姿勢で行動していたと思います。

3区選出の代議士による“国会報告討論会”を公会堂(現 厚生会館)で開催しましたが、田中角栄、亘四郎、大野市郎、稲村隆一、三宅正一の各先生からご出席いただきました。選挙中でもない時に現役の国会議員が全員揃い、質疑応答の時間もありました。多少の批判があった事も事実ですが、結果は高く評価されていたのではないかと、今でも深く印象に残っています。

JCのよさは、自分の業界の中にだけいる時はどうしても視野がせまくなり、友人も同級生か、趣味をとうしての友人くらいに限られてくるのですが、いろいろの立場におられる友人や、年令を超えての友人が出来るということがあります。それに、地域社会としての長岡全体の立場で、或いはもっと広い社会的立場で物事を考える訓練をさせてもらえたことだと思います。

直接自分の事に結びつかないJC活動に距離感を抱いて、スリーピングになってしまうというメンバーがいるでしょうが、なんとか無理してでも、その中に入って行くことで人間形成の訓練が出来るのではないでしょうか。

これから国を動かすエネルギーは、若い層に移って来ます。JCを通して仕事とは別の角度、別の空気で激しく動く社会を見つめていって欲しいと思います。

(20周年記念誌より抜粋)

第二回北信越地区青年会議所協議会

国会報告討論会

世界会議参加証

4代理事長
山崎哲治

1958

確か昭和33年、年令31才。今考えると大変汗が出る様な1年間でした。“JCとは自分をトレーニングする処だ。その機会を貴君に与えているのだから喜んで勉強すべきではないか?”と、直前岸理事長よりくどかれて、ついにその気になったのが運のつき。

1年中冷汗の出っぱなしの思い出しか残っていない様ですが、何かと云えば当時、長岡祭が戦後約10回位でなかなか祭りも盛り上がらず、丁度「ニワカ部」を会議所で、「花火」を市役所で分担する事になった時ですのでJCにそれをやらせろとの会議所よりの命令で、初めて「甚句流し」を計画し、市内の師匠連に東京まで行って貰って、当時の民謡ブームにのった市内八学校区の婦人会や民謡協会を毎晩、畠山君、細貝君と3名で約1ヶ月教えて廻ったが表町学校庭でやった予行練習に各流派の違いでもめたりしてさんざんでした。でも前夜祭で旧阪之上小学校に集合し市中、雨の中を大手通を行進した時は本当に感激でした。その時学校と大手通りで上げた花火で消防署より、大変叱られたが細貝君が祭りの責任者は会頭と市長だからその方へ文句を云えと、追い払ったのも思い出です。祭当日は約600名位が昭和通りあたりより、4列縦隊で行進し、商工会議所の前ではJC会員全員共おどりに参加し、市民に大歓迎されたのは本当によい思い出です。その晩は午前様になるまで常磐桜でのみ、おどり明かしました。

当時のJCは運営、経済、サービスの3委員会で、担当の経済委員長細貝君、副理事長畠山君とも当分の間、甚句ばやしを聴く度に一杯呑みながらなつかしい気持ちで一杯でした。

もう一つ当時会員JC35才卒業を40才に繰り下げる事で、大変問題になり、この年令問題でJCを退会した人も居り、卒業名簿にのらないチャーターメンバーが居られるはずですが、その点もいづれお考えいただきたい処です。尚、今井主人君が地区担当理事をやって呉れたので大変助かった様です。又、北陸大会の帰り、山中温泉1泊し、奥さんを見つけた会員が居ったのもホットなニュースです。　(20周年記念誌より抜粋)

1958年度 新年会(1月10日)

長岡祭参加

5代理事長
今井快明

1959

JCのチャーターメンバーとして、創立準備にかかった訳だが、長岡の方が、早く創立準備にとりかかり、会費も日本JCに払い込んだが、新潟の方が県庁所在地ということで、長岡よりも早く承認された。

当時の日本JCは、日本商工会議所ビルに入居するに当り、金が必要であった。そこでメンバーを増大させて金を作るということで、拡大政策をとっていた。

日本JCに出向させられたのだが、本部理事になった。本部理事になると全国を順番に廻らなければならない。時間と金が必要で、当時100万円くらい用意しなければならなかった。そして医者の会員が多くて、必然的に無医村みたいな所ばかり廻った。

本部理事をやると次年度は地区理事、委員長、副委員長をやらなければならなかった。私は青少年委員長をやった。

JC時代に本部に出向したお陰で、日本を代表するような各界の人々と親しくなり、今でも交際している。とにかく積極的に色々な人と交際していけば、大変有意義なJC生活を送れるのではないか。今でも千氏を会頭にかつぎ出したことや、台湾・タイ等を訪問したことが楽しく思い出されます。

（20周年記念誌より抜粋）

親善野球大会

迷子相談所

6代理事長
細貝幸也

1960

友情・奉仕・修練。この三原則が、そのまま委員会テーマだった時代です。封建色の強い長岡にあってJCの認識はゼロに等しく、なんとか我々の活動を社会にアピールしたいと躍起になっていたものです。ジレンマから脱却しようと、修練委員長時代に企画したのが長岡まつりの「甚句流し」。民謡ブームの追い風にのって婦人会や民謡協会に参加を募り、表町小学校庭では大々的な予行練習も決行。本番には総勢600名が集い、市民に大歓迎されたことを今も鮮明に覚えています。長岡JC誕生から4年目の年でしたが、これが世間にインパクトを与えた最初の事業ではないでしょうか。

理事長を務めたのは5周年を迎えた年。記念事業の開催が急に決まり、その準備と根回しに奔走した一年でした。果たして本当に実現可能か?一抹の不安はありましたが、とにかくやることが我々の信条であるトレーニング&サービス&フレンドシップ。記念誌の発行から式典、中曽根康弘氏らを招いての講演会、野球大会まで、一連の記念事業をやり遂げた時にはホッと安堵の気持ちが胸を満たし、言い知れぬ充実感を覚えたものです。あの当時のJC会員には、確かに情熱がほとばしるような“若さ”がありました。集中して何かにバカになる、そういう発展途上の人間らしい魅力があったと思うんですよ。今は世の中が平和になりすぎて、青年から冒険心がなくなってしまった。みんな分別を持ちすぎて、従来の踏襲を主として動くようになってしまった。JCメンバーといっても普通の人間です。時にはハメを外して人とつき合い、バカになって事業をやる。それくらいの気概があって然るべしじゃないでしょうか。

（40周年記念誌より抜粋）

7代理事長
畠山真一

1961

1955年、長岡JCの設立同時に入会した私は、メンバーの中でいちばん若い方で27歳。胸につけたJCバッジが誇らしく、第二例会と称して一杯入ると時代の先駆者気分で熱弁をふるっていたことが思い出されます。認証式の日に駒形商工会議所会頭が「会議所に子供ができた」と祝詞を述べられていたように、商工会議所ジュニア組織として捉えられていた時代。今思えば主体性に乏しく、方向性も明確化されていなかった気がします。しかしながらメンバーは皆、血気盛んで反骨精神旺盛な若者ばかり。「坊っちゃん二世の集まり」といわれるのが悔しく、各種勉強会や行事参加を通して“厳しい自己トレーニングの場”としてのJCを社会に主張していったわけです。

私が理事長を努めさせていただいた年は、大和の出店、ゴルフ練習場（インドア）の誕生など、長岡の街が近代化し始めた頃。商工会議所から独立して事務局を設置し、JCニュースを発行したり山車をつくって長岡まつりにも参加いたしました。組織の輪郭がはっきりしたことで醍醐味が増し、活動にも熱が入るようになりました。ただここで大事なのは、いわゆる「JC屋」になってはいけないということ。あくまで仕事が本分であり、その逆では本末転倒なんです。JCとは人生に厚みを与えてくれるもの。そしてウエイトのかけ方・ペース配分を調整して、上手に自分をコントロールしていく訓練の場でもあるんです。ここで学び、経験し、体得たことは一生の財産。後輩の諸君にとっても、その後の人生のあらゆる場面でいかされてくるものと信じます。
（40周年記念誌より抜粋）

全国大会参加

悠久山スキー大会

8代理事長
藤田正一

1962

長岡青年会議所の創立五周年の式典に当り、如何に歳月が早いものかという事に今更乍ら驚かされると共に、其の進展を心から喜んでおるものである。式典に参席致しJC会員として幾多の思い出がふっと頭に浮かんでくる―そして式典とは斯くなるものなりやと今にして遅走り乍ら痛感致した次第である。地方中小都市に於けるその業に携わる私達には本当に幾多の問題点を抱かせられる宿命的なものがあると思われる。その数多くの問題点の渦中に忙殺され乍らも、其の解決策に孜々として努力しておるが矢張り其の中小都市独有の無刺戟の流れに稍もすると呑まれ易くなる虜も多分に存すると思われる。相共通する若さの其の幾多の商工業種の会員の方々との交友は無意識の中に“友情”“訓練”“奉仕”のJC指標を根付けてくれると思われる。

故に率直の処JC会員として襟度の理念を抱く前に会員として満腔の謝する意を抱く所以である。

世界大会に出席致し、今更乍ら各国会員竝に全国会員が謙虚の中にもJC会員に寄託されておるその内外の期待が如何に大きいかという事も忘却致し得ぬ思い出である。

JCとはそして若さとは本当によいものだと痛感致し式典会場の席を立ち壇上を見上げると“友情”“訓練”“奉仕”の墨書は私達に呼びかけておるかに感じさせられ会場を退出した。
（5周年記念誌「思い出」より抜粋）

昭和40年4月　小松JC主管の北陸信越地区会員大会において藤田正一氏
病気のため代わって「優秀会員証」の褒賞をうける氏のお嬢さん。
昭和46年6月17日　藤田氏は逝去されました。

9代理事長
清水幸栄

1963

この年の主な事業には次のようなものがあった。

第7回北陸信越地区会員大会を厚生会館において開催。記念講演は富士銀行の紅林氏の経済講演であった。

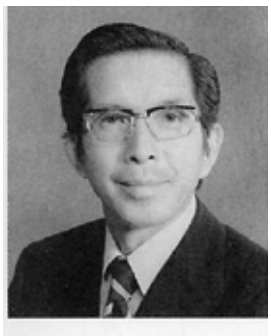
前年度より市民に好評の長岡市民珠算選手権大会を主催した。長岡祭りには市より35万円位の補助金を得て屋台をつくり仁和賀パレードをまかされる。このころより市民全員の祭りへの参加ということで太鼓をつくり、学区単位で競演することを提唱する。

高田青年会議所設立のスポンサーとなり、三条青年会議所設立の足がかりをつくり、それぞれ積極的な働きかけをおこなった。

又、長岡青年会議所内部に経営経済研究会を1人千円の基金を出し合って発足させた。
（20周年記念誌より抜粋）

38豪雪

長岡まつり



10代理事長
山内豊一

1964

“奉仕と友情”のJCが“社会奉仕”の時代に入るまでをつぶさに見てきたわけですが、青春を燃焼させて自己を磨きあげる。そんな仲間達の姿は社会情勢や価値観の変化に関係なく、いつの時代も同じであったような気がします。多くの仲間達と切磋琢磨し合いながら、自分を高めていくこの素晴らしさ！濃密な時間を共有したせいか、同じ釜の飯を食べた同胞という意識があるんです。いま振り返ると、飲んで騒いで議論したことばかりが思い出されます。まさにフレンドシップ&トレーニングで、委員会の後は「ときわ桜」で一杯やるのがお決まりのパターン。本来若造の行けるような料理屋ではなく、世間からはやっかみ中傷もありました。しかしその裏には「JCは将来の長岡をしょって立つ、俊秀に富んだ若者達の集まり。遊びにも品位を持つべき」という商工会議所駒形会頭の哲学があったわけです。

確かに当時のJCは真のメンバーシップを貫いていました。頭数より質ということで、たとえ推薦があっても4人に1人しか入れなかったんです。それだけに我々の中にも常に「JCバッジに恥じない品格と人間性を!」という思いがありました。私の理事長時代、メンバーは40人ほどだったでしょうか。活動の全体が見渡せて、自分のスタンスも把握できるいい人数です。組織が成長した今は、大きな事業を幅広く展開できるでしょうが、その反面活動がシステム化して、人間関係の在り方が希薄になっているんじゃないですか?我々の頃は上下関係を大切にする部分と無礼講でつき合える部分がうまく調和して、実に風通しが良かった。まさしくJCは「人間道場」であるとつくづく感じたものです。
（40周年記念誌より抜粋）

僻地の小学校慰問

新年会

11代理事長
中村義郎

1965

「戦争は終わった」と言われ、社会福祉がクローズアップされてきた頃です。日本JCも「福祉国家創るさきがけ果せ」というテーマを打ち出していましたが、各LOMの考え方とはかなりギャップがありました。まだそこまで組織が成長していないというのが本音でもありました。目標に対してどうアプローチすべきか？大きなとまどいがありましたが、常に意識を高く持ち、地域と密接に関わっていこうと話し合ったものです。折しもこの年は、長岡LOM10周年記念式典の年。奉仕の時代における新しい方向性をを探り、東京フィルハーモニーの演奏会、オリンピック体操選手の模範演技会などを開催しました。生のオーケストラなど滅多に聴けない時代。せっかくだから多くの市民に楽しんでもらおうと、昼夜2回公演を行い、昼の部では小学生を無料招待しました。当日は台風に見舞われながらも、大入りの満員の大盛況。社会福祉という大テーマにはまだまだ及べないものの、微力ながら市民の心に働きかけ、地域全体の意識向上とコミュニティを育むきっかけづくりができたのではないでしょうか。

JC運動には、40前には遊びと学びの時期。一生懸命充電して後の人生に生かせという説と、まち起こしは青年の仕事。若さとパワーのある時代にこそ社会のために頑張れという二つの考え方があります。いずれも真実でどちらがどういうことは言えませんが、一つはっきりしているのは、情熱を燃やした日々も人生の思い出もJC時代に集約されるということ。これは私だけじゃなく、JCで育った誰もが人生を振り返った時に感じることのようです。若さとは、つまり動詞形。結果を恐れず身体ごとぶつかったという自負は、皆さんのその後の人生に大きな実りを運んでくれることでしょう。
（40周年記念誌より抜粋）

創立10周年式典

オリンピック体操選手模範演技会
記念演奏会ポスター

12代理事長
松本健治

1966

私は41歳でJC卒業という例外記録を持っているんです。40歳の時に新潟ブロック協議会が発足して初代会長を努め、それで自動的に直前ブロック会長41歳まで在籍となったわけです。この大役は私にとっては大きな冒険でしたが、たとえ失敗してもチャンスを逃すよりは増しだろうとLOMの全面的な支援を得て出向したんです。全県下の友人とグローバルな活動の中で仲間との絆、信頼関係をより深めることができ現在もその交流は続いています。

当時はまだ、まちづくりや環境運動には無関心な時代で逆にはばかられるムードがありました。商工会議所の先輩達にも「社会開発」のテーマに「豪儀なことをいうじゃないか」とやられたもんです。しかし経済・人材ともに新潟に吸い上げられていく現状を見るにつけ、突破口を開きたいという思いが募っていったんです。それには長岡というより中越地区全体をマクロで捉える眼が必要だと思い、理事長時代に「中越は一つ」と題した討論会を開きました。地域連帯感をもってるかどうかのテストケースでしたが、十日町・小千谷・柏崎の各中越地区JCも、積極的な姿勢で広域連携に乗り出してくれました。そしてこの運動が翌年「新潟は一つ」の発想につながり、県内のLOMの心を結集できたのは喜ばしいことでした。

現在、叫ばれている「環日本海時代」の新潟のバックヤードとしての長岡は、そのスタンスにおいて何が基盤になるかを考え、ロケーションから街の在り方を探って欲しいと思います。抜群のアクセス。技大・造形大を都市形成にどう生かしていくかもポイント。私達の頃もそうだったように、いつの時代も若者は上を向いて絶えず前進で、外野の声にはメゲない図太い精神力で、大きな未来を語り合ってほしいと願っています。
（40周年記念誌より抜粋）

全国大会

忘年会

13代理事長
吉沢新平

1967

JCを社団法人に！そんな話がポツポツ出始めた頃です。長岡LOMが誕生して10年余り。組織が確立して社会の評価も得られるようになった今、今度は我々が中心となって県内LOMの組織化を図ろうということになりました。三条に続き糸魚川青年会議所のスポンサーJCとなり、設立をバックアップしたのがこの年。前年には十日町・小千谷・柏崎JCと手を結び、「中越は一つ」をテーマに討論会も開催しています。今のように事業主体ではなく、“みんなで仲良く楽しく”という世界でしたが、主体性をもって何かに取り組もうという気運が生まれていたことは事実です。ちょうどオリンピック景気が後退してリセッションの時代に入っていましたから、「ぬるま湯に浸かってばかりはいられない。脱皮していかなければ…」と、漠然たる思いを抱いたものです。

50人前後の団体ですから、まとまりは良かったです。全員が親戚づきあいのようなもので、夜の会合も今より多かったんじゃないですか?先輩・後輩の節度を守りながらも、同志的ないいお付き合いをさせていただきました。当時はLOM間交流も盛んで、委員会や役職など関係なく、広くいろんな方と友好の機会を持てました。長岡のスポンサーJCである東京とも密接な結びつきがありました。今思えば、“顔合わせ”こそがJC活動の原点であった時代。事業に肩肘張るよりも、個々の人間的な厚み・深みを増すことに情熱を燃やしていました。時代や社会背景によって、目指す未来も目的も違ってくるのがJCです。しかし多くの仲間を得、共に成長していこうとする基本スタンスはいつの時代も変わらないのではないか?そんな気がします。（40周年記念誌より抜粋）

地区会員大会

長岡まつり

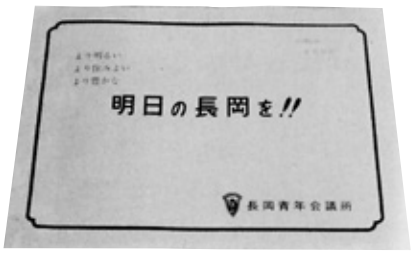
14代理事長
渡辺精一郎

1968

ケネディ暗殺、3億円事件などで社会が大きく揺らいでいたこの年。日本JCではLDか?CDか?そんな議論が起こり始めていました。会頭のあいさつなどでも「新しい」「変革」といった言葉が繰り返し語られるようになり、JCの在り方が問われている。そして社会そのものが大きな転機を迎えていると感じたものです。当時の長岡JCはまだまだ内部志向型といいますか、会員同志の自己トレーニングの場という意識が強かった様に思います。しかし日本JCの影響もあって、奉仕活動や社会貢献といった問題にも目が向き出したわけです。

そこでCD運動への布石をつくろうと、最初に実施したのが市民アンケートでした。「より明るい、より住みよい、より豊かな明日の長岡を!」というテーマでしたが、皆さんのふるさとに寄せる熱い思いや未来への願いがひしひしと伝わってきて、魂を揺さぶられるような感動を覚えたものです。商工会議所、あるいはロータリーやライオンズの先輩達から「次代の長岡を担う人材の輩出場所」として期待されていたJCでしたが、単なる経済人としてではなく、社会開発のリーダーとして郷土の発展に寄与していくことが我々の役割ではないかと、この調査を通じて痛感したわけです。委員長の安達さんはじめ会員諸兄にあは大変な労作をおかけしましたが、この時の意識改革が長岡JCに新たな方向性をもたらし、のちの悠久山や柿川運動といった一連の『まちづくり事業』につながっていったのではないでしょうか。
（40周年記念誌より抜粋）

忘年会



CDアンケートの成果

15代理事長
田村　厳

1969

織維問屋を中心とした商業が隆盛を誇っていた頃。時代を反映して、JCメンバーも流通業者が多かったです。いわゆる“あんさま方の仲良しクラブ”的な色合いが濃く、「こんなサロン然とした空気でいいのか?」「いや、カラを破るべきだ」と皆で話しあったものです。前年度に社会開発計画の市民アンケートを実施したこともあり、外に対しての目が開かれつつあったんです。ただ、まだ方法論を見つけ出せず、暗中模索の中にいたというのが正直なところです。とりあえずは体が資本、精神&肉体を鍛えようと「自衛隊体験入隊」を実施したりしました。結局この年は対外的に華々しい活動というのはなかったんですが、内部組織の団結という意味では充実した一年だったと思います。15周年式典を次年度に控えていたこともあり、各委員会がガッチリとスクラムを組み、非常に熱心に活動してくれました。

JCの素晴らしいところは、全員が一兵卒だということ。社会的にいかなる立場であろうと、企業でどんな役職についていようと、ここに来れば関係ないんです。お山の大将が初めて大海に出て、今まで自分がいかに狭い世界で生きていたかを知る、そこに意味があるんです。仕事がらみの関係では得られない、腹を割った人間づき合いができるのもJCです。ですから今の若い方々にも、よく遊びよく学び、積極的に異業種交流を楽しんでいただきたいです。使ったお金とエネルギーの何倍・何十倍もの“人生”が、ここで得られるはずです。
（40周年記念誌より抜粋）

自衛隊体験入隊

16代理事長
高野隆輔

1970

1970年、日本JCの会頭を初めとしてJC会員全員が、よく使った詞に「激動の70年代」という言葉があった。その詞を使い乍らも、後のオイルショックを予想した会員が幾人あったであろうか?

前年度から既に決定されていた北陸信越地区会員大会、長岡青年会議所創立15周年の準備が「激動の70年代」の詞の中に始まったのである。歴代の理事長がそうであったように、連日連夜、彼地此地に駆り出される。新年早々から長岡JC全体の気分が盛りあがる。それが次第に、当時の会員自体、全生命を賭けて準備を始める事となったのである。その為か、この年から副理事長3名制を採用させていただいたのも私であった。

就中、北陸信越地区の会員全体の準備のために実行委員長を中村義郎先輩にお願いする。全員この時に当たって諸事百般をこなした時のチームワークたるや長岡JCの圧観でもあった。折りしも、長岡商工会議所の改築もあって事務局の移転をやむなきに至ったとはいうものの、その混乱をよく克服されて1600余名の地区内外JC会員を迎えて、この大会を大成功の裡に終始された会員諸兄の御努力に、今更乍ら、深甚なる感謝を致す次第である。

理事長時代の最大の想い出といえば、私にとって矢張りこの地区大会である。時の地区協議会長の大坂春松先輩の所信表明に、曰く、「何もいうことはない。只、健康に充分留意の上、企業活動にJC活動に活躍して欲しい。」毎年、幾人かの会員が空しく世を去る中に、その一言は今にも通じる一つの大きな教訓ではないかと思うし、印象に残さざるを得ない言葉ではなかったかと考える。

いずれにせよ、当時、私の理事長職が無事に務められたのは、会員の先輩、後輩諸兄の絶大な御協力、長岡商工会議所の会頭をはじめ関係者の暖かい御理解があった事は忘れられない事でもある。それだけではない。日本JCに出向された、横山、山田、伊佐の諸兄中村義郎先輩、鷲尾、笠井、渡辺の諸兄をはじめ、当時の会員全員に、多大な御迷惑をお掛けした事をお詫びすると共に、改めて深甚な感謝と敬意を長岡JC創立20周年の場を借りて致すものであります。

貧者の一灯ともいわれかねないが、創立15周年を記念して、長岡商工会議所改築基金を贈呈申し上げた時の感激された山口一郎会頭の御挨拶が、矢張り大きな印象の一つでもある。
（20周年記念誌より抜粋）

15周年記念式典

地区会員大会
シンボルマーク

地区大会の華
コンパニオン勢揃い

17代理事長
横山陽輔

1971

日本の第一の開国は黒船が襲来して明治維新をもたらした幕末。第二の開国は第二次対戦で敗北した時期、そして高度成長期を経て経済大国に成長したが、東西の壁が破れ世界がボーダーレス化した今、第三の開国を迫られています。この激動の時代をどうみるか、JCの若い皆さんにお聞きしたいですね。歴史の大きな流れはすべて原因があっての結果です。日本が世界とどう共生していくか問われている時代だと思います。

本年度JC創設40周年の節目を迎えられたことは慶びであると同時に新しい時代に向かって、市民から大きな期待を寄せられていることの責任の重大さを皆さんは痛感されておられると思います。

私の理事長時代は昔から市民に親しまれてきた「お山」を再発見しようと「悠久山、自然と文明の記録」を出版しました。調査と研究のなかで多くの先人の教訓を学ぶことができました。戊辰戦争によって灰じんと化した長岡を見事復興させた、当時齢60を超えた人々が、令終会（人生の終わりを全うする意）を結成して、余生を社会に還元したいと、郷土の為今日の悠久山公園を大正年間に完成させ、市民の「心のふるさと」として自然環境の重要性や長岡に脈々として流れている思想のシンボルとして歴史公園を造ったことです。

長岡のまちづくりの理念は「個性豊かな国際文化都市」です。地域の独創性を生かし世界の直詰できることですが、市民生活の重視、経済の活性化、環境破壊や精神破壊等未踏の課題が山積しております。時代の新たなる要請に向かって、皆さんが長岡の土壌を掘り起こし、本質を据えた活動を期待して止みません。（40周年記念誌から抜粋）

安達瞳子さんを囲んで

大運動会

18代理事長
大原久治

1972

理論武装だけのJC活動だけではダメ。社会に向けて具体的アクションを起こしていこうと、悠久山の環境保護運動を計画しました。当時は水俣病、イタイイタイ病などの公害問題が深刻化していた時代。美しい自然を自分達の手で守り育てようとする運動は、社会背景的にも時機を得ていたんですよ。

まずは悠久山の持つ意味と現実を市民の皆さんに知ってもらおうと、積極的なPR活動を展開しました。冊子配布にチラシ折込、ゴミ拾い、学校巡回公演会など、知恵と足を使って長岡中歩き回りましたよ。努力の甲斐あって世論が動き、行政の協力も得やすくなってきた。ところが、いよいよこれからというところで問題が生じてしまったんですね。我々としては、JCの運動あくまで“きっかけづくり”。これを契機に市民主体の協議団体へ発展してくれることを願ったのですが、だれが責任者となってまとめていくのか?この辺りでで行き詰まってしまったわけです。事業の締めくくりには「悠久山を守る市民大会」を開催。奈良薬師寺管長・高田好胤師から講演を賜り、小林長岡市長はじめ多くの方々に壇上で論陣をはっていただきました。こうして盛況のうちに悠久山運動の幕は閉じたのですが、私の胸中には本来の目的を成し得なかった無念さ、挫折感もありまして、ホロ苦い感慨を覚えたものです。とはいえ、メンバーの力を集中させれば塊としての強さが生まれ、勇気と情熱を持って取り組めば不可能を可能にすることもできる。そう確信できた一年でもありました。多くの友人に支えられ。励まされ、共に喜びを分かち合ったJC時代。私にとっては青春の大切な財産ですね。
（40周年記念誌より抜粋）

悠久山運動

19代理事長
山田　昇

1973

昭和48年度は、高度経済成長がその極に達した年であった。折りからの列島改造ブームは日本各地を席捲し、GNP世界第2位という事実は日本国民の勤勉さを世界に認識させるに充分であった。しかし、同時に経済成長に酔いしれた国民が物質的なものから精神的なものへと感覚的に変化を求められる時代でもあった。当会議所は、その数年前から社会開発運動に手を染め、悠久山問題と取り組んでいた。悠久山の調査に始まって、その愛護運動に乗り出した時、漸く市民の間に青年会議所の存在が認識されだしてきた。Jayceeの連帯感も徐々に深まってきた時であった。

この年、私は2つの目的設定を試みた。

1つは、内部的なあり方として、メンバーの質並びに量の拡大に着手した。この為、当時の経営者や、その二世といわれる者だけでなく、銀行とか大手会社に勤務する優秀な人材を発掘し、仲間に迎えることにした。その結果、メンバーも100名を超えるに至った。このことは、市民の理解や諸先輩の刻して来られた素地のたまものに他ならず、深く感謝申し上げます。

2つは、外部的な事業として、年来の懸案であったJCスクールを実施した。この実施に当たっては、メンバーの献身的な努力を余儀なくさせた。お蔭様で、会場の選定から募集、講師の依頼等、煩雑な業務を消化することが出来た3泊4日、全員が坂之上小学校の会場に泊まり込み、受講生と生活を共にしたことも、青少年との連帯の絆が芽生えた様に思う。JCスクールも今年で3年目を迎えたが、当時を思い出す度にメンバーの努力に対する感謝の念が沸いて来る。

今、青年会議所運動は、その帆をどこに向けて帆走するかを問われている。しかし、メンバー一丸となって事に当たるなら、順風満帆の航路を決定づけられることを確信して止まない。私は、それを理事長時代に学んだように思う。（20周年記念誌より抜粋）

若人の日

JCスクール

20代理事長
原　信一

1974

誰の心にもある“ふるさと”。しかし都市化が進み、急速に近代社会が形成されていく中で、長岡らしさを伝える風物も次第に姿を消しつつあります。このままでは人々の郷愁への思いも希薄になってしまうのではないか?この街の歴史と伝統を、自分達の手で未来に伝えていこう。その思いが「長岡まつり」昼行事の復活という大きな目標を生んだのです。

今は盛大なこの祭りも、当時はメインは花火だけ。昼行事が長らく途絶え、子供達のふるさと体験、思い出作りの場が全くなかったんですね。そこでJCが音頭をとって、「子供みこしに参加を!」と呼びかけたわけです。学区・町内会を手分けして回りましたが、地道で根気のいる仕事でした。簡単に賛同得られると思ったら大間違い。「日射病にでもなったらどうするんだ?」等安全性を懸念する声も多く、皆さんに気持ちよく承諾していただけるまでには山あり谷ありでした。しかしこの経験によって、屈せず体当たりでぶつかることの意義を知ったというのでしょうか。最終的には街ぐるみの運動に発展し、たるみこしをはじめ悠久太鼓。我楽苦多市、怪獣・ラクガキ大会、ふるさと絵画展と、想像以上に賑やかで華やかな昼行事が実現したのです。子供達の真摯な眼差しと無邪気な笑顔にふれた喜び。そして汗と熱気の中で感じた人々との連帯感・共生感は、今も鮮やかに脳裏に焼きついています。振り返れば長岡まつり以外にも、市内の散歩コースづくりや市民参加のふるさと散歩、長年の悲願であった悠久山の桜の植樹などを行い、本格的な社会開発に取り組んだ一年でした。微力ながら市民と行政を結ぶパイプ役となり、地域に密着した“ふるさと運動”を展開できたのではないでしょうか。（40周年記念誌より抜粋）

ふるさと散歩

長岡祭悠久太鼓

大運動会

21代理事長
伊佐昌三

1975

一昨年起こったオイルショックの影響をモロに受けていた時期。不況と狂乱物価のさ中に、長岡JCは20周年を迎えたわけです。当時は“何周年”“記念イベント”的なものが流行っていましたが、LOM内部には自然と自粛ムードが漂っていました。エゴを捨てて物と心の調和を図り、共生の精神で生きよう。価値観が大きく変化して、表面的なものから本質的なものへ視点が移っていったんです。ただ社会も人の心もすさんでいましたから、沈滞ムードを吹き飛ばし明るさを吹き込もうと、川上元巨人軍監督の野球教室、JOC岡野氏のサッカー教室を開催したんです。

少年達のロマンの象徴である野球と、時代の最先端スポーツ・サッカー。この夢の顔合わせは大変喜ばれ、街中の話題になりました。他LOMもこぞって真似をし、スポーツ事業に流行を生んだほどです。サッカーは当時、地方ではまだまだ認識の低いスポーツだったんですが、この後急速に人気が高まり、のちのJCカップなどにつながっていったんです。

また子供達には芸術文化に触れる機会も与えてあげたいと思い、劇団四季の公演会を催しました。地域の皆さんと心身両面からスキンシップを図れたことで、組織のムードもほのぼのと活性化しました。JCマンは時には市民のリーダーとして自分を過信してしまう嫌いがあります。しかし地域社会の皆さんの温かい心に支えられて、今日の自分達があるわけです。いつの時代もJCの仕事は、事業のための事業ではなく、感謝の気持ちを還元するための事業であってほしいと願います。
（40周年記念誌より抜粋）

創立20周年記念

川上哲治氏野球教室

菅原洋一コンサート

22代理事長
町田栄二

1976

私がJCに入会したのは1968年。その当時50人だったメンバーが理事長時代には100人を超え、あらゆる業種の青年を包括する大組織に成長していました。長らく内から外へという動きが続いていましたので、この辺りで一度外から内に戻り、これからの指針を探ってみたい。客観的に活動の見直しを図り、手綱を締め直したいと思いました。いくらCDの時代といっても、一人ひとりが優れた人間性と見識、トータルな指導力を持っていなければ社会に対して問題提起などできませんから。私達は常に個人の修練が基本であるという原点を忘れてはならないのではと考えました。

そんなわけでこの年は「会員・経営の開発」を重点に、総合的な人づくり、資質向上に力を尽くしました。一年間のロングランに渡っての経営開発講座、経営シンポジウム、3回のセミナー全てが深夜まで及んだLD道場…。メンバー全員がJC活動の“ターニング・ポイント”を自覚し、積極的な自己研鑽に努めてくれた一年でした。ここでの踏ん張りが悲願であった法人格取得を実現し、褒章受賞等で「リーダー養成の長岡」と評価される礎をつくったのではないかと思います。

こういう場面では理事長ばかりが表舞台に立たされますが、私は会員の皆さんの励まされ、助けられ、神輿の上に乗っただけ。一致団結の精神で地道な努力を実らせた仲間たちに、感謝 のエールを贈ります。
（40周年記念誌より抜粋）

JCスクール

吉本晴彦氏講演

23代理事長
渡邊瀧一郎

1977

高度経済成長の余波を受けて、長岡JCもノリにのっていた時代です。何事にも当たって砕けろの精神で、「恥をかくのも30代」が合言葉。誰もが上昇志向に燃えていました。努力は必ず報われる、ただしアクションを起こさなければ何も生まれない。そういう社会全体のムードもあるんでしょうが、創業者タイプというフロンティア精神の富んだ者が実に多かった。みんな豪放で個性的でした。ただ、まだまだローカル色が強く、"田舎のオヤジ"的発想から脱却できない一面がありました。それで「これからは情報の時代だ、長岡だけじゃなく全国へ目を向けよう」と提案したわけです。毎年日本JCへは3名割り当てて出向していたんですが、この年は会員の一割に当たる10人ものメンバーを輩出しました。全国の仲間と人脈作りをし、いろんな情報を吸収する。それが自己開発の第一歩ですから、出向者には「遊んでこいよ」と送り出したものです。

LOM内部の事業としては、長岡まつりで企業・子供みこしの参加を呼びかけて盛りあげ、市民行事として認識を高めたこと。それから長年の懸案であった社団法人としての設立を決定したことなどが思い出されます。JCは40歳という年齢制限があるからこそ、夢とロマンをもって燃焼し尽くせる。そして組織も常に新陳代謝をして若返り、活性化していくところが素晴らしいんです。若気の至り、大いに結構じゃないですか。後輩の皆さんには結果を恐れず、貪欲に、全力投球で青春にチャレンジしていただきたい。
（40周年記念誌より抜粋）

悠久山清掃

JCスクール

ブロック野球大会

24代理事長
伊丹敏彦

1978

JCの卒業は、すなわち青春時代の終わりを意味します。誰もがそうであるように、私も中年の枠に入った自分を初めて実感し、寂漠たる思いにかられたものです。裏を返せば、それだけJCで過ごした日々は熱く激しく豊かであったということ、クセの強いエネルギッシュな連中ばかりですから"出る杭は打たれる"くらいでないと皆のパワーに負けてしまう。またそういう環境の中で自分を磨き、高め、主張する強さを体得していく事が大切なんです。

この年の特筆事項は、経営開発で褒章申請し、見事最優秀賞を受賞したこと。当時は政治関与はタブーで、あくまで経済人の立場から自己修練し、社会に問題提起してくというスタンスだったんです。メインの事業は6回シリーズの市民経済大学。駒形十吉氏・内山吉蔵氏・永井敦夫氏など長岡経済界の重鎮を講師に招いたことが大反響を呼びました。「地場に即したセミナー」として広く市民の皆さんから共感をいただいたこと、そして他LOMからも高い評価を得たことで、我々の中に大きな自信が生まれました。もう一つ意義があったと感じるのは、長岡まつりにおけるPR作戦。行事は年々拡大していくものの、「なぜ、この祭りが始まったのか?」については全く語られていなかったんです。そこで「発祥の由来」のチラシを作り、市民の皆さんに配布・アピールしました。この運動で初めて、人々の間に戦災の復興祭でもあるという認識ができて、祭に対する共鳴度も高まっていったんです。要は、発想、着眼点だと思うんです。一市民の立場で社会の訴求を捉えて、それを若者のバイタリティーで具現化していくということ。タイミングとキャスティングが相俟った、実に楽しくパワフルな一年だったと思います。（40周年記念誌より抜粋）

米百俵御輿

JC市民経営スクール
邸永漢氏講演

25代理事長
栃倉恒栄

1979

8年間に及ぶ悠久山運動に別れを告げたのがこの年です。市民の間にも自然保護・環境美化意識が高まってきたこと、そして清掃などを行う民間団体が増えてきたことにより、私達の任務はおわったという結論に至ったわけです。JCの蒔いた種が、多くの市民によって育てられていく…。悠久山運動はまさしく、私達が目指すところのリーダーシップ&ディベロップメントを実践した有意義な活動だったといえるでしょう。

理事長時代を思い起こせば、対外的な事業よりLOM内部の充実に尽力した一年でした。社会全体が“財布と心のヒモを締め直そう”というムードにあり、長岡JCも予算を落とし、年会費を上げる「緊縮財政」の中でスタートしたんです。重点を置いたのは経営開発・指導力開発の分野。JCスクールをはじめLD道場・青年農業士との交流会、長岡ニュータウン研究、KJセミナーなど、色々と勉強させていただきました。私達の頃のJCは、1に修練、2に友情で、奉仕は3番目だったんです。青年たるもの、まず自己を磨いて鍛錬せよというわけですが、私は今の若い方々にもその考え方を大事にしていただきたいと思います。JCは40歳卒業と上限があるように、あくまで出発点。将来へ伸びるための準備期間です。ここでどんな出会いをし、何を学んだかが問われるのであって、何を成し得たかはその後の人生だと思うんです。乱暴な言い方ですが、社会奉仕は他にも色々な団体があると言うことです。JCでの勉強期間一人間としての基礎づくりに励む時間が、将来、本当の意味で社会のお役に立てる自分を育ててくれるんじゃないでしょうか。
（40周年記念誌より抜粋）

長岡ニュータウンについての市民アンケート

長岡まつり

26代理事長
髙頭正毅

1980

「飲むは団結なり」が私の哲学。会議は短く親睦は長く、すべての前提は人間関係にあるという考え方で、コミュニケーションの促進に努めたものです。損得勘定の介入しないJCは、人づきあいを学び心の交流を育てるには絶好の舞台。昼食をとりながらのスタッフ会議、ご夫人同伴の委員会を始めたのもこの頃です。やはり家族の協力あってのJC活動。日頃の内助の功に感謝し、より深い理解を願ったわけです。しかしながら当時の私はやもめの身で、理事長の隣だけが空席という寂しい有り様。当てられっぱなしの一年でした。25周年という節目の年でしたが、親睦の中で育まれた信頼関係、組織力は記念事業にも大いに発揮されたと思います。

企業体ではできないことをやれるのがJCの醍醐味。採算ベースで物事を捉えるのはやめて、奉仕の精神で市民に喜ばれる事業をやろう!と一致団結しました。目玉は地域文化の見直し、発見をテーマにした「伝統芸能の集い」。綾子舞、佐渡おけさなど県内15、6の芸能団体にボランティア参加していただき、市民の皆さんに無料開放しました。これには収容人数をはるかに超える市民が集まり、大反響を呼びましたね。また徳田虎雄氏の講演会や健康ウォーク、8000人もの子供を集めてNHKラジオ体操を陸上競技場で開催したりもしました。いずれも予想以上の盛りあがりで、私たちの方がビックリさせられたくらい。気は心といいますが、やはり人間、誠意と熱意が大切です。みんなでこの街を育てよう、豊かな人づくりをしよう。そういう私たちの気持ちが、市民の皆さんにも通じたんだと思うんです。冒頭でも述べたように、すべての前提は人間関係にあるということ。打ち上げに飲んだお酒も、格別のうまさでした。（40周年記念誌より抜粋）

創立25周年記念式典

特別巡回ラジオ体操

27代理事長
原　康彦

1981

“南魚沼にJCの灯を!”と、「雪国青年会議所」を設立したのがこの年でした。雪国の心・越後文化の中枢ともいえる地に人の輪を育み、広域的な連携を図りたいと願う私たちの思い。そしてJC活動に共鳴し、「より深く地域に根ざした社会運動に取り組みたい」と望む青年達の積極的参画により、呼びかけからわずか一年で日本JC加入承認を得られたのは大変喜ばしいことでした。一方、LOM内部では25周年事業で注目を集めた“伝統芸能”を、より発展的に育てていこうと「ニューカルチャー特別委員会」を新設しました。鈴木圭介委員長の類いまれなリーダーシップのもと、「長岡弁考」「悠久山薪能」という2大事業を見事成功させたことは、新聞等でも華々しく紹介されたものです。台風の影響で一日順延となる不測の事態を招いたものの、1,600名を越す市民が集う盛況ぶり。郷土文化を改めて見直すとともに、新たなる価値の創造、伝統を未来に受け継いでいくことの意義を痛感したものです。

しかしながら単年度制のJC活動は深く掘り下げることが難しく、途中で終わってしまうというデメリットがあります。またその逆に継承事業を長く続けていく目的意識が薄らぎ、マンネリ化してしまいます。“社会大学”といわれるJCも、自分達のしっかりしたアイデンティティがないと形だけの活動になり、流されてしまうということ。JCの存在価値と事業の存続価値について 常に問いかけて洗い直しを図り、何事にも新しい気持ちでぶつかっていただきたいと思います。

（40周年記念誌より抜粋）

薪能

健康ウォーク

28代理事長
長谷川道郎

1982

JCは常に新しい創造を目指し、運動展開してゆくものだと確信し、積極的な事業展開を推進する“イベント年間”としました。思い起こせば、我ながら破天荒なまでにビッグな事業の連続。前年度から取り組んできた雪国JCの設立に始まり、ソウル江南との姉妹JC締結、長岡まつりでは初のミスコン&チャリティー寄席を導入し、長岡駅にタイムカプセル2012号を設置等々、メンバーから「やりすぎ」の声が上がるほどで、とにかく多忙な一年でした。しかし事業はすべて各委員会に一任していたので、私自身はレールに乗っただけという感じでした。前年度、各委員長に「自由な発想で好き勝手にやってください」とお願いし、成功すれば全部理事長のお手柄、失敗したら全部委員長の責任ですよとクギを指しておいたんです。やはり私の 経験からいっても、とやかく細かく指示されるより、まるごと任された方 がやりやすいです。

実際、皆さんよく頑張ってくれました。JCは理論武装といえば聞こえはいいですが、悪くいえば屁理屈に凝り固まってしまう一面を持っています。そういった意味でこの年は、自由闊達なムードの中で決断力・実行力をフルに発揮されたのではないでしょうか。JCも組織の量的拡大が必ずしもパワーとして結集されず組織維持だけを目的とした官僚化傾向も見受けられました。

目的と手段を混同し、目的がなんであったのかを見失ってしまった主張や提起した問題に対し「そんなことは前例に無い」と反対をされた事に対して妥協できなかったり、「前例が無いからこそやるのがJCだ」と反撃した若き日を懐かしく思いつつも、その精神はいつまでもJCのチャレンジ精神 であって欲しいと考えます。 （40周年記念誌より抜粋）

タイムカプセル2012

古典落語の夕べ

29代理事長
岸　洋助

1983

上越新幹線、高速自動車道の全面開通を目前にした1983年。長岡に「地方の時代」が来るのか?それとも「ストロー現象」で東京集局化が進むのか?街全体が大きく揺れ動いていた年でした。大手企業や大型店の進出もあり、長岡が存在意識を失くし、メリットを中央に吸い上げられてしまうのではないかという危機感があったわけです。JCは単年度制ですが、このサバイバル時代には長期的展望に立った実のある企画を事業化していく必要があると思いました。

そこで「長期対策委員会」の活動に重点を置き、JC運動の在り方を歴代理事長に講義していただいたり、地域戦略をテーマに市民カレッジ（3回シリーズ）を開催したりしました。JCが青年経済人の集まりであるならば、地域の都市・経済問題は素通りできない課題。長岡の生き残り作戦を考える上で、実にいい勉強になりました。そしてもう一つの事業の柱「青少年の健全育成」は、ここ数年間の調査・分析・啓豪により、2泊3日のファミリーキャンプという実践の舞台へ移行することができました。野外活動を通して親子間のスキンシップを図るものですが、外国からの留学生も集い、一躍国際交流イベントとしても話題を集めたんです。交流という意味では、柿川運動も大きな展開をみせました。「街の中にも緑と水を」という8mm映画からスタートし、「柿川の歌」ができたり、桜を植樹したり、シンポジウムを開いたり。行政や他の民間団体と連携しながら、後の緑化公園化（1984年春）に発展していくわけですが、時間×金＋情熱のJCエネルギーが、素晴らしい形で花開いたと思います。
（40周年記念誌より抜粋）

山菜共和国

カルチャー教室 食文化

30代理事長
樋熊隆治

1984

創立30周年へのカウントダウンが始まったこの年。私は市民・行政理解を得ること、組織の結束強化を2つの柱に揚げました。まず、政治はタブーという慣例を打破。市の選挙ではLOMをあげて応援活動を展開し、豊かな社会づくりを訴えました。その結果、市の「新長岡発展計画」に多くのJCメンバーを輩出するなど、労働奉仕だけではない新しいJC像をアピールできました。また室制を導入し、拡大一途にあるLOMのより円滑な組織運営を図りました。私は運とツキに恵まれて卒業年には日本JC副会頭という大役を務めさせていただきましたが、そこで得た人脈・理念・行動学はほかでは決して学ぶことのできない財産です。年間260日の出張、うち90日が海外というハードスケジュール。しかし新宣言文の策定や青年の船、太平洋ミッション・・・etcと貴重な体験の連続で、心地よい緊張感の中、充実した日々を過ごすことができました。

ポストは狙って取れるものじゃありませんが、上昇志向をもってチャンスにくらいついてほしいと思います。JCとは志を共にする異業種の人間が、事業・委員会という共通目標の中で切磋琢磨し合い、人間関係を深めていく場です。昔と今では社会状況も価値観も全く違いますが、与えられた機会にベストを尽くせ。自分を賭けてみろと言いたいです。たとえば壁に向かって力強い直球を投げると、球も勢いよく帰ってくる。しかし小手先で投げたのでは、球もひねって変化してしまう。JC活動もこれと一緒で、やればやっただけのものが帰ってくるし、怠けていればそれなりのものしか掴めないんです。全ては自分のヤル気次第。学歴も会社の規模も関係ない真の実力主義に、ぜひ真正面からぶつかってみてください。
（40周年記念誌より抜粋）

史跡パネルの設置

ブロック会員大会

31代理事長
七里貞雄

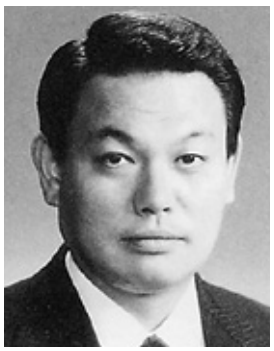
1985

「国際青年年」に長岡JCが創立30周年を迎えるという巡り合わせ。JC活動を原点に返って考えるとともに、自分達がJCを通じて地域社会のためにできることは何だろう?国や世界にどう貢献していけるのか?そんなことを模索し続けた1年でした。ちょうど物質文明が見直され、心の豊かさ・精神的充足感を大切にして生きようということが盛んに叫ばれていた時代。社会構造と価値観が大きく変化する中で、長岡JCの活動も転換期を迎えていました。

30周年の記念事業には社会的・文化的意義の高いものを選びましたが、それは外への働きかけであると同時に、内なるJCへの問いかけでもありました。イベントにチャリティを抱き合わせ、文化と福祉をドッキングさせた形で社会開発運動を推進。黒柳徹子文化講演会、チャリティ寄席の浄財を基に、念願であった青少年健全育成のための「米百俵基金」を設立しました。その一方でアフリカ難民救済のために物資を送るなど、JC活動の新しい方向性を探ってみました。またこの年はまちづくり事業の柱「柿川運動」の集大成の年でもあり、日本JC褒賞申請(地区大会で最優秀賞)と県の自治活動賞をW受賞しました。地道な粘り強い活動が評価され、大きく実を結んだことに感慨もひとしおでした。やはりJCの仕事は、イベント屋の打ち上げ花火だけではなく、地に足をしっかりとつけて、地域に根差した活動で社会・人々と密接に関わっていかないと。人の心に響く事業というのは、そういう中から生まれてくるものだと思います。21世紀へ向けて、長岡JCに寄せられる期待は大きい。
(40周年記念誌より抜粋)

創立30周年記念式典

第1回柿川クリーン作戦



32代理事長
青木　章

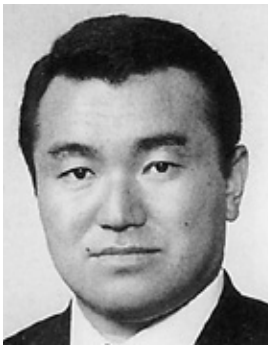
1986

長岡JCが創設され30年余。会員数200名を超える大組織に成長し、新潟ブロック協議会より会員拡大優秀賞を受賞したのがこの年でした。LOMの大黒柱である団塊世代が卒業間近ということもあり、長期的展望からの組織固めという若いリーダー養成が急務とされていたわけです。いかにも平和な時代らしい「面倒な仕事は引き受けたくない」という安穏体質にカツを入れたいという思いも強かったのです。ちょうど各種大会・会議の多い年でしたから、アジコン・全国大会・世界会議など多くのメンバーに参加していただきました。また日本JCはじめ市政80周年事業委員会などへの出向者もLOMをあげてバックアップしました。外へ出ることで視野が広がり、自分が、長岡LOMが、長岡という街が客観的に見えてくるでしょう。そこで多くの人と出会い、友情の和を広げていくことがイコール自己啓発、人間開発なのだと、身をもって体験 できるわけです。

LOMの大きな仕事としては、『第16回新潟ブロック会員大会』がありました。2日間開催は初の試みでしたが、ここにもメンバーの士気を高めて意識改革を!　そして長岡の街に活気を運ぼう!　という狙いがあったんです。幸いにも七里新潟ブロック副会長、長谷川博会員拡大特別委員長等の優れたリーダーシップにより、独自の企画・実行力が評価された素晴らしい大会になりました。より密接なLOM間交流を目指した「LOMナイト」「委員会ナイト」。一般参加者も募った三笠宮寛仁親王殿下の講演会など、どれもこれも懐かしい思い出です。メンバー一丸となって取り組んだ事業を、広く市民の皆さんにもアピールできた喜び!一年間を燃焼し尽くした、清清しい思いがありました。　(40周年記念誌より抜粋)

ブロック会員大会

ブロック会員大会講演



33代理事長
瀧川伸夫

1987

私の生まれた年、1949年の9月3日…東京青年会議所は、48名の同志でスタートしました。その設立から8年足らずで世界会議を誘致し、大成功をおさめるとは!先輩諸氏の強靭な精神力とスピードは、まさに若者の英知・勇気・情熱の結晶といえるでしょう。長岡JCが産声をあげたのは、1954年。私で33代になります。1987年、我々は創始の精神を再確認して行動するJCを目指そうと、「Do it now」を合い言葉に結束しました。青年にはいつの時代にも世の中に波紋を起こしていけるような、熱くパワフルな行動力が必要なんですよ。

LOMの看板事業であり、私にとっても一大テーマだった長岡まつり。5年前、お祭り委員長を務めた時にミスコン&昼事業の拡大を図ったこともあり、1987年は前夜祭にスポットを当て、祭りをトータルに盛り上げました。1,000名ほどの一般参加者を募り、夜宵神輿で大ハッスル。宮出し・宮入りの儀から慰労会まで、コミュニティの輪を深めながら完全燃焼しました。やはり祭りは、みんなで楽しむことが基本。あまり優等生ぶらないで、パフォーマンス効果も狙ってみよう。観光的な要素を組み込み、外来遊客の役割を担おう。そんな気持ちもあったんです。またこの年は名古屋の世界会議をはじめ、ハワイホノルルやソウル江南JCの訪問、逆に長岡への来訪と、国際交流のチャンスにも恵まれた年でした。海の彼方のフレッシュで力強い風。これに吹かれると、「井の中の蛙であってはいけない」と、自然に意識改革されるものなんです。地域の、日本の、世界の将来を考え、その上で今我々は何をすべきか考えることが大切。大変な時代ではありますが、気負わず臆せず構えず。青年としての気概をもって地域づくりに取り組んでいただきたいと願います。　(40周年記念誌より抜粋)

ハワイホノルルJC長岡訪問

長岡祭武者行列

34代理事長
長谷川　博

1988

1988年のエポックは、なんといっても樋熊日本JC副会頭、瀧川JCI関係連絡会議議長とうい2名の役員を輩出したことです。長岡LOMの活力が認められ、将来を期待されての大抜擢。それはまた諸先輩方が築かれた歴史と伝統、功績の大きさを如実に物語る出来事でした。大舞台での両君の活躍は実に頼もしく、LOMをあげてのバックアップにより、メンバー全員が貴重かつ幸運な体験ができたのではないでしょうか。そしてこの栄誉に恥じない組織づくりをしようとする気持ちが、浮足立った心を戒めてくれたと思います。

当時は国際社会におけるJCの役割が高まっていた頃で、3月にハワイホノルルJC、6月にソウル江南JCを訪問。5月にアジコンで香港マカオ、10月は世界大会でオーストラリアシドニーと、大空を飛び回った一年でもありました。こういった活動には華々しいイメージがあり、確かに多彩な民族交流はそれだけで楽しく実りも多いものです。しかし、もう一歩突っ込んで世界の今を直視し、現実と向き合った上で国際交流の在り方を考える。そういうシビアなステージとしての認識が大切だと思います。LOM内部では“光と夢のシンフォニー”と題して、駅前広場にイルミネーションを設置しました。雪国の暗いイメージを払拭する目的でしたが、これなども開かれた地域社会を目指そうとする表れなんです。よく昔の仲間と「もしもJCに入ってなかったら…」という話をするんですが、同業者ばかりのクローズな世界で、視野の狭き生き方をしていたと思うんです。オープンな心で社会を見つめ、自己開発・まちづくりの夢にチャレンジしていけるのがJCの魅力。その過程で大きな自信を得た時、JC活動の有難さを心から実感できるでしょう。
(40周年記念誌より抜粋)

京都会議

副会頭樋熊隆治君

全国大会(高知)

35代理事長
上村寛男

1989

昭和天皇のご崩御で幕を開けた1989年。新時代の始まりを暗示するかのように、我が長岡では越後丘陵国営公園、スペースネオトピア計画などの未来プロジェクトが着々と進められていました。長岡JCにおいても団塊世代のメンバーがごっそり抜けて、こんなところにも“昭和の終わり”を実感したものです。これからは次代の人づくりがテーマ。情報社会に対応したトレーニング環境をつくろうと、人材シンクタンク、新入会員オリエンテーションの充実拡大、パソコン及びパフォーマンスセミナーなどを企画しました。

長岡まつりで初めて「米百俵みこし」を登場させたのもこの年。担ぐと面白い、しかし見ている分には飽きてしまうのが祭りです。それなら神輿そのものを演出して、見物客にも臨場感を味わってもらおうと思ったのです。ところが突然の集中豪雨で神輿にストップがかかってしまった。JCが全面的に責任を持つということで強行したのですが、なんと5分もしないうちに空が晴れ上がるじゃないですか。我々の念力が通じたのだと思いました。力の結集こそが祭りの本質、そしてすべての基本です。これからは若者層を巻き込み、そこから灯がついていくような事業を考えるべきです。それにはまず、JCの青年諸君が熱くなることです。今の若い人はすべての物事に対して希薄で、直面を避ける傾向にあります。しかし仕事もJCも始めたからには逃げていてはダメ。目標認識・役割意識をもって、夢の実現に立ち向かっていただきたいと思います。そういう意味において、単年度制はフェアでいいですね。OBモノ申すなの伝統も、伸び伸びやれていいじゃないですか。オヤジの発想ではない、若者発の新しいまちづくりに期待しています。
（40周年記念誌より抜粋）

ファミリーソフトボール

全国大会（長崎）

忘年会

36代理事長
吉田　勉

1990

1990年の日本はバブル経済の絶頂期。しかし世界を見渡せば、統一ドイツが誕生し、東欧諸国には民主化の嵐、そして湾岸戦争と、第三のルネッサンスともいうべき変革の時代を迎えていました。金満大国日本への批判が高まる中、我々自身にも「浮ついてばかりはいられない。個人的な利潤追求ではなく、もっと広い視野で世界を見つめ、地域社会に貢献していこう。」そんな機運が高まってきたんですよ。折りしも長岡JCは創立35周年の節目の年。上昇気流に乗って“まち起こし”に参戦しよう!と、『ひとづくり・ネットワークづくり・まちづくり』運動 がスタートしたわけです。

事業の中心となったのは、柿川クリーン作戦を発展させた、『アメニティータウンづくり』。柿川でコスモスの植栽や稚魚の放流、燈籠流しを行ったほか、信濃川においても清掃、河川敷での牛の丸焼き大会、信濃川を題材にした児童絵画コンクールを開催。JC・市民が一丸となって環境問題に取り組み、人と自然の在り方を見つめ直させたことが大きな収穫でした。またこの年は、留学生受け入れなどの国際協力事業、ハワイホノルルJC訪問、各種開発セミナー、佐渡チャイルドアイランド、カルチャー教室等々、硬軟とりまぜ、実に盛りだくさんな事業内容でした。何事も論より証拠で、発想は企画に、企画は実行にというのが基本方針。システムに自分を組み込むのではなく、自分がやりたいことを組織にぶ けていく。そういう個々のバイタリティーが力になって、多くの夢をカタチにできたんだと思います。「失敗を恐れずにチャレンジする」それが青年会議所だと、誰もが肌で実感した一年だったのではないでしょうか。
（40周年記念誌より抜粋）

ふれあいクリーン作戦

信濃川絵画コンクール

創立35周年パーティー

37代理事長
細川恭一

1991

中東問題をはじめ、世界が激動の中にあった1991年。好景気に陰りが見え始めたものの、長岡JCは比較的平穏な一年を過ごしたのではないでしょうか。継続事業の見直しを図ること、新しい時代に向けて土壌作りをすることが、この年の2本柱。時代の変遷や社会潮流を考慮して、ミスコン&イルミネーションの打ちきりを決定しました。いずれも先輩諸氏が大切に守り育て、長岡のシンボルとして市民の皆さんにも親しまれてきた事業です。心苦しい決断でしたが、未来を拓くためにはどこかで一線を引く勇気も必要です。メンバーの一致団結しての取り組みには、今も心から感謝しております。

また次代への足がかりとして、商工会議所との懇談会を開催しました。創立当時は太いパイプで結ばれていたといいますが、今は殆ど交流がない状態。現役経済人と若手経済人の親睦会があってもいいのではないかと、ざっくばらんな意見交換会をスタートさせました。もう一つの企画はマスコミ懇談会。JCはよくPR下手だといわれますが、確かに報道機関とのつながりも薄く、外へのアピール力に欠けていたんですね。3回にわたり長岡市政記者会と交流の機会を持ちましたが、これは自分達を客観的に見る、実にいいチャンスになりました。JCのまちづくり運動はある程度市民の間にも浸透していると思っていたのですが、実際には記者さん達でさえ、“柿川清掃と長岡まつりへの参加団体”程度の認識しかないわけです。広報活動の重要さを知るとともに、今までいかに狭い視野でモノを見、思い込みの中で活動してきたかを痛烈に感じました。そんなわけで華やかな話題とは縁がありませんでしたが、地味ながらも実のある、明日へのステップにつながる一年だったと自負しております。（40周年記念誌より抜粋）

光と夢のファンタジー

100だるま大会

38代理事長
吉原秀樹

1992

「前門の不況　後門の摩擦」といわれたこの年。景気回復の兆しは見えず、政治不信も募る一方。当然ながら長岡JCも、重くどんよりした空気に支配されていました。誰もが自社の仕事で精一杯。JCどころではないというのが本音だったでしょう。私自身にもそういう思いはありましたが、苦しい時代だからこそ立ち向かう勇気を持とうと、自らの意志で理事長に立候補したんです。様々な人生修行の場、そして多くの友を与えてくれた長岡LOMにご恩返しをしたいという気持ちもありました。

全世界が再建と安定を目指し、新しい秩序に向かって動き始めた－マイナスに傾いていた志向をプラスに変えて、地球の真の価値を求める21世紀へのアプローチを始めました。それは広域ネットワークによる新しいまちづくり。より広い視野で観光開発を考えようと、近隣8LOMと提携して「ホワイトエリア委員会」を創設したんです。それぞれの街の個性を尊重しながら、トータルなエリアとしての魅力を引き出していくのが狙い。エリア内の飲食店や土産・宿泊・イベント等を網羅した“こだわりマップ”は、「情報満載で重宝する」と大好評でした。行政がつくるハードを補充するソフトづくり。それが我々の仕事だと認識していますが、郷土への思い・ロマンをカタチに残せなかったという無念さもあります。例えば第3セクターで、悠久山に夜景の見えるレストランを作ろう。そんな提案もあったんです。まちづくりと声高に叫びながら、我々の活動は机上の論理に終始しているのではないか?夢を夢で終わらせず、いかに実現させていくか?その辺りを真剣に煮詰めていけば、まちづくりの可能性ももっと大きく広がるような気がしますね。（40周年記念誌より抜粋）

講師例会

韓国JC40周年記念参加

39代理事長
中川清宜

1993

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」。この境地に近づきたいと願い、意識改革に努めた一年でした。自分を含め、JCメンバーには謙虚さが欠けているのではないか?親の七光を自分の力と錯覚して、おごり高ぶってはないだろうか?人間らしく生きることの模索が、そのまま事業内容につながっていったような気がします。この年は不況感も蔓延していて、社会全体が殺伐としたムードでした。米の凶作にゼネコン汚職問題。連立政権の誕生で55年体制に終止符が打たれ、年末には田中元首相が死去するという、実に暗示的な幕切れとなった年でした。大きな曲がり角にいる日本を感じながら、こんな時代だからこそ心豊かに生きたい、希望や夢のある未来を創造したいと提案したのが、自然と親しむ『CAPP運動』でした。

今や田舎の子供でも、学校と塾に縛られる毎日。それでは思いやりの心、情緒豊かな心が育たないのも当たり前です。そこで動物ふれあい教室や埼玉の動物自然公園への旅を企画し、延べ600名もの家族に自然とふれあう楽しさを体験していただきました。今や全国各地で展開されている運動ですが、口火を切ったのはこの長岡。それだけに喜びも大きく、感慨もひとしおでした。また1993年は長岡市が拠点都市に指定された年でもあり、長岡JCでも「拠点都市ネットワーク会議」を設立し、市に対して様々な提言をさせて頂きました。市長からは「民間団体でこのような活動は珍しい」と賞賛の声をいただきましたが、我々にとっても人・街・社会とつながっている自分を意識する貴重なチャンスでした。小さなふれあいの輪が、大きなネットワークに発展していく。その過程で自らを切磋琢磨することが、すなわちJC運動といえるのではないでしょうか?　（40周年記念誌より抜粋）

東中学校による「青春米百俵みこし」

拠点都市ネットワーク会議

CAPP活動動物ふれあい教室

40代理事長
澤野好裕

1994

バブル経済は破綻しましたが、一度ゆるんでしまった精神のタガはなかなか立て直せるものではありません。ともすればJC活動も惰性に流され、馴れ合いの人間関係に終始しがち。そこで我が長岡藩の藩訓にある「常在戦場」をこの年のスローガンにしました。常に戦場に在るつもりで気を引き締めて事に当たれという心構えですが、先人の知恵に学び、苦しい時代を乗り切ろう、歴史の中に未来への方向性を探ろうという意味あいもあったんですよ。過去があっての現在、現在あっての未来です。長岡の歴史をおさらいすることからスタートし、その上で現状を把握し、これからの長岡を展開しようと考えたわけです。

たとえば知っているようで意外と知らない米百俵の話、その精神を子供達に語り継いでいこうと、4回に渡って勉強と討論会を開催しました。実際に小林虎三郎らの足跡を辿る歴史探訪も行いましたし、密度の濃い内容だったと思いますね。また一般の方々と一緒に河井継之助の史跡を巡ったりもしました。いずれも灯台もと暗しの発見ばかりで、今まで自分の街の何を見てきたんだろう?と考えさせられました。そして大きな歴史の流れの中で今日の長岡を捉え、自分達の運動を見つめ直す貴重な学習機会が得られたと思います。まちづくりに関しては市民アンケートも行い、7割近い回答をいただきました。皆さんの関心の高さ、現状の問題点を知るとともに、市民意識と我々の活動との微妙なズレを認識できたことが収穫でしたね。理想と情熱に走るあまり、独りよがりになってはいないか?　自己満足の事業を過大評価してはいないか?　JC活動を冷静かつ客観的に判断するきっかけづくりの年になったと思います。　（40周年記念誌より抜粋）

ふるさと散歩

ふれあいクリーン作戦

41代理事長
田村和仁

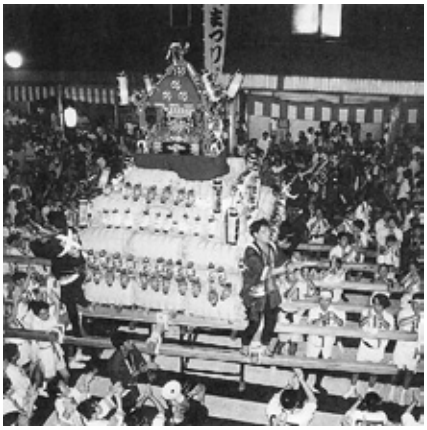
1995

これからの長岡　創造したい

当時の澤野理事長より「創立40周年準備委員会で来年の方針を作りなさい」とのお話しがあり、委員会メンバーで40周年のテーマ・考え方などを作ることが出来た事は非常に幸運でした。そして理事長として「これからの長岡創造したい」を合言葉に「まちづくり」「環境づくり」「ひとづくり」の3本柱を中心とする事業を計画致しました。特に環境問題の重要性が増し始めていた時代の中で「環境づくり」事業にとっかかりを付けたのがこの年でした。

また、年明け早々に阪神大震災が発生し、非常に突発的な災害に対して何かできることはないものかと有志でのボランティア活動を行いました。8月には阪神地区の被災した子供達180名をホームステイにて3泊4日で長岡花火に招待した「光と夢のプレゼントin長岡花火」を実施し、子供たちからもまた被災された家族の方からも本当に喜ばれ、その後も交流が続いているご家庭もあります。前年から一生懸命練って計画した事業よりも、突発的に起きた事案に対して速やかに対応した事業の方がむしろインパクトもあったし思い出に残っています。

バブル崩壊後でJCメンバーも会社でいろいろな問題を抱えながらJC活動を行っていましたが、それぞれが自分の持ち場の活動をきちっと行い内容の濃い事業が出来、非常に充実した年だったのではないかと思います。スタッフの協力があってこそ様々な事業を成し遂げることの出来た、理事長冥利に尽きる1年だったと思います。今後の長岡JCに期待することとしては、物事の本質をきちっと捉え、単年度で事業がストップするのではなく連続性のある事業展開をしていって欲しいと思います。
（50周年記念誌より抜粋）



長岡まつり　御輿渡行参加

創立40周年式典

●委員会と役員名

理事長	田村　和仁	専務理事	小嶋　和広
直前理事長	澤野　好裕	監事	青柳　博之・中川　清宣・猪貝　克浩
副理事長	山口　芳春・服部　邦英・池田　明彦・野本　圭一	事務局長	神保　千春
理事	小島　浩一・古川　誠・吉澤　隆・佐藤　善亮・渡邊　好雄・浅野　久男・大川　忠行・大井　尚敏・丸山　晴彦・大塚　秀輝・高野　典郎・遠藤　正浩 安藤　善彦・中村　宗一・小林　直人・小川　峰夫・渡辺　善雄・今泉　裕市・外山　由夫・田村　晴男・金子　勝・渡邊　泰崇・三浦　正昌・安藤　彰道 室橋　実・田中　勝・吉原　秀樹・関　均・吉田　秀夫・吉原　亨・安藤　栄治・品川　十英・小林　篤居		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	小島　浩一	総務委員会	丸山　晴彦	遠藤　篤	本間　利彦	木村　匡孝	金子　隆一・安藤　彰道・諏訪　和彦・横山　信治・山内　芳次・佐藤慎太郎・楡金健一郎
		広報委員会	大塚　秀輝	外山　由夫	長澤　彰浩	増田　和久	前原　一夫・木村　広幸・三浦　修一・蓮池　洋一・広田　幹人・反町　隆行・高野　芳和・早川　一仁
渉外室	古川　誠	国際委員会	高野　典郎	宮下　嘉克	林　真浩	多田　健一	野上　勝也・高田　明宜・室橋　実・浅倉　義弘・斉藤伊一郎・辰口　智樹・山口　薫
		会員開発委員会	遠藤　正浩	田村　晴男	多川　政人	外山　敦之	鈴木壮次朗・品田・裕彦・布施　達彦・本間　芳之・若月　康裕・片桐　有史・金子　信之
開発室	吉澤　隆	ひとづくり委員会	安藤　善彦	松本　英資	大原　康一	高桑　秀樹	和田ひさや・高橋　治・長谷川泰司・磯部　伸夫・鈴木　隆・田中　勝・渡辺　芳夫・丸山　保・永井　達哉・熊倉　伸也 諸橋　和英・佐久間雅己・赤柴　豊英・外川　昌樹・長谷川　朗・久保　裕治・小林　健一・小坂井　巌・中村　哲雄 藤井　英雄・永井　康之・畑田　敏宏
		経営開発委員会	中村　宗一	大川　卓哉	名児耶伸雄	和田千賀子	北澤　和博・吉原　秀樹・品川　正人・佐藤　俊博・小幡麻衣子・木村　利哉・河田　利彦
政策室	佐藤　善亮	青少年開発委員会	小林　直人	平沢　達也	井口総一郎	太刀川　潤	関　均・山本　弘紀・谷内田　明・佐藤　俊幸・土田　正見・渡辺　正浩・原　信博
		まちづくり委員会	小川　峰夫	小林　誠	水谷　英二	早川　博文	堀　仁・田尻　正敏・畠山甚太郎・吉田　秀夫・鈴木　寛・久保　孝之・佐藤　昌秀・今井　義久・小林　幸夫・中山　靖男
事業室	渡邊　好雄	文化事業委員会	渡辺　善雄	金子　勝	古川　智	長谷川嘉一	山崎　修作・反町　光夫・粉川　一郎・佐藤　憲司・高橋　伸光・田中　敏也・反町　桂一・三冨　春司・鈴木　敏彦
		お祭り委員会	今泉　裕市	今井　正仁	三浦　考晃 室橋　秀樹	中村　龍三	外川義太郎・松本　雄作・高野　融・内藤　達衛・松井　秀明・細貝　洋・牛木　昇・吉原　亨・若月　修一・大野　照善 大桃　正隆・樋口　勝博・綿貫　賢一・巻渕　文彰・佐藤　暢展・矢尾板利明・中村　年志
40周年実行特別委員会	委員長　浅野　久男			渡邊　泰崇	大杉　努	渡邊　克巳	安藤　栄治・品川　十英・小笠原一貴・白川　幸隆・斉藤　和利・溝江　一伸・高野　修
広域ネットワーク特別委員会	委員長　大川　忠行			三浦　正昌	小室　功	小坂井　聡	小師　淳雄・田邊　聡・大野　太・近藤　真人
環境づくり特別委員会	委員長　大井　尚敏			桑原　誠	伊藤　芳也	小池　雅仁	小林　力・長束　一男・小林　淳・大井　盛久・本間　信彦・野川　直樹・浅野　裕子・田中　正人・小林　篤居

42代理事長
浅野久男

1996

新たなる歴史へ踏み出そう

この年の活動では全てにおいて「まちへ出よう」を合い言葉に、市民への提案、市民主導のまちづくりを提唱しました。「市民参加」という言葉は定着しておりましたが、真に責任ある提案と実行が必要とされる「市民主導型」のまちづくりを目指しはじめた一年でした。震災直後の本年、復興花火フェニックスの打ち上げは市民に大きな希望と感動を与えました。50年余にわたって築き上げられた長岡JCの歴史と経験を礎に、後輩諸氏がこの事業のように「責任あるまちづくり」を実践されていることをOBとして誇りに感じている次第です。

理事長時代を振り返ると、各事業とも委員長を中心にメンバーが活躍していた様子が鮮明に思い出されます。特に佐藤善亮君、神保千春君が中心となり、阪神淡路大震災で被災した神戸に大輪の花を咲かせた「長岡花火in神戸」事業は、長岡市民からの激励の気持ちを、復興にかける被災地の人々に伝えることができ、思い出深いものがあります。

また、例会、各種会議の冒頭で数え切れないほどの「理事長挨拶」をさせて頂きました。同じ話を二度としないことがメンバーに対する役目と思い、毎回話す内容を考えるなかで、日常の生活やまちの中での様々な“気づき”が多くなり、JC運営の指標にもなりました。「立場が人をつくる」と言いますが、青年会議所活動の良いところとして、組織や立場による役割が明確であり、役割を果たす中で個人の能力を高めてくれることが挙げられます。資質が多少至らなくても、組織ぐるみでサポートしてくれることで、間もないうちにしっかりとその立場の器になってくるものです。「人をつくる」ことのできる組織がJCにはあると思います。

JC内で行われる各種研修事業はもちろんですが、JCにいることがすでに研修であり、自分の実力以上のものを引き出してくれます。また「仲間」が飛躍的に増え、考え方、やる気次第で活動範囲がいくらでも拡がっていきます。これからのメンバーの皆さんにもこのメリットを生かして自分を高めていただきたいと思います。
（50周年記念誌より抜粋）

新年会

子供創作ファッションショー

●委員会と役員名

理事長	浅野　久男	専務理事	小島　浩一
直前理事長	田村　和仁	監事	澤野　好裕・山崎　修作・品川　十英
副理事長	猪貝　克浩・佐藤　善亮・吉澤　隆・大井　尚敏	事務局長	大塚　秀輝
理事	長谷川泰司・遠藤　正浩・渡辺　善雄・室橋　実・今泉　裕市・小林　篤居・神保　千春・大原　康一・遠藤　篤・金子　勝・松本　英資・田村　晴男 畠山甚太郎・水谷　英二・桑原　誠・高橋　治・渡邊　泰崇・佐藤　憲司・本間　利彦・本間　信彦・池田　明彦・中村　宗一・大井　盛久・野本　圭一 服部　邦英・安藤　栄治・小嶋　和広・小師　淳雄・今井　正仁・古川　誠・小林　誠・大川　忠行		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	長谷川泰司	総務委員会	大原　康一	田中　勝	小池　雅仁	藤井　英雄	安藤　善彦・和田ひさや・木村　広幸・池田　明彦・広田　幹人・和田千賀子・渡辺　芳夫・長谷川　朗
		LOMサービス委員会	遠藤　篤	長澤　彰浩	増田　和久	河田　利彦	安藤　彰道・長束　一男・三浦　修一・木村　匡孝・楡金建一郎・永井　達哉
渉外室	遠藤　正浩	国際委員会	金子　勝	佐藤　憲司	斉藤伊一郎	諸橋　和英	金子　隆一・前原　一夫・浅倉　義弘・反町　桂一・辰口　智樹・反町　隆行・巻渕　文彰・赤柴　豊英
		会員開発委員会	松本　英資	多川　政人	外川　昌樹	中村　哲雄	谷内田　明・高野　典郎・松井　秀明・小笠原一貴・中村　宗一・高野　修・近藤　真人・久保　裕治
開発室	渡辺　善雄	ひとづくり委員会	田村　晴男	本間　利彦	長谷川嘉一	小林　健一	室橋　秀樹・井口総一郎・佐藤慎太郎・浅野　裕子・木村　利哉・高桑　秀樹・畑田　敏宏・岸　伸彦・重山　靖浩 金内　一雄・喜多村　浩・須栗　裕幸・中澤　弥・屋代　健・五十嵐隆幸・飯田　新一・鷲尾　達雄・高野　毅・高坂　宏行 関川　卓至・長谷川　真・戸倉　一善・山本　敦・高橋　徳久
		青少年開発委員会	畠山甚太郎	山内　芳次	横山　信治	早川　一仁	松本　雄作・布施　達彦・大井　盛久・佐藤　俊博・鈴木　隆・外山　敦之・多田　健一・熊倉　伸也
政策室	室橋　実	まちづくり委員会	水谷　英二	早川　博文	久保　孝之	原　信博	野上　勝也・小林　直人・高田　明宜・田邊　聡・野本　圭一・品田　裕彦・外山　由夫・三浦　正昌・中山　靖男・古木　雅人
		環境づくり委員会	桑原　誠	今井　義久	佐藤　昌秀	田中　正人	田尻　正敏・服部　邦英・佐藤　俊幸・三浦　考晃・林　真浩・高野　芳和・太刀川　潤・金子　信之・小林　幸夫
事業室	今泉　裕市	文化事業委員会	高橋　治	田中　敏也	佐久間雅己	鈴木　敏彦	安藤　栄治・小嶋　和広・細貝　洋・粉川　一郎・大杉　努・古川　智・名児耶伸雄・小坂井　巌
		お祭り委員会	渡邊　泰崇	高野　融	渡邊　克巳 樋口　勝博	溝江　一伸	小師　淳雄・今井　正仁・磯部　伸夫・渡辺　正浩・宮下　嘉克・牛木　昇・伊藤　芳也・野川　直樹・中村　龍三・山口　薫 綿貫　賢一・矢尾板利明・丸山　保
市民交流特別委員会	委員長　小林　篤居			本間　信彦	中村　年志	若月　修一	大川　卓哉・諏訪　和彦・平沢　達也・本間　芳之・若月　康裕・大野　太・大野　照善・小坂井　聡・佐藤　暢展・永井　康之
メンバーシップ特別委員会	委員長　神保　千春			小室　功	三冨　春司	吉原　亨	吉原　秀樹・古川　誠・小林　誠・大川　忠行・丸山　晴彦

43代理事長
池田明彦

1997

共生の時代へ　育てよう豊かな創造力を

野球部

私が理事長をした年は、JC三信条の「修練」「友情」「奉仕」のうち特に「奉仕」の部分を色濃くした年でした。当時の長岡は再開発事業が目白押しの時でした。都市計画においていろんな人を巻き込み、市からの依頼で都市計画会議などに参加し、青年会議所としての意見を聞いてもらえる機会が多く、市政に引っ張り出された年でした。このような背景があり、私が理事長をさせていただいた年は、まちづくり系のカラーが強かったかもしれません。それ以前はどちらかというと「修練」、つまり自分自身を磨き、将来の経営者としての資質を高めるほうが強かったように思います。しかし私は資質を高めることより、青年会議所活動を通じて、いろいろな活動をしていく事こそ『自己修練』であると考え、少し抵抗感もありましたが開発系の委員会を減らしました。そして当時は市町村合併がささやかれており、政策系に力を入れました。そこで青年会議所単独で「市民ネットワーク」（行政に呼ばれた時のために市民レベルの意見をまとめる横の繋がり）を作り、その後の青年会議所活動にも大いに役立ちました。その他では、音楽祭を開くために寄付金活動をしたり、モンゴルに植樹に行ったり、サッカー部を作ったりといろんな事をしました。

吉原地区会長、池田理事長を中心にモンゴル・GTSへ

当時、市町村合併をしていないのに三条青年会議所・燕青年会議所が合併しました。合併したことで会員の数も増え、今までできなかった事ができるようになりました。なぜ長岡は市町村合併を今年したのに、他の団体と合併もしくはうまく交流ができないのでしょう。そしてもっと政策面で行政に提言をしていけば、長岡青年会議所として意義があると思います。がんばってください。
（50周年記念誌より抜粋）

●委員会と役員名

理事長	池田　明彦	専務理事	大川　忠行
直前理事長	浅野　久男	監事	金子　隆一・田村　和仁・大井　尚敏
副理事長	神保　千春・服部　邦英・小嶋　和広・古川　誠	事務局長	長谷川泰司
理事	丸山　晴彦・中村　宗一・安藤　善彦・渡邊　泰崇・小島　浩一・太刀川　潤・小室　功・本間　利彦・大井　盛久・早川　博文・本間　信彦・三浦　正昌 佐藤　憲司・今井　正仁・三冨　春司・室橋　秀樹・吉原　亨・中村　龍三・桑原　誠・澤野　好裕・安藤　彰道・今泉　裕市・品川　十英・野本　圭一 渡邊　克巳・畠山甚太郎・田邊　聡・大塚　秀輝・渡辺　善雄・小師　淳雄・遠藤　正浩・佐藤　善亮・大原　康一		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	丸山　晴彦	総務委員会	太刀川　潤	小池　雅仁 増田　和久	赤柴　豊英	畑田　敏宏	谷内田　明・木村　広幸・高野　典郎・小林　誠・本間　芳之・桑原　誠・佐藤　昌秀・外山　由夫・佐藤慎太郎・高野　毅 高坂　宏幸
		国際渉外委員会	小室　功	三冨　春司 高桑　秀樹	山本　敦	中澤　弥	澤野　好裕・安藤　彰道・遠藤　篤・浅倉　義弘・溝江　一伸・斉藤伊一郎・田中　敏也・牛木　昇・若月　修一・木村　利哉 外川　昌樹・飯田　新一
開発室	中村　宗一	ひとづくり委員会	本間　利彦	室橋　秀樹	木村　匡孝	長谷川　朗	小笠原一貴・今泉　裕市・三浦　修一・今井　義久・井口総一郎・長澤　彰浩・小坂井　巌・戸倉　一善・長谷川　真 小川　健司・桐生　伸一・内山　直樹・坂口　徳之・今井　雅人・及川　雅博・豊島　和浩・近藤　英弥・水澤　一昌 松山　光男・永見峰登志・茨木　学・高橋　繋喜・丸山　清文
		青少年開発委員会	大井　盛久	中村　年志	金内　一雄	喜多村　浩	和田ひさや・品川　十英・布施　達彦・金子　勝・多川　政人・多田　健一・大野　照善・佐藤　暢展・渡辺　芳夫 熊倉　伸也・須栗　裕幸
政策室	安藤　善彦	まちづくり委員会	早川　博文	長谷川嘉一	小林　健一	屋代　健	松本　雄作・高橋　治・佐藤　俊幸・野本　圭一・久保　孝之・渡邊　克巳・浅野　裕子・河田　利彦・矢尾板利明 中村　哲雄・関川　卓至
		環境づくり委員会	本間　信彦	吉原　亨	田中　正人	永井　康之	畠山甚太郎・松井　秀明・横山　信治・髙野　修・鈴木　隆・辰口　智樹・田中　勝・鈴木　敏彦・外山　敦之・名児耶伸雄 永井　達哉
		市民ネットワーク委員会	三浦　正昌	小林　幸夫	中山　靖男	近藤　真人	高田　明宜・松本　英資・田邊　聡・大塚　秀輝・古川　智・野川　直樹・林　真浩・水谷　英二・和田千賀子・楡金建一郎 イケチャク・アンヤンウ・村田　貴
事業室	渡邊　泰崇	文化事業委員会	佐藤　憲司	反町　隆行	早川　一仁	五十嵐隆幸	長束　一男・渡辺　善雄・粉川　一郎・若月　康裕・高野　芳和・大野　太・巻渕　文彰・諸橋　和英
		お祭り委員会	今井　正仁	中村　龍三 樋口　勝博	綿貫　賢一	鷲尾　達雄	田尻　正敏・小師　淳雄・遠藤　正浩・諏訪　和彦・小林　篤居・渡辺　正浩・大杉　努・平沢　達也・宮下　嘉克 三浦　考晃・伊藤　芳也・佐藤　俊博・丸山　保・赤塚　正彦・高橋　徳久
メンバーシップ特別委員会	委員長　小島　浩一			大川　卓哉	原　信博	岸　伸彦	吉原　秀樹・小林　直人・佐藤　善亮・広田　幹人・大原　康一・佐久間雅己・久保　裕治・藤井　英雄・重山　靖浩

44代理事長
小嶋和広

1998

私たちの願い そして 小さな行動が未来をつくる

明治維新以来の中央集権体制は、第二次世界大戦後の復興に有効に機能し、物質的な豊かさを感じみんなが自分の権利を対等に持つ、豊かな社会をもたらしました。しかし、価値観は時代とともに多様化し、現社会システムは有効に機能することが難しくなり、地域は少しずつ独自性を失い、人々は物質的な豊かさのみを求めた結果、精神的な豊かさや心の豊かさが、阻害され始めたように思われました。日本にもともとあった義理人情つまり「たすけあい」「おたがいさま」の精神が薄れてしまったのです。そこで、21世紀を前にこれからの青年会議所活動「まちづくり」「ひとづくり」「環境づくり」を考えてみようということで、「私達の願い　そして　小さな行動が未来をつくる」というスローガンをたてたのです。

「私達の願い」は長期ビジョンの策定であり、「小さな行動」は自己意識の改革であります。長期ビジョンの策定は、今までの中央集権体制から、個人・企業・地域・国家の総合的な協力体制でまちづくりを行う「地域自立の時代」における長岡地域の明るい豊かな社会を考え、自己意識の改革では、青年会議所メンバーは市民とともに行動を起こし地域のリーダーとしての役割を認識することが重要と考えました。

2020ビジョン策定会議を含め10委員会の組織でありました。ビジョン策定会議だけが長期ビジョンを考えるのではなく、各委員会がそれぞれの方向性の違う委員会事業を通して自分達のまちを想像し、メンバー自身がそのために何ができるかを考えながら委員会活動を行いました。メンバー同士が事業で汗を流し達成感を共用すると共に、長期的な視野に立ってのまちづくりや青年会議所の将来を議論したこの年は、青年会議所らしい1年間であったと思います。
（50周年記念誌より抜粋）

ひとづくりオリエンテーション

長岡JCサッカー部創設

●委員会と役員名

理事長	小嶋　和広	専務理事	大原　康一
直前理事長	池田　明彦	監事	吉原　秀樹・浅野　久男・野本　圭一
副理事長	安藤　善彦・大川　忠行・小島　浩一・渡邊　泰崇	事務局長	太刀川　潤
理事	早川　博文・遠藤　篤・小室　功・大井　盛久・本間　信彦・小池　雅仁・宮下　嘉克・渡邊　克巳・吉原　亨・浅野　裕子・田中　勝・田邊　聡・反町　隆行 中村　龍三・田中　正人・巻渕　文彰・藤井　英雄・長谷川泰司・大川　卓哉・小林　直人・金子　隆一・佐藤　善亮・古川　誠・中村　宗一・遠藤　正浩 三浦　正昌・小師　淳雄・樋口　勝博・本間　利彦・中村　年志・神保　千春・田村　和仁・水谷　英二		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	早川　博文	総務委員会	小池　雅仁	早川　一仁	長谷川　朗	桐生　伸一	和田ひさや・長谷川泰司・木村　広幸・大川　卓哉・大塚　秀輝・桑原　誠・佐藤　昌秀・今井　義久・鈴木　敏彦 赤柴　豊英・中村　哲雄・岸　伸彦・高橋　繋喜・丸山　清文
		国際渉外委員会	宮下　嘉克	三浦　考晃	鷲尾　達雄	今井　雅人	小林　直人・高田　明宜・高野　典郎・布施　達彦・外山　敦之・長澤　彰浩・増田　和久・近藤　真人・小坂井　巌 近藤　英弥・水澤　一昌・松山　光男
開発室	遠藤　篤	ひとづくり委員会	渡邊　克巳	伊藤　芳也	須栗　裕幸	坂口　徳之	金子　隆一・佐藤　善亮・今井　正仁・小笠原一貴・田中　敏也・河田　利彦・飯田　新一・廣川　隆俊・金子　靖則 小島　孝之・小林紳一郎・星野　正昭・石田　章・伊佐　克敏・滝沢　光正・金子　大三・大塚　浩一・大島　剛 田村　正光・長谷川　隆・家坂　貴宏
		青少年委員会	吉原　亨	金内　一雄	佐藤　暢展	高野　毅	古川　誠・畠山甚太郎・松井　秀明・大杉　努・中村　宗一・鈴木　隆・林　真浩・若月　修一・多川　政人・名児耶伸雄
政策室	小室　功	まちづくり委員会	浅野　裕子	久保　孝之	関川　卓至	重山　靖浩	田尻　正敏・遠藤　正浩・高野　芳和・木村　利哉・佐久間雅己・久保　裕治・畑田　敏宏・喜多村　浩・及川　雅博 永見峰登志
		環境づくり委員会	田中　勝	田中　正人	内山　直樹	茨木　学	高橋　治・松本　英資・横山　信治・三浦　正昌・広田　幹人・佐藤慎太郎・高桑　秀樹・長谷川嘉一・丸山　保・高坂　宏行
		市民ネットワーク委員会	田邊　聡	原　信博	藤井　英雄	渡辺　芳夫	小師　淳雄・佐藤　俊幸・斉藤伊一郎・野川　直樹・井口総一郎・木村　匡孝・中山　靖男・熊倉　伸也・小林　健一 小川　健司
事業室	大井　盛久	文化事業委員会	反町　隆行	巻渕　文彰	戸倉　一善	豊島　和浩	今泉　裕市・粉川　一郎・平沢　達也・外山　由夫・古川　智・若月　康裕・室橋　秀樹・大野　太・樋口　勝博・山本　敦
		お祭り委員会	中村　龍三	綿貫　賢一	渡辺　正浩	高橋　徳久	松本　雄作・谷内田　明・丸山　晴彦・牛木　昇・三冨　春司・本間　利彦・多田　健一・大野　照善・楡金建一郎 矢尾板利明・中村　年志・諸橋　和英・外川　昌樹・五十嵐隆幸
2020ビジョン策定会議	議長　本間　信彦			永井　康之	中澤　弥	長谷川　真	神保　千春・田村　和仁・小林　誠・高野　修・辰口　智樹・水谷　英二・永井　達哉・屋代　健

45代理事長
野本圭一

1999

「本質」「変革」「和」
自由に語り合い　明日を創造していこう

人生の目的は、本質の探求であり、冒険であり、創造であり、
喜びであり、自由の獲得であり、そして故郷へ の歩みである。
すべての植物が天を目指すように
我々の生きる目的も究極 にはひとつであるはずだ。

私達は人生の中でいったいどういう時に「本当に楽しい」とか「喜び」というものを感じるのでしょうか。気持ちが通じ合う時 仲間 と一緒にいる時、夢をかなえた時、理解された時、感動した時、一体感を持った時。それはほとんど一人ではなく人間と人間の交流の中で発生します。そしてその全ては青年会議所活動の中にも存在します。私達はなるべく沢山の人と出会い、互いに理解しあい、素晴らしい人間関係を創りあげてきました。別な言い方をすると「一生付き合っていく仲間」と出会うために活動しているとは言えないでしょうか。そんな仲間達とともに、公に向かう目的の達成のために、感謝の心を基本として、本当に楽しい、自由に話し合える、「本気・本音で活動できる」そんな行動を期待します。

社団法人長岡青年会議所は1954年誕生以来、多くの先輩諸氏の努力により、数多くの事業を行いその成果のひとつとして様々な民間レベルのネットワークを築いてきました。

JCと他団体、JCと市民などの交流の機会を増やし「かかわり」から「つながり」へ発展させる活動をしてきました。1999年度は2002FIFAワールドカップ日韓共同開催へ向けてのネットワーク確立のための活動を行った結果、8月の長岡祭りにはソウル江南JCより家族を含めて総勢40名あまりで来日してお祭りを楽しんでもらいました。また、翌年にはブロック会員サッカー大会も江南JCのみなさんから出場してもらうほど交流が深まりました。

今後も協力し助け合える、「つながり」といえる関係に更に発展させられるように努力して欲しいと思います。将来これからのネットワークが横方向に点から線へそして面へと大きく広がり、長岡地域のまちづくりの大きな力になることを信じています。そして、明るい豊かな社会の実現のための活動が大切であり、そのことを切に希望しております。
（50周年記念誌より抜粋）

長岡、ソウル江南JCサッカー親善事業

ふれあいクリーン作戦

●委員会と役員名

理事長	野本　圭一	専務理事	小室　功
直前理事長	小嶋　和広	監事	神保　千春・長谷川泰司・中村　宗一
副理事長	古川　誠・佐藤　善亮・大井　盛久・本間　信彦	事務局長	三冨　春司
理事	吉原　亨・今井　正仁・中村　龍三・三浦　正昌・鷲尾　達雄・飯田　新一・小島　浩一・桑原　誠・渡邊　泰崇・大原　康一・早川　博文・永井　達哉 小笠原一貴・大川　忠行・太刀川　潤・長谷川　真・水谷　英二・遠藤　篤・井口総一郎・長谷川嘉一・永井　康之・田邊　聡・長澤　彰浩・渡邊　克巳		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	吉原　亨	総務委員会	金内　一雄	山本　敦	喜多村　浩	長谷川　隆	木村　広幸・大川　卓哉・小島　浩一・渡辺　正浩・布施　達彦・桑原　誠・鈴木　隆・今井　義久・名児耶伸雄・中村　哲雄 豊島　和浩・金子　大三・大島　剛
		JCビジョン委員会	藤井　英雄	中澤　弥	今井　雅人	丸山　清文	高野　典郎・渡邊　泰崇・佐藤　昌秀・辰口　智樹・田中　勝・外山　敦之・大原　康一・早川　博文・田中　正人 中山　靖男・近藤　真人・永井　達哉・佐久間雅己
開発室	今井　正仁	ひとづくり委員会	原　信博	重山　靖浩	桐生　伸一	松山　光男	小笠原一貴・大川　忠行・大塚　秀輝・木村　匡孝・太刀川　潤・高野　毅・長谷川　真・廣川　隆俊・伊佐　克敏・南　高志 佐藤　貴光・近藤　清規・古川　勇人・曽原　保・本間　厚自・近藤　久嗣・中島　光嘉・福澤　諭志・石井　良夫 大谷　晃正・土屋　博司・江口　隆志・池原　清・石丸　幸男・植木　智・笠井　和広・遠藤　仁・反町　敏彦・石井　崇 細貝　宏典・三浦　明・吉田　貢・町田　大輔
		2002国際委員会	高桑　秀樹	茨木　学	飯田　新一	永見峰登志	小林　誠・斉藤伊一郎・古川　智・水谷　英二・反町　隆行・小池　雅仁・大野　照善・綿貫　賢一・赤柴　豊英・小川　健司 高橋　繋喜・小島　孝之・星野　正昭
政策室	中村　龍三	まちづくりネットワーク委員会	室橋　秀樹	若月　康裕	畑田　敏宏	近藤　英弥	遠藤　篤・横山　信治・伊藤　芳也・野川　直樹・井口総一郎・広田　幹人・高野　芳和・多川　政人・木村　利哉 渡辺　芳夫・小坂井　巌・及川　雅博・小林伸一郎
		環境づくり委員会	中村　年志	須栗　裕幸	高橋　徳久	大塚　浩一	遠藤　正浩・畠山甚太郎・髙野　修・若月　修一・増田　和久・多田　健一・長谷川嘉一・河田　利彦・熊倉　伸也 永井　康之・関川　卓至・金子　靖則
事業室	三浦　正昌	青少年・文化委員会	粉川　一郎	戸倉　一善	五十嵐隆幸	田村　正光	佐藤　俊幸・松本　英資・田邊　聡・田中　敏也・林　真浩・長澤　彰浩・大野　太・巻渕　文彰・佐藤　暢展・早川　一仁 屋代　健・内山　直樹・滝沢　光正
		お祭り委員会	樋口　勝博	鷲尾　達雄	坂口　徳之	石田　章	大杉　努・宮下　嘉克・三浦　考晃・久保　孝之・渡邊　克巳・佐藤慎太郎・楡金建一郎・矢尾板利明・諸橋　和英 外川　昌樹・長谷川　朗・水澤　一昌・家坂　貴宏

46代理事長
神保千春

2000

長岡（ふるさと）から語ろう
美しき日本（くに）の未来（あす）を

2000年という節目の年に理事長に就任致しましたが、ちょうど僕らの頃は、メンバーの数が段々と少なくなってきた時期でした。しかし、皆さんからご理解を頂き、少ない人数ながら委員会の数を多くして、一委員会一事業という形でやっていくという事となりました。私自身、所信の中でも述べましたように、「日本とはどういう国なのか?」と云う事を考えるきっかけがあり、昔の日本の良さとか美しさを見つめ直してもいいのかなと思いまして、「愛国心」というものを一つの方向性として活動いたしました。

昨年は、水害、地震と非常に多くの災害に見舞われた年でした。年間の事業が決まっている中で何かあった時に果たして何ができるか?何をすべきか?を問うという事が青年会議所の役割でもあり、存在感を示す機会でもあったと思います。

時代時代によって何に赴きを置くかというのもあっていいんじゃないかと思います。若い方々が多くなってくると先ず皆で集まって、色々話し合っていく事が大前提で、何かを提言していければ、更に良いと思います。交流中心でも良いと思いますが、交流中心ならばとことんLOM内外で交流して、JCを卒業したら終わりになる様な関係ではなく、その後も続く様な関係を築いてもらいたいものです。
（50周年記念誌より抜粋）

しゃべり場 in 長岡

講師例会「子供は地域の宝です」今井佐知子先生

●委員会と役員名

理事長	神保　千春	専務理事	太刀川　潤
直前理事長	野本　圭一	監事	大井　盛久・本間　信彦・水谷　英二
副理事長	今井　正仁・小笠原一貴・小島　浩一・早川　博文	事務局長	渡邊　克巳
理事	大塚　秀輝・樋口　勝博・三富　春司・中村　年志・宮下　嘉克・原　信博・佐藤　善亮・藤井　英雄・今井　雅人・重山　靖浩・桐生　伸一・名児耶伸雄 長谷川　朗・松山　光男・永見峰登志・増田　和久・田中　正人・金内　一雄・中村　宗一・早川　一仁・大原　康一・中澤　弥・小池　雅仁・大川　忠行 渡邊　泰崇・三浦　考晃		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
ネットワーク室	大塚　秀輝	NPO委員会	久保　孝之	井口総一郎	丸山　清文	本間　厚自	林　真浩・田中　正人・中山　靖男・中村　哲雄・大島　剛・福澤　諭志
		情報ネットワーク委員会	大川　卓哉	布施　達彦	南　高志	小島　孝之	桑原　誠・鈴木　隆・高野　芳和・赤柴　豊英・金内　一雄・石井　崇
会員開発室	樋口　勝博	拡大研修委員会	巻渕　文彰	今井　雅人	松山　光男	佐藤　貴光	粉川　一郎・大野　太・渡辺　芳夫・鷲尾　達雄・家坂　貴宏・細貝　宏典・三浦　明・酒井　康雄・西澤　克彦・鈴木　成夫 佐々木　真・三浦　哲・関口　知之・村上揚市郎・上村　宏・布施さゆり・吉田　美和
		会員交流委員会	飯田　新一	星野　正昭	永見峰登志	近藤　久嗣	大杉　努・横山　信治・喜多村　浩・水沢　一昌・金子　大三・吉田　貢
地域政策室	三富　春司	教育まちづくり委員会	永井　康之	長谷川　隆	古川　勇人	近藤　清規	中村　宗一・室橋　秀樹・佐藤慎太郎・木村　利哉・河田　利彦・大谷　晃正
		歴史の語りべ委員会	長谷川嘉一	内山　直樹	大塚　浩一	江口　隆志	高野　典郎・松本　英資・高桑　秀樹・早川　一仁・楡金建一郎・熊倉　伸也
地域交流室	中村　年志	お祭り委員会	渡辺　正浩	坂口　徳之	諸橋　和英	池原　清	佐藤　昌秀・古川　智・大原　康一・綿貫　賢一・佐藤　暢展・矢尾板利明・外川　昌樹・中澤　弥・高橋　徳久
		アメニティリバー委員会	関川　卓至	重山　靖浩	中島　光嘉	石丸　幸男	遠藤　正浩・髙野　修・田中　勝・長澤　彰浩・小川　健司・廣川　隆俊・金子　靖則
未来創造室	宮下　嘉克	米百俵委員会	長谷川　真	桐生　伸一	石田　章	土屋　博司	田邊　聡・小坂井　巌・山本　敦・戸倉　一善・笠井　和広・反町　敏彦
		青少年委員会	伊藤　芳也	名児耶伸雄	小林紳一郎	植木　智	小林　誠・遠藤　篤・若月　康裕・須栗　裕幸・五十嵐隆幸・石井　良夫
LOM運営特別委員会		委員長	原　信博	畑田　敏宏	田村　正光	曽原　保	辰口　智樹・小池　雅仁・茨木　学
45周年特別委員会		委員長	佐藤　善亮	佐久間雅己	増田　和久	畠山甚太郎	大川　忠行・渡邊　泰崇・吉原　亨
まちなか活性化検討会議		委員長	藤井　英雄	長谷川　朗	近藤　英弥	滝沢　光正	田中　敏也・三浦　考晃・木村　匡孝・大野　照善・町田　大輔・遠藤　仁

47代理事長
渡邊泰崇

2001

With our passion,
Open the gate to the 21st Century!

2年ぶりに長岡市長を迎えた新年会でこの年はスタートしました。景気の悪さはどこまで落ちるか分からないと言うそんな時代に引っ張られJCメンバーも疲れていたように思います。最大で236名いたメンバーが緩やかに減少し、この年ピーク時以降最低の124名からのスタートとなりました。時の理事長はその時代に合った事業を展開します、多くの継続事業がある中で新しい事業を計画します。しかしメンバー数は減っている中で今まで積極的に参加してきた活動が義務的なものになりメンバーが疲弊感を感じ始めている、そんな現状を打破する必要がありました。対外的な活動や継続事業を見直し、その土壌となるJC内部の結束を強め、まず第一にメンバーが本当に楽しめ、居て元気が出るJCを作りたいと思いました。幸いにも入会10年間で多くの仲間がいる。卒業までにはまだ5年ある、失敗しても自分のケツは自分でふける「これは俺しかできない」そんな妙な確信がありました。20年間続いた「チャリティ寄席」も立ち上げ当初の目的は達成されたと判断し、先輩方・桂文楽師匠をはじめとする内外の関係者の皆様に感謝と敬意を払いつつ、この年区切りを付けさせていただきました。ソウル江南青年会議所との姉妹交流も締結20周年を機に共同宣言文の発表という形で、今後時代に合った柔軟な交流ができる様変革をさせていただいたのもこの年でした。自分が委員長時代に立ちあげた縦走御輿にも区切りをつけました。

一方でこの年は21世紀の始まりの年でもありました。遠ざかっていた行政との距離を縮め市長懇談会を行いました。理事会にてペーパーレス会議をおこない、案内はメールでの配信となりました。そして何より40名もの新入会員の拡大に成功することができたのです。各委員長やスタッフにムードメーカーとなる人物を配置し低迷していた事業や例会の出席率も80%を超える程になりました。

「扉をひらく」1年間情熱を込めて21世紀の扉をひらきました。華々しく前進するだけではなく、多くの事に幕を引きました。1年間の活動の最後にみんなと涙を流せたことは忘れません、素晴らしい仲間達に感謝します。50周年を迎えた今年、将来を見据えてより良い進化を続け、自分達の子供を入会させたくなる様なJCを創り続けてほしいと願います。（50周年記念誌より抜粋）

光と夢のファンタジー

中村真衣選手講演会

●委員会と役員名

理事長	渡邊　泰崇	専務理事	早川　博文
直前理事長	神保　千春	監事	小島　浩一・吉原　亨・太刀川　潤
副理事長	大井　盛久・宮下　嘉克・渡邊　克巳・大原　康一	事務局長	長谷川嘉一
理事	小池　雅仁・長谷川　真・関川　卓至・金内　一雄・鷲尾　達雄・今井　雅人・永見峰登志・増田　和久・桐生　伸一・高橋　徳久・大杉　努・坂口　徳之 近藤　英弥・石田　章・植木　智・大川　忠行・喜多村　浩・近藤　久嗣・家坂　貴宏・畑田　敏宏・須栗　裕幸・原　信博・若月　康裕・長谷川　隆 久保　孝之・永井　康之・中村　年志・戸倉　一善・茨木　学・綿貫　賢一・小笠原一貴・樋口　勝博・藤井　英雄		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	小池　雅仁	総務委員会	今井　雅人	長澤　彰浩	土屋　博司	三浦　明	桑原　誠・鈴木　隆・名児耶伸雄・赤柴　豊英・畑田　敏宏・須栗　裕幸・大島　剛・南　高志・曽原　保・本間　厚自 布施さゆり・吉田　美和
会員開発室	長谷川　真	拡大交流委員会	永見峰登志	水澤　一昌 小島　孝之	喜多村　浩	西澤　克彦	松本　英資・原　信博・佐藤慎太郎・早川　一仁・古川　勇人・中島　光嘉・吉田　貞・反町　敏彦・鈴木　成夫・上村　宏 小林　隆洋・星野　良久・池田　清一・佐藤　勉・金子　英高・石丸　慎一・小山　勝彦・青木　健児・中澤　一哉 韮澤　正志・吉原　章一・竹中　進介・長谷川佐久信・可児　雅幸・丸山　透・中静　剛・椎谷　淳・土田　和永・永井　浩美 土田　直人・安藤　善和・金山　英功・廣川　幸輔・大関　望・林　雅之・大竹　祐介・金内　正浩・岡部　恒夫 星野　豊紀・伊丹　新・木村　信丈・伊藤　和成・星野　敬・五十嵐正人・井上　宏朋・中村　義孝・鈴木　友也・大柴　直樹 村田　靖・野本　隆行
		ふるさと発見委員会	増田　和久	金子　靖則	近藤　清規	三浦　哲	布施　達彦・横山　信治・若月　康裕・辰口　智樹・室橋　秀樹・河田　利彦・渡辺　芳夫・長谷川　隆・福澤　諭志 江口　隆
地域開発室	関川　卓至	ふれあい環境委員会	桐生　伸一	近藤　英弥	佐藤　貴光	大谷　晃正	久保　孝之・井口総一郎・永井　康之・内山　直樹・丸山　清文・廣川　隆俊・滝沢　光正・石井　良夫・細貝　宏典
		青少年開発委員会	高橋　徳久	中澤　弥	近藤　久嗣	酒井　康雄	木村　匡孝・佐藤　暢展・中村　年志・熊倉　伸也・諸橋　和英・外川　昌樹・大塚　浩一・遠藤　仁・佐々木　真 関口　知之
地域交流室	金内　一雄	文化事業委員会	大杉　努	石田　章	石丸　幸男	村上揚市郎	渡辺　正浩・田中　敏也・古川　智・長谷川　朗・中村　哲雄・飯田　新一・戸倉　一善・茨木　学・金子　大三・石井　崇
		お祭り委員会	坂口　徳之	植木　智	池原　清	町田　大輔	畠山甚太郎・粉川　一郎・高野　修・佐藤　昌秀・伊藤　芳也・大野　太・綿貫　賢一・重山　靖浩・五十嵐隆幸・田村　正光
JC変革特別委員会	委員長　鷲尾　達雄			大川　忠行	家坂　貴宏	笠井　和広	大川　卓哉・小笠原一貴・田邊　聡・三浦　考晃・樋口　勝博・高桑　秀樹・田中　正人・中山　靖男・楡金建一郎 藤井　英雄

48代理事長
宮下嘉克

2002

“天長地久” それは　我々の限りなき挑戦
～物を造る時代から心を創る時代へ～

世の中が変わっても、固い絆で結ばれた長岡JCであり続ける事を宣言したい。

2002年度理事長になりまず考えたことが、渡邊泰崇直前理事長が21世紀の扉を開いた後どう展開していこうか、ということでした。方針に書いた「天長地久」という言葉のように、会員間の「絆」をより強固にしていくことを一番に考え、その年をスタートさせました。8つの委員会がそれぞれ私の意図するところを理解してくれ、各委員長には大変苦労かけたと思いますが、全ての事業が思い出深く本当に楽しい一年だったし、今思うとこの年は会員研修系の皆で楽しめる事業の多い年でした。

また、もうひとつこの年は「シンプル&スピーディー」を方針に掲げ、会員の負担を減らすようなスタイルを念頭において活動しました。経済経営を廃止し、会費も下げることを総会で決議しました。色々な意見がでましたが、それだけ皆真剣であることが感じ取れ、逆にうれしかったことを覚えています。

昨今会員間の絆が薄れてきているように感じます。今後はもっともっと絆を深めていってもらいたいと思います。また、「礼に始まり礼に終わる」という点に関してや、JC活動に関して現役だけですべて行われている訳ではなく、OB諸兄のご協力があって行われていることを忘れず、ある程度メリハリをつけて行動できるようになってもらいたいと思います。

（50周年記念誌より抜粋）

米百俵御輿

ブロック会員大会 in 栃尾での大会キーの引き継ぎ
（宮下理事長、渡邊泰崇次年度ブロック会長予定者、そして渡邊克巳次年度理事長予定者）

●委員会と役員名

理事長	宮下　嘉克	専務理事	鷲尾　達雄
直前理事長	渡邊　泰崇	監事	田邊　聡・大原　康一・金内　一雄
副理事長	長谷川　真・原　信博・樋口　勝博・藤井　英雄	事務局長	桐生　伸一
理事	今井　雅人・伊藤　芳也・永見峰登志・石田　章・大井　盛久・長沢　彰浩・重山　靖浩・戸倉　一善・植木　智・茨木　学・綿貫　賢一・内山　直樹 曽原　保・土屋　博司・長谷川　朗・町田　大輔・鈴木　成夫・渡辺　正浩・関川　卓至・早川　一仁・佐藤　貴光・永井　康之・中澤　弥・中島　光嘉 渡邊　克巳・大川　忠行・早川　博文・小島　孝之		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
会員ネットサークル室	今井　雅人	総務委員会	長澤　彰浩	内山　直樹	三浦　哲	上村　宏	井口総一郎・木村　匡孝・増田　和久・坂口　徳之・田村　正光・南　高志・本間　厚自・吉田　美和・星野　良久 可児　雅幸・丸山　透・星野　豊紀
		会員の絆委員会	重山　靖浩	古川　勇人	小林　隆洋	長谷川佐久信	渡辺　正浩・太刀川　潤・赤柴　豊英・関川　卓至・丸山　清文・近藤　清規・吉田　貢・三浦　明・石丸　慎一・韮沢　正志 永井　浩美・大関　望
未来開発室	伊藤　芳也	くらしの環境委員会	戸倉　一善	大谷　晃正	中澤　一哉	佐藤　勉	粉川　一郎・久保　孝之・佐藤　昌秀・高桑　秀樹・長谷川嘉一・中村　哲雄・佐藤　貴光・細貝　宏典・池田　清一 土田　和永・安藤　善和
		青少年委員会	植木　智	曽原　保	村上揚市郎	金子　英高	若月　康裕・吉原　亨・室橋　秀樹・名児耶伸雄・熊倉　伸也・永井　康之・近藤　英弥・廣川　隆俊・石井　良夫 酒井　康雄・土田　直人・井上　宏朋
地域発展室	永見峰登志	心の創造委員会	茨木　学	池原　清	西澤　克彦	中静　剛	田中　敏也・古川　智・佐藤慎太郎・中澤　弥・中島　光嘉・石丸　幸男・林　雅之・岡部　恒夫・星野　敬・中村　義孝 鈴木　友也・大柴　直樹
		拡大おまつり委員会	綿貫　賢一	諸橋　和英	近藤　久嗣 町田　大輔	木村　信丈	大川　卓哉・大杉　努・渡邊　克巳・中村　年志・畑田　敏宏・五十嵐隆幸・大塚　浩一・家坂　貴宏・小山　勝彦 竹中　進介・伊藤　和成・村田　靖・野本　隆行・丸山　誠・山本　博・平石　祥吉・金井　啓輔・池上　真人・細木　智広 渡邊　滝博・佐山　義信・佐野　純・佐藤　善則・中村　徹・丸山　司・外川　則夫・川上　浩司
地域フォーラム特別委員会		委員長　石田　章	土屋　博司	布施さゆり	金内　正浩		大川　忠行・三浦　考晃・大野　太・早川　博文・外川　昌樹・金子　大三・長谷川　隆・笠井　和広・反町　敏彦 吉原　章一・椎谷　淳・廣川　幸輔・伊丹　新
2002研修特別委員会		委員長　大井　盛久	長谷川　朗 喜多村　浩	鈴木　成夫	青木　健児		畠山甚太郎・鈴木　隆・小池　雅仁・佐藤　暢展・渡辺　芳夫・高橋　徳久・飯田　新一・小島　孝之・大島　剛・金山　英功 大竹　祐介・五十嵐正人

49代理事長
渡邊克巳

2003

すべてを人間 として
生き抜く強い仲間(チカラ)を持つために

第49代理事長を拝命した時は身が引き締まると同時に不安を感じていましたが沢山の仲間が不安を消してくれました。スローガンは「すべて を人間として生き抜く強い仲間(チカラ)を持つ為に」。人の間で生きてこそ人間。人ではなく人間でなくてはいけない。地域・家庭・子供・会社の為に行動していくことが全て自分の力になると考えていました。

年間を振り返ると新年会の挨拶が最も緊張し、その時のビデオは当時を思い出させます。長岡祭りでは20数年続いた御輿でしたが、今一度米百俵の心を確認し、長岡祭りにどう係わり盛り上げるかを考える為一時中止しました。その反面、「第20回柿川灯籠流し」で約5千人の市民が集まって下さいました。今でもその光景は目に焼き付いています。灯籠流しは長岡JCがある限り続けるべき心を込めた事業であると考えます。

新潟ブロック協議会に渡邊泰崇君をブロック会長として輩出し、また、ブロック会員大会の開催も行い、併せて「夢百俵事業」と名づけ市民向けに寄席や子供向けの事業を行いました。また、自衛隊に体験入隊したきっかけから、その時の自衛隊の人達が夢百俵事業に参加してくれ炊き出しや軍用車両を展示してくれました。それらが昨日の事のように思い出されます。メンバーには辛い事もお願いしましたがそれをステップに自分の会社や家庭に持ち帰って自分自身の力にしてもらいたいという願いでやって来ました。

昭和29年に発足した長岡青年会議所の根底に流れている心はこれからも不変であると信じています。これからも沢山の事業を通して長岡の為、子供達の為、自分の為に汗を流し、涙を流し、元気をいっぱい出し行動していって下さい。
(50周年記念誌より抜粋)

自衛隊体験研修

第33回新潟ブロック協議会会員大会

●委員会と役員名

理事長	渡邊　克巳	専務理事	石田　章
直前理事長	宮下　嘉克	監事	原　信博・樋口　勝博・鷲尾　達雄
副理事長	永見峰登志・伊藤　芳也・小池　雅仁・桐生　伸一	事務局長	中澤　弥
理事	戸倉　一善・茨木　学・永井　康之・坂口　徳之・大杉　努・早川　博文・滝沢　光正・上村　宏・町田　大輔・西澤　克彦・本間　厚自・可児　雅幸 安藤　善和・三浦　考晃・高桑　秀樹・長沢　彰浩・大野　太・星野　敬・中山　靖男・飯田　新一・増田　和久・渡辺　正浩・植木　智・渡邊　泰崇 関川　卓至・三浦　明・鈴木　成夫・布施さゆり		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	幹事	委員
総務室	戸倉　一善	総務委員会	近藤　英弥	滝沢　光正 村上揚市郎	本間　厚自 渡邊　滝博	三浦　考晃・佐藤　昌秀・中村　哲雄・金子　大三・南　高志・大谷　晃正・細貝　宏典・酒井　康雄・※長谷川佐久信・中静　剛 ※木村　信丈・井上　宏朋・平石　祥吉　※事務局に次長として出向
環境室	茨木　学	柿川委員会	内山　直樹	大塚　浩一	池田　清一 可児　雅幸	久保　孝之・古川　智・井上総一郎・木村　匡孝・佐藤　慎太郎・名児耶伸雄・高桑　秀樹・長谷川嘉一・中澤　一哉・廣川　幸輔・細木　智広 丸山　司・川上　浩司
ひとづくり室	永井　康之	ひとづくり委員会	土屋　博司	反町　敏彦 小林　隆洋	村田　靖 佐山　義信	田邊　聡・鈴木　隆・長沢　彰浩・大野　太・古川　勇人・三浦　哲・韮沢　正志・星野　敬・中村　公哉・吉野　輝昭・小林　健一 佐藤　崇・平野　利幸・平澤　政幸・真水　和也・志水　謙一・吉田　幹太・川島　博・五十嵐直行・石坂　篤史・渡辺　至誠・佐々木俊行 茨木　和朗・中條　秀樹・室橋　学
		青少年委員会	早川　一仁	五十嵐隆幸 金内　正浩	永井　浩美 佐藤　善則	若月　康裕・室橋　秀樹・中山　靖男・外川　昌樹・飯田　新一・吉田　貢・石丸　慎一・小山　勝彦・戸川　則夫・岩下　浩之・土田　勝也 栃倉　恒明・佐藤　健司・今井　毅・丸山　雄二・伊丹　智之・仲丸　達雄・猪井　一之・原　千鶴子・阿部　宣宏・加藤　恵介
渉外室	坂口　徳之	会員交流委員会	喜多村　浩	中島　光嘉 上村　宏	青木　健児 土田　直人	大原　康一・増田　和久・佐藤　暢展・熊倉　伸也・田村　正光・金子　英高・金山　英功・岡部　恒夫・丸山　誠・佐野　純・中村　徹
地域交流特別室	大杉　努	地域交流特別委員会	長谷川　隆	町田　大輔 西澤　克彦	林　雅之 伊丹　新	渡辺　正浩・諸橋　和英・近藤　清規・近藤　久嗣・池原　清・植木　智・笠井　和広・竹中　進介・椎谷　淳・中村　義孝・山本　博
NBC特別室	早川　博文	NBC大会実行委員会	長谷川　朗	佐藤　勉	安藤　善和 大竹　祐介	渡邊　泰崇・綿貫　賢一・藤井　英雄・畑田　敏宏・重山　靖浩・高橋　徳久・関川　卓至・今井　雅人・家坂　貴宏・曽原　保・三浦　明 鈴木　成夫・布施さゆり・小島　美和・吉原　章一・大関　望・星野　豊紀・鈴木　友也・大柴　直樹

50代理事長
早川博文

2004

未来を切り開く大いなる勇気を抱いて
～勇気、それは実力を伴った強い信念～

経済不況・社会状況も非常に不安定な環境の時代であり、「未来を切り開く大いなる勇気を抱いて　～勇気、それは実力を伴った強い信念～」をスローガンに掲げ、この乱世を戦い抜く強い青年として、更なる50年後100周年まで強く存在し続ける為の礎となる様強い信念を持って活動してゆく事を目指した年でした。

歴史の中から新しい時代を見出す為にOBの皆さんを訪問し、JC観だけに限らず人生訓を学び、我々青年がこれから進む時代のヒントを沢山学 ぶ事が出来ました。

また、翌年は「平成の大合併」で長岡市も周辺6町村と合併し「新」長岡市となります。そこで、合併する各町村の青年団体と交流を図りお互いの連携を模索致しました。

他にも真のリーダーについて学ぶ例会をシリーズで行ったり、親子のコミュニケーションについて考え、21回目を迎えた灯籠流しでは戦争の真実を後世に伝える為に平和の鐘を造り、長岡祭り参加事業も新しい形を模索。又、50周年の準備を進める中で、乾杯のお酒を自ら作ると計画した田植え等の事業ではメンバー同士楽しく交流が出来ました。

この年は7.13水害、そして新潟県中越大震災と大きな自然災害を2度も経験する事となり、神に我々の真価が問われている様な気すらする年となりました。予期せぬ出来事で深い悲しみと辛い思いをしましたが、一方で改めて青年会議所組織の力強さと友情の深さを実感することができました。そして50周年を迎えた今年、今尚復興に向けて精一杯頑張っているメンバーの皆さんの苦労が必ずや報われる事を信じ、そして必ず元気に復興した長岡で元気に青年会議所が活動している事を祈念して、2004年度の活動報告に代えさせていただきます。皆様ありがとうございました。
（50周年記念誌より抜粋）

交流事業「Relation A Go! Go!」

復興チャリティ寄席

●委員会と役員名

理事長	早川　博文	専務理事	藤井　英雄
直前理事長	渡邊　克巳	監事	宮下　嘉克・伊藤　芳也・石田　章
副理事長	鷲尾　達雄・関川　卓至・坂口　徳之・今井　雅人	事務局長	長澤　彰浩
理事	長谷川　隆・渡辺　正浩・近藤　英弥・土屋　博司・桐生　伸一・三浦　明・酒井　康雄・佐藤　暢展・可児　雅幸・家坂　貴宏・古川　勇人・西澤　克彦 町田　大輔・大関　望・近藤　久嗣・金内　正浩・長谷川佐久信・村田　靖・大柴　直樹・渡邊　滝博・大野　太・渡邊　泰崇・永井　康之・大原　康一 小池　雅仁・長谷川　朗・喜多村　浩・中山　靖男・上村　宏・永井　浩美・樋口　勝博・重山　靖浩・村上揚市郎		

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
開発室	長谷川　隆	総務委員会	三浦　明	大関　望	鈴木　友也	中村　徹	大野　太・名児耶伸雄・金子　大三・大塚　浩一・佐藤　貴光・中島　光嘉・大谷　晃正・鈴木　成夫・韮沢　正志 佐藤　善則・吉野　輝昭・猪井　一之
		ＬＤ委員会	酒井　康雄	近藤　久嗣	廣井　幸輔	志水　謙一	渡邊　泰崇・早川　一仁・永井　康之・高橋　徳之・曽原　保・布施さゆり・佐藤　勉・岡部　恒夫・丸山　司・五十嵐直行
交流室	渡辺　正浩	交流委員会	佐藤　暢展	外川　則夫	土田　直人	小林　健一	佐藤　昌秀・大原　康一・小池　雅仁・長谷川　朗・喜多村　浩・中澤　弥・五十嵐隆幸・金山　英功・岩下　浩之 栃倉　恒明・丸山　雄二・渡辺　至誠・高野　健次・小林　英之・諸橋　京輔・丸山　裕樹・中嶋　弦樹・五井　正彦 清水　弘之・加藤　正規・伊丹　征紀・渡邊辰太郎・飛田　善行・河村　直人・市村　栄大
		親子委員会	可児　雅幸	金内　正浩	大竹　祐介	佐野　純	三浦　考晃・古川　智・若月　康裕・木村　匡孝・中山　靖男・飯田　新一・笠井　和広・金子　英高・伊丹　智之 阿部　宣宏・加藤　恵介
事業室	近藤　英弥	柿川灯籠委員会	家坂　貴宏	星野　豊紀	丸山　誠	仲丸　達雄	久保　孝之・室橋　秀樹・長谷川嘉一・内山　直樹・上村　宏・永井　浩美・中村　義孝・川島　博・今井　毅・原　千鶴子
		御輿委員会	古川　勇人	木村　信丈	星野　敬	平澤　政幸	樋口　勝博・諸橋　和英・重山　靖浩・茨木　学・近藤　清規・吉田　貢・小山　勝彦・青木　健児・竹中　進介・土田　勝也 真水　和也・室橋　学
政策室	土屋　博司	合併委員会	西澤　克彦	長谷川佐久信	大柴　直樹	平野　利幸	外川　昌樹・畑田　敏宏・永見峰登志・細貝　宏典・小島　美和・小林　隆洋・池田　清一・中静　剛・林　雅之・細木　智広 中村　公哉・中條　秀樹
50特別室	桐生　伸一	50特別委員会	町田　大輔	村田　靖	渡邊　滝博	平石　祥吉	原　信博・増田　和久・綿貫　賢一・本間　厚自・村上揚市郎・吉原　章一・伊丹　新・井上　宏朋・川上　浩司・佐藤　崇 石坂　篤史・茨木　和朗

51代理事長
桐生伸一

2005

以和為貴（わをもってとうとしとなす）

築かれし歴史を尊び 不変の志を受継ぐ 新たな未来の創造に向けて 自ら行動する。

長岡青年会議所50周年という記念すべき年の理事長を拝命し、大きな節目を迎えるにあたり長岡JCの揺ぎない屋台骨になる覚悟を以って所信を書き上げました。

しかしながら、前年の2004年10月23日に中越大震災が発災し、大きな被害を受けた市内各所や山古志村・小千谷への支援をしながら復旧復興へ繋げる活動が不可欠になり、すでに理事長所信を理事会で発表しておりましたが、序文を追加し再審議いたしました。

年初の京都会議の中でお世話になった全国のLOMに対して、日本青年会議所総会で登壇し被災地支援の御礼を述べさせていただくことが出来ましたし、神戸JCとの交流も有意義でした。

長岡市として復興を模索している中に、石田副理事と樋口室長が長震災復興祈願花火フェニックスを打ち上げる構想を持ち帰り、中心となって市内の街頭や東京県人会総会などでPRを行い、協賛金を募りました。3度目の復興をやり遂げ、花火をあげた長岡魂に大変感動 いたしました。

50周年記念大会の実行委員長には若くて力のある人を、と思い、渡邊滝博君にお願いしました。また、鷲尾達雄君にはLOM改革委員会として、不変の志と新たな未来の創造に向けて、長岡JC全体の底上げと長岡JC宣言の構築に携わってもらいました。長谷川佐久信君の地域創造員会には長岡市合併を迎える中で、各地域の団体と交流を深めていただき、ネットワークを構築しました。そのネットワークが現在のフェニックス花火の活動に生かされています。

本年度はあえて、ひとづくり系の委員会を設置しませんでした。新入会員には推薦者のいる委員会に所属してもらい、夏に村田靖君率いるおまつり委員会に出向する形式を取りました。20代、30代の大人が一から人に教えてもらわなくてはならないということはないと思い、各委員会に入って自分で考えながら成長してもらいました。

50周年の記念事業として、5月公開例会にはスクールウォーズで有名な山口良治氏をお招きし、講演会を行いました。京都に何度も足を運び、何度も断られ、ようやく承諾をもらった五十嵐委員長と涙を流しながら訴えかける情熱に心を打たれました。

また、登山家の三浦雄一郎氏をお招きした7月の公開例会では、どれほど年を取ってもチャレンジ精神を忘れずにあきらめない姿勢を学びました。当時で70歳、今でも80歳を超えて登山をされている姿に敬意を表してやみません。式典では、「和」のイメージを実行委員長に伝え、アイディアを練ってくれました。当日は、渡辺正浩副理事長が先頭を切って、感動的なセレモニーをしてくれました。

10月には、「十八代目中村勘三郎新潟県中越地震復興支援公演」を開催しました。中村勘三郎氏が中越大震災1年を経過して、是非ともやりたいとお話をいただき、中村氏のご厚意で市民に向けて無料で開くことができました。

震災、50周年と無我夢中で1年半の間、駆け抜けました。この長岡JCの活動が、米百俵の精神や常在戦場のように、伝説に成り得たかどうかは後年の評価になるでしょう。しかし私は忘れません。激動の一年間を興し、和を以って成し遂げ、私を支えてくれたJayceeたちのことを、We believe心から感謝の念と共にありがとう。

●委員会と役員名

○：理事

理事長	○桐生　伸一	専務理事	○土屋　博司
直前理事長	早川　博文	監事	渡邊　泰崇・渡邊　克巳・長沢　彰浩
副理事長	○石田　章・○渡辺　正浩・○喜多村　浩・○長谷川　隆	事務局長	○三浦　明

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	○西澤　克彦	総務委員会	○近藤　久嗣	本間　厚自	岡部　恒夫	茨木　和朗	中山　靖男・高橋　徳久・佐藤　貴光・近藤　清規・中島　光嘉・廣川　幸輔・川上　浩司・加藤　恵介
開発室	○佐藤　暢展	人間力委員会	○金内　正浩	金山　英功	伊丹　智之	諸橋　京輔	室橋　秀樹・早川　一仁・大塚　浩一・上村　宏・池田　清一・中静　剛・原　千鶴子・市村　栄大
		交流委員会	○戸川　則夫	○金子　英高	栃倉　恒明	河村　直人	坂口　徳之・可児　雅幸・丸山　誠・佐野　純・真水　和也・中嶋　弦樹・伊丹征紀
創造室	○長谷川　朗	青少年委員会	○五十嵐隆幸	○小林　健一	中條　秀樹	岩下　浩之	伊藤　芳也・綿貫　賢一・飯田　新一・関川　卓至・佐藤　勉・林　雅之・仲丸　達雄・丸山　裕樹
		地域創造委員会	○長谷川佐久信	吉田　貢	平野　利幸	細木　智広	古川　勇人・永井　浩美・木村　信丈・土田　勝也・室橋　学・高野　健次・清水　弘之
事業室	○樋口　勝博	灯籠流し委員会	○大野　太	○佐藤　善則	川島　博	五井　正彦	木村　匡孝・長谷川嘉一・重山　靖浩・今井　雅人・細貝　宏典・星野　敬・中村　徹・渡邊辰太郎
		おまつり委員会	○村田　靖	小山　勝彦	平澤　政幸	飛田　義行	○諸橋　和英・外川　昌樹・韮沢　正志・吉原　章一・竹中　進介・中村　義孝・○鈴木　友也・小林英之
周年企画室	○町田　大輔	50周年実行委員会	○渡邊　滝博	○平石　祥吉	志水　謙一	五十嵐直行	○宮下　嘉克・三浦　孝晃・畑田　敏宏・家坂　貴宏・布施さゆり・小島　美和・土田　直人・大竹　祐介
		広報委員会	村上揚市郎	伊丹　新	石坂　篤史	猪井　一之	若月　康裕・○増田　和久・○近藤　英弥・金子　大三・曽原　保・丸山　司・佐藤　崇・今井　毅
改革室	○鷲尾　達雄	LOM改革委員会	○大関　望	大柴　直樹	吉野　輝昭	阿部　宣宏	佐藤　昌秀・名児耶伸雄・○藤井　英雄・中澤　弥・小林　隆洋・井上　宏朋・丸山　雄二・渡辺　至誠

主な事業

3月17日	3月例会	More Vision! More Action!～気づき･実践し･向上し続けるために～
4月12日	4月例会	夢に向かって･･･～すばらしき新長岡を創造する～
5月17日	5月例会	山口良治先生講演会「熱き感動を求めて」特別講演会
6月4日	50周年記念ゴルフコンペ	50周年記念ゴルフコンペ
7月～8月	7､8月事業	テレビコマーシャル
7月8日	柿川事前清掃	柿川灯籠流し事前清掃
7月14日	50周年記念講演会例会	三浦雄一郎「夢･あくなき挑戦」70歳エベレスト世界最高年齢登頂
8月1日	宵宮神輿渡御	夢神輿
8月1日	灯籠流し	灯籠流し
8月2日	震災復興プロジェクト	第一回震災復興祈願花火フェニックス打上げ
8月5日	納涼例会	わくわく納涼祭
9月4日	50周年記念式典･懇親会	創立50周年記念式典･懇親会
9月17日	9月事業	夢と自然の体験研修
9月21日	9月例会	心で咲き逢う交流の種
10月27日	震災復興プロジェクト	十八代目中村勘三郎新潟県中越地震復興支援公演

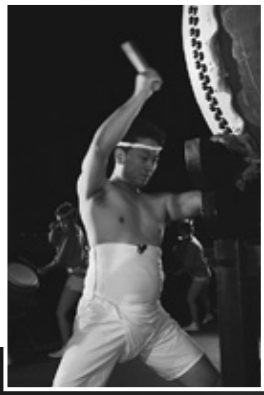
時代祭

川端さん来訪

5月例会　山口良治先生講演会
「熱き感動を求めて」特別講演会

卒業スピーチ例会

50周年記念式典



祝賀会

忘年会

十八代目中村勘三郎新潟県中越地震復興支援公演

52代理事長
今井雅人

2006
未来（あす）への一歩
～夢あふれる社会の創造に向けて～

前年に50周年記念大会を終え、新しい一歩を踏み出す気持ちで理事長の職を預かりました。この年に「長岡市制100周年事業」が長岡市で実施される事を受け、にわかに長岡JCも慌ただしくなりました。市制100周年事業について市から予算が出るとの話があったのが3月になってからで、そこから具体的な事業構築が始まりました。メンバーからは、JCはイベント屋ではないという声も一部では上がりましたがLOMとしてかかわることにしました。

市制100周年記念の夢百俵事業は、準備期間が3か月程度しかなく、みんなで力を合わせなければできないと危機感を持ちました。そこで、短い準備期間で全員の力を合わせて事業を行うために、前代未聞でしたが、理事会をそのまま実行委員会とする事を承認頂きました。夢百俵事業のテーマ「次代を担う子供たちの夢を育む」というテーマだけは決めさせて頂き、そのテーマに合うようにLOMを、ヒーローチーム、バスチーム、夢百俵塾の3つに分けて事業を行いました。

「ゆめ100戦士ソイガイヤー」は、子ども達がヒーローを考え、シナリオはメンバーで考え、プロのアクターを使うなど、完成度が非常に高いものができたと思います。長岡JCがやると本気になるんだということを見せることができ、森市長も賛同して頂き、充実したものになりました。

夢百俵塾は、長岡産野菜を使ったカレーを提供したり、ソイガイヤーの公演をしたり、米村でんじろうさんを呼んだりして、子どもに楽しんでもらえました。

バスについても、バス会社もJCでやるからということで、了承してもらえました。このようなことができたのはJCだからこそだったと思います。

せっかくのJCだから、硬くならずにやろうと思いました。3つの事業のチーフには、JCへの思いが詰まっている人にやってほしいと思ったので、卒業生に就いてもらい、チーフを中心にして、何がやりたいか、全会員に問いかけて事業を行いました。

理事会は面白かった。青年会議所はその名の通り議論すべき場と考えておりました。時間が延びることはありましたが、がっつりやらなければ面白くないとの思い、理事会は時間に関係なく行いました。理事会の後に実行委員会を行うときは、12時まで延びることも稀ではありませんでした。説明するには、自分の頭の中に絵ができていることが大事だという発想で会議を進めました。イメージを持っていると、聞き手に考えが伝わりやすく、建設的な意見も出てくる。JCをそういうことのトレーニングの場にもしてほしいと今も思っております。

自分は、会員がやりたいことをやってほしいと思っていたので、理事長の信　は、具体的なことよりも、好きなことをやってほしいと考えておりました。新入会員であっても会費を払っている以上やりたいことをやってほしいという思いもあったのです。

JCに入ったからには、仲間づくりということに加え、人と人とのつながりを大事にしてほしい。JCのつながりは、人間のつながりなので、まずは卒業を目標にぜひやり切ってほしいと思います。

●委員会と役員名

○：理事

理事長	○今井　雅人	専務理事	○長澤　彰浩
直前理事長	桐生　伸一	監事	藤井　英雄・喜多村　浩・関川　卓至
副理事長	○西澤　克彦・○三浦　明・○土屋　博司・○町田　大輔	事務局長	○重山　靖浩

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	○綿貫　賢一	総務委員会	○本間　厚自	岡部　恒夫	井上　宏朋	高橋　亨	○早川　一仁・諸橋　和英・近藤　清規・古川　勇人・佐野　純・土田　勝也・○志水　謙一・中嶋　弦樹 伊丹　征紀・渡邉辰太郎・石黒　裕隆
開発室	○可児　雅幸	ひとづくり委員会	○木村　信丈	川島　博	○五十嵐直行	丸山　清貴	中山　靖男・小島　美和・小林　隆洋・○小山　勝彦・○大関　望・○大柴　直樹・中村　徹・佐藤　崇 猪井　一之・丸山　一弥・工藤　伸二・梅澤　順一
		経営開発委員会	○仲丸　達雄	阿部　宣宏	丸山　裕樹	長谷川　幹	○鷲尾　達雄・坂口　徳之・金子　大三・大塚　浩一・佐藤　貴光・中静　剛・○岩下　浩之・渡辺　至誠 高野　健次・草間　格・吉原　一博
創造室	○増田　和久	青少年委員会	○吉野　輝昭	河村　直人	○五井　正彦	丸山　雄二	畑田　敏宏・○高橋　徳久・戸田　則夫・伊丹　智之・小林　英之・清水　弘之・野村　武司・鈴木　尊・田中　貴夫 丸山　繁昭・鈴木　知幸
		まちづくり委員会	○佐藤　善則	○丸山　誠	大原　邦夫	五十嵐陽平	若月　康裕・○家坂　貴宏・布施　さゆり・金子　英高・廣川　幸輔・細木　智広・栃倉　恒明・小林　薫・原　和正 山崎　勤・北沢　秀作
事業室	○村田　靖	おまつり委員会	○鈴木　友也	○平澤　政幸	竹中　進介	丸山　真一	村上揚市郎・長谷川佐久信・永井　浩美・○伊丹　新・星野　敬・中村　義孝・真水　和也・原　千鶴子 荒瀬　亨・市村　亮介・吉田　巌
		夢百俵委員会	○小林　健一	○平野　利幸	○諸橋　京輔	水澤　元博	○長谷川　朗・飯田　新一・韮沢　正志・吉原　章一・金子　英功・石坂　篤史・茨木　和朗・中條　秀樹・室橋　学 瀧川　寛人・中野　澄
渉外室	○渡邊　滝博	交流渉外委員会	○上村　宏	○土田　直人	飛田　義行	遠藤　富幸	佐藤　暢展・中澤　弥・○長谷川　浩・近藤　久嗣・中島　光嘉・池田　清一・○大竹　祐介・平石　祥吉 市村　栄大・長部　亮司・鷲頭加思郎

主な事業

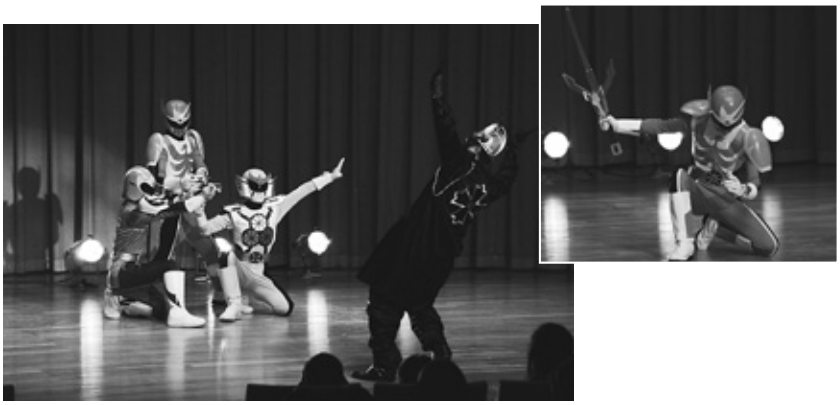
3月15日	3月例会	情熱大陸!　～夢への一歩を踏み出すために～
3月25日	経営開発事業	真・お客様満足
4月12日	4月例会	まちづくりの未来への一歩～私達の考える社会起業家とは～
5月17日	5月例会	I am a father　～元気な"ただいま!"を聞く為に～
5月20～21日	経営開発訪問事業	顧客づくりを学ぼう
5月27～28日	トレーニングセミナー	剣道体験・研修
6月～7月	6、7月事業	長岡フェニックスPR・募集キャラバン
6月21日	6月例会	武士道から学ぶ～「礼」を重んじる心～
7月12日	7月例会	出航・出向・出交
7月30日	柿川事前清掃	柿川灯籠流し事前清掃
8月3日、9月24日	夢百俵事業	ヒーロー企画募集チラシ作成事業
8月3日、9月24日	夢百俵事業	ヒーロー企画ソイガイヤー事業
8月～9月	長岡市制100周年・合併記念事業	DreamCanBus　～夢を乗せて地域をつなごう～
8月1日	柿川灯籠流し	柿川灯籠流し
8月1日	宵宮神輿渡御	夢神輿
8月5日	納涼例会	リラックス&リフレッシュ納涼祭
9月24日	長岡市制100周年・合併記念事業	ゆめ百俵塾
10月4日	10月例会	「未来への一歩」を振り返る!!
10月15日	10月事業	I am a father　～ヨシノテルリング～

卒業生スピーチ例会

ゆめ百俵塾

長岡市制 100 周年・合併記念事業　「DreamCanBus　～夢を乗せて地域をつなごう～」

ヨシノテルリング


9月事業　「ヒーロー企画ソイガイヤー事業」

柿川清掃

4月例会　「まちづくりの未来への一歩
～私達の考える社会起業家とは～」

7月例会　「交流渉外委員会担当例会」

忘年会

臨時総会

53代理事長
関川卓至

2007

愛郷心から愛国心

～郷土長岡の誇りを胸に崇高な精神文化を次世代に～

理事長という職を受けるにあたって自らの郷土、自らの国を愛せなくて郷土の発展、国の発展はないとの考えから「愛郷心から愛国心」というスローガンを掲げ1年間の活動をスタートしました。この年は奇しくも日本青年会議所でも近現代史を学び直す機運が高まっており、全体的な流れの中で日本及び郷土長岡や大東亜戦争を学び直すといった日本人の心を取り戻す活動を行いました。

具体的な事業では大東亜戦争から近現代史を学ぶ例会を4月に行いました。この例会は資料を他のLOMが借りに来るぐらいの完成度で、多くのメンバーに我が国「日本」を考えてもらう良い機会を提供できたと思います。また、トレーニングセミナーでは山伏修行を山形で行い、滝行や火渡り等通常では体験できない貴重な体験をしました。

通年事業ではダンスを通じて長岡を活性化するということで、ダンスを通じた「活動」を行いました。最後は市立劇場で発表会を盛大に行うことができ設営した青少年委員会と一緒に大きな達成感を味わうことが出来ました。それ以外にも、泊りがけの経営勉強会や灯籠流し・神輿渡御など多くの活動を委員長中心にメンバーが企画しやり遂げてくれました。

この年は新潟ブロック協議会や日本青年会議所に多く出向者を出しました。この出向から得られる情報や連携を多くの事業へ活かすことが出来たと思います。中でも、近現代史を学び直す事業においては、多くの連携を得られたと考えております。

また、北陸信越地区協議会の事業でモンゴルへの植樹を行うというものがあり、多くのメンバーと一緒にモンゴルまで行ったのは今となっては良い思い出です。

1年間理事長を通じて感じたことは、自分がみんなを率いていたというより、多くのメンバーに助けてもらって1年間理事長をさせてもらっていたということです。みんなの助けがあって無事に1年間を終えられたわけで、感謝の言葉しか浮かびません。

最後に、JCという組織は「世界最大の学び舎」というように、多くの成長が得られる団体だと思います。委員会、理事会で1つの事業について、趣旨・目的から真剣に議論しあう会議体はそうそうないと考えますし、そこから得られる最高のアイデアや各委員会のカラーに合わせて全員の方向性を一致させ行動することは仕事や他の活動へも生かせるものです。40歳までの活動です。これからのメンバーも妥協することなく頑張ってください。

●委員会と役員名

○：理事

理事長	○関川　卓至	専務理事	○村田　靖
直前理事長	今井　雅人	監事	坂口　徳之・町田　大輔・三浦　明
副理事長	○長谷川　朗・○重山　靖浩・○可兒　雅幸・○渡邊　滝博	事務局長	○村上　揚市郎

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	○高橋　徳久	総務委員会	井上　宏朋	○中村　徹	梅澤　順一	野村　武司	○喜多村　浩・金子　大三・佐藤　貴光・中島　光嘉・韮沢　正志・土田　直人・石坂　篤史・○茨木　和朗 神谷　淳一・深見　太朗
創造室	○木村　信丈	まちづくり委員会	大原　邦夫	長谷川　幹	○鷲頭加思郎	吉原　一博	本間　厚自・西澤　克彦・池田　清一・○大柴　直樹・○仲丸　達雄・荒瀬　亨・小林　薫・草間　格・山崎　勤 長谷川　浩
史学室	○平石　祥吉	歴史心学委員会	平野　利幸	○諸橋　京輔	○水澤　元博	丸山　一弥	古川　勇人・○土屋　博司・廣川　幸輔・○細木　智広・吉野　輝昭・瀧川　寛人・丸山　繁昭・遠藤　富幸 吉田　巌・鈴木　知幸
開発室	○上村　宏	経営開発委員会	伊丹　新	○五井　正彦	田中　貫夫	井筒　一郎	中山　靖男・○小林　隆洋・金子　英高・○竹中　進介・中静　剛・渡邊辰太郎・○丸山　真一・礒谷　哲夫 山崎　嘉平太
		交流渉外委員会	五十嵐　直行	○伊丹　智之	○工藤　伸二	佐田　直人	家坂　貴宏・近藤　清規・岡部　恒夫・鈴木　友也・丸山　誠・○佐藤　善則・丸山　清貴・鈴木　尊・山崎　圭介
事業室	○長谷川　隆	おまつり委員会	平澤　政幸	○飛田　義行	五十嵐　陽平	市村　亮介	畑田　敏宏・○吉原　章一・星野　敬・中村　義孝・○小林　健一・栃倉　恒明・志水　謙一・川島　博・高橋　亨 北沢　秀作
		青少年委員会	大竹　祐介	○佐野　純	中條　秀樹	長部　亮司	○佐藤　暢展・諸橋　和英・大塚　浩一・○岩下　浩之・猪井　一之・原　千鶴子・阿部　宣宏・○伊丹　征紀 水野　陽介・伊藤　太紹
		次世代育成特別委員会	○桐生　伸一	布施さゆり 渡辺　至誠	市村　栄大	高野　健次	○綿貫　賢一・近藤　久嗣・小山　勝彦・○長谷川　佐久信・土田　勝也・佐藤　崇・○丸山　雄二・室橋　学 丸山　裕樹・中嶋　弦樹

主な事業

3月9日	3月合同例会	Forum21　3月合同例会
3月29日	ブロックとの連携事業	「市民意識変革～マニフェスト型公開討論会～」を学ぶ
4月～10月	通年事業	Dance for Joy! Jump for Joy!
4月17日	4月例会	「知らされなかった日本」～生き続ける　War　Guilt　Information　Program～
5月17日	5月例会	育てよう、子供達の環境
6月2、3日	経営開発事業	Love　Company?～今、そして未来を映すサバイバルゲーム～
6月21日	6月公開例会	共に語り、考えよう!長岡のまちなか!
6月23、24日	トレーニングセミナー	山伏修行体験塾
7月17日	7月例会	ESアップでやるKING!!
7月29日	柿川事前清掃	柿川灯籠流し事前清掃
8月1日	柿川灯籠流し	柿川灯籠流し『昭和二十年の夏の日を忘れない』
8月1日	宵宮神輿渡御	夢神輿
8月10日	納涼例会	家族は納涼、メタボはDANCE
9月2日	子供向け事業	長岡思いやり教室
10月4日	10月例会	長岡JCを愛していますか?

4月例会　「知らされなかった日本」
～生き続ける　War Guilt Information Program ～

森市長を招いての6月例会　「共に語り、考えよう! 長岡のまちなか!」

Dance for Joy! Jump for Joy!

3月事業「市民意識改革～マニフェスト型公開討論会～」

7月例会　「ES アップでやる KING」

夢神輿

柿川灯籠流し

6月事業　「Love　Company?～今、そして未来を映すサバイバルゲーム～」

6月トレーニングセミナー「山伏修行体験塾」

納涼例会

忘年会

54代理事長
町田大輔

2008

SHIFT-Challenge Spirit

原点に立てば　志生まれる　誇りを抱き
未来志向の発想と行動で　新たなる創造を

50周年記念大会に担当室長として関わってから3年後、長岡JCを引っ張る立場として理事長を拝命いたしました。50周年に中心的に関わったメンバーの多くの先輩たちが卒業を迎えていく中で、大きな事業で培った企画・設営・対応力を次代に引き継いでいく必要があると考え、年初スタート時のメンバーが116名という少ないにも関わらず、あえて9委員会という多くの組織を編成し、一人あたりの負荷を増やす形にしました。反対の声もありましたが、役職が人を育てると言います。結果として、すべての委員長、委員会スタッフが期待に応え、優秀な人財に育ってくれたと思っています。

また先述したように、年度初めの段階で116名のメンバーでの船出でした。この人数では今までの事業や体制を維持できません。2008年度の次の重要なミッションは、会員拡大です。既に前年に副理事長も歴任していた渡邊滝博君に頼み込み、会員拡大特別委員会を設置し、全委員長を特別委員会のフロアーメンバーとして、会員拡大をLOM全体の事業として取り組みました。そのやり方は、まさに「営業会議」。今までにない体制で各委員長には苦労をかけましたが、1月の新年例会で25名もの新入会員にバッジ授与を行い、最終的には45名もの新しい仲間を迎え入れることができました。これも渡邊特別委員長が当時は新しかったグループメールなど、いろいろなツールを使って会員拡大の気運を高め、各委員長もそれに応えてくれたおかげだと思います。

そして、1年を通じて行った各事業や例会では、「バカバカしいことをまじめにやろう」と発破をかけ、新しい試みを次々と実践しました。1月の京都会議において、LOMの理事会を開催したことは後にも先にもこの年だけだったでしょう。灯籠流しのセレモニーを大手通りで行ったり、トレーニングセミナーを漁船で行ったり、みんなで富士山に登ったりと多くの無茶苦茶なことを実現できたのも、各委員会がまじめにアイディアを出して取り組んでくれたおかげです。浜松での全国大会にバスで100名以上のメンバーと行くと言い出したのは平石専務理事ですが、結果多くのメンバーを「新井までなら」と、無理に乗車させ、途中下車させたことは今でも申し訳ないと思っています。

最後に2008年度の欠かすことのできないミッションとして、桐生伸一君が新潟ブロック協議会会長として出向され、これをLOMとしてバックアップするということでした。11月のブロックコンファレンスでは、桐生会長が新潟ブロックで一年間お世話になった御礼を輩出LOMから行いたいと、理事会でも議論が紛糾しましたが、前代未聞のLOMの予算をも使って設営し、若手への育成投資や、長岡らしい「おもてなし」を行うことができました。

一年を通じて、メンバーに語りかけてきたことは「やれない理屈を言わず、やれる理屈を考えよう」ということです。小さくまとまらず、長岡JCが大きくなるためにメンバーには負担も多くかけましたが、2009年度の渡邊理事長に更に大きなチャレンジしてもらえるLOMとして、ちょっとはバトンを渡せたのではないかと思っています。

●委員会と役員名

○：理事

理事長	○町田　大輔	専務理事	○平石　祥吉
直前理事長	関川　卓至	監事	長谷川　隆・重山　靖浩・長谷川佐久信
副理事長	○木村　信丈・○村田　靖・○大原　邦夫・○土屋　博司	事務局長	○平澤　政幸

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	（兼）平澤政幸	総務委員会	○鷲頭加思郎	吉原　一博	野村　武司	石黒　俊之	近藤　久嗣・韮沢　正志・佐野　純・飛田　義行・鈴木　尊・山崎　勤・栗原　夕輝・樫出　昭義
地域室	○伊丹　新	長岡の誇り委員会	○諸橋　京輔	田中　貴夫	丸山　繁昭	瀧川　寛人	綿貫　賢一・金子　英高・井上　宏朋・丸山　誠・室橋　学・吉田　巌・神谷　淳一・風間　正信
		まちづくり委員会	○五井　正彦	茨木　和朗	高野　健次	山崎嘉平太	諸橋　和英・家坂　貴宏・本間　厚自・大竹　祐介・渡邊辰太郎・荒瀬　亨・長谷川　浩
事業室	○鈴木　友也	育成環境委員会	○土田　直人	石坂　篤史	丸山　裕樹	山崎　圭介	坂口　徳之・古川　勇人・廣川　幸輔・栃倉　恒明・丸山　雄二・猪井　一之・原　千鶴子・吉田　了
		おまつり委員会	○星野　敬	竹中　進介	佐藤　富士夫	長谷川　章	高橋　徳久・佐藤　貴光・小山　勝彦・吉原　章一・中村　義孝・中村　徹・渡辺　至誠・長部　亮司・五十嵐　稔
創造室	○平野　利幸	経営創造委員会	○中静　剛	大柴　直樹		深見　太朗	土田　勝也・川島　博・中條　秀樹・中嶋　弦樹・市村　栄大・丸山　一弥・草間　格・広井　義晃・田中　貴史
		ひとづくり委員会	○工藤　伸二	小林　薫	市村　亮介	○磯谷　哲夫	中島　光嘉・上村　宏・小林　隆洋・佐藤　崇・志水　謙一・伊丹　征紀・丸山　清貴・白瀬　辰次・川又　成高
		NBC特別委員会	○布施さゆり	遠藤　富幸	高橋　亨	難波　俊輔	桐生　伸一・村上揚市郎・阿部　宣宏・水澤　元博・長谷川　幹・梅澤　順一・井筒　一郎
		拡大特別委員会	○渡邊　滝博	○伊藤　太紹	○五十嵐陽平	渡辺　茂治	（兼）布施　さゆり・（兼）中静　剛・（兼）土田　直人・（兼）星野　敬・（兼）諸橋　京輔・○五井　正彦 （兼）鷲頭加思郎・（兼）工藤　伸二

主な事業

3月12日	3月合同例会	Forum21　3月合同例会
4月16日	4月例会	見て･観て･長岡～目を向ければそこに、偉人たちの業績があった～
5月15日	5月例会	子育てを地域で考えよう～未来に子どもたちが笑顔で暮らすために～
5月17日	5月事業	素晴らしき経営の実現を目指して
6月8日	6月事業	くど一漁船スクールin寺泊～更なる結束を求めて～
6月18日	6月例会	みんなで創ろうシティホール
7月17日	7月例会	「JC活動は会社に活かせる!」～JCを頑張れば会社は良くなる、地域は良くなる～
7月21日	柿川事前清掃	柿川事前清掃
8月1日	柿川灯籠流し	柿川灯籠流し
8月1日	宵宮神輿渡御	夢神輿
8月1日	昼事業	長岡まつり昼事業
8月5日	納涼例会	まだまだ祭りはおわらない～Never　ending　Summer　Festa～
8月24，25日	8月事業	気高き日本の頂
9月20日	9月事業	お父さんも子育てを楽しもう!～学び、ふれあい、感動～
10月8日	10月例会	10月広報例会～更なる創造に向けて～
11月26日	11月例会	卒業生スピーチ　～300秒に想いをのせて～

Teny 収録

スピーチ例会

4月例会　「見て・観て・長岡 ～目を向ければそこに、偉人たちの業績があった～」

第2回ブロックコンファレンス

5月例会　「子育てを地域で考えよう
～未来に子どもたちが笑顔で暮らすために～」

宵宮神輿渡御

納涼例会

新年会

灯籠流し

忘年会

55代理事長
渡邊滝博

2009

夢あふれる未来の創造は我々青年の仕事である！
未来を語れ！変化を恐れるな！自らの成長こそがまちの発展に繋がる

中越大震災発災から5年を迎えるこの年、理事長を拝命しました。当時、日本全国の各地青年会議所数並びに会員数は加速度的な減少傾向にありましたが、前年度に会員拡大特別委員会の委員長として45名の会員拡大を達成したことで、前年度の116名から、年初で137名でのスタートを迎えることができました。この会員拡大の気運の高まりは、以後も最も重要な青年会議所の活動として継続しております。

2009年は、先述の中越大震災発災から5年を迎える年であり、今我々が何不自由なく住み暮らすことのできる長岡市としても、大きな意味を持つ一年と言えました。震災発災直後より、多くの支援によって復旧から復興へ歩みを進めた長岡の地から、日本全国に感謝の気持ちを伝えたい、元気な長岡を見て欲しい。そして、震災の爪痕がまだ残る地域も多く残されていることを忘れてはならない、震災の記憶を風化させてはならない。被災地からのメッセージを、長岡青年会議所としてどのように発信するべきか、ということが最大のテーマであり、そのメッセージを事業として形にしたのが『THANKS FROM NAGAOKA』でした。Tシャツのデザインコンテスト、アーティストによるライブ、参加者が見て楽しむだけではなく、イベントに参加して一緒に創り上げる「市民参加型事業」として開催しました。この時に作った市民の笑顔のフォトモザイクは、日本全国から長岡に訪れる方々に「長岡は元気になっています」ということを見て、知ってもらいたい、という想いで、イベント終了後も長岡駅の構内に展示していただくことができました。そして、長岡の復興に尽力いただいた全国の青年会議所に対しても感謝の気持ちを伝えたい、という想いから、日本の青年会議所メンバーが一堂に会する全国会員大会（現・全国大会）の長岡開催実現を視野に入れ、計画的に日本青年会議所へメンバーを出向させることで、誘致を検討することを掲げました。今でこそ、毎年多くのメンバーが日本青年会議所に出向していますが、当時は日本青年会議所へ出向経験のあるメンバーも少なく、その意義についてもLOMスタッフの中でも議論になりました。LOMとしても試行錯誤しながら出向者を送り出しましたが、LOMとは違った学びと経験ができる機会として、翌年以降もメンバーが積極的に出向し、その数も多くなってきていることを嬉しく思います。

今後も継続的に会員拡大を続ける上で大切なことは、メンバーが学ぶ機会をより多くするということです。学び舎はLOMだけでなく、ブロック協議会、北陸信越地区、そして日本とあります。それら全てを使って、多くのメンバーが様々な学びを得て、これからの長岡のまちづくりに活かして欲しいと思います。

45年ぶりとなった新潟での国民体育大会「トキめき新潟国体」開催に、青少年育成活動の一環として気運醸成に努めたり、企業理念に基づいた環境経営を考えようと試みたり、長岡にとっての8月1日を尊い日と捉え、「恒久平和を誓う日」に制定しようと長岡市に働きかけを行ったのもこの年でした。長岡青年会議所としても、創立55周年を翌年度に控え、未来の長岡の姿を考えるターニングポイントになった一年 だったのではないかと思っております。

●委員会と役員名

○：理事

理事長	○渡邊　滝博	専務理事	○大原　邦夫
直前理事長	町田　大輔	監事	上村　宏・木村　信丈・村田　靖
副理事長	○綿貫　賢一・○平石　祥吉・○平野　利幸・○工藤　伸二	事務局長	○鷲頭　加思郎

委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務委員会	○吉原　一博	○野村　武司	樫出　昭義	西澤　崇志	○土田　直人・丸山　雄二・丸山　裕樹・吉田　巌・深見　太朗・○佐藤富士夫・松本　光央・野上　修佑・竹島　祥三・宮川　透 河内　健一・西片　英樹・村山　陽司
経営環境委員会	○井筒　一郎	○佐田　直人	○難波　俊輔	○今井進太郎	古川　勇人・○中静　剛・○中村　徹・阿部　宣宏・渡邉辰太郎・山崎嘉平太・長谷川　章・石橋　一寛・信賀　悟士・佐藤　直樹 梶田　幸嗣・五十嵐貴博・丸山　裕
長岡の誓い委員会	○遠藤　富幸	○瀧川　寛人	石黒　俊之	恩田　孝夫	竹中　進介・中村　義孝・鈴木　友也・○大柴　直樹・飛田　義行・長部　亮司・草間　格・山崎　勤・五十嵐　稔・○広井　義晃 田中　貴史・大川　直人・近藤　正明・平沢　晃・井上　賢太
おまつり委員会	○小林　隆洋	○吉原　章一	西澤　茂博	白瀬　辰次	○近藤　久嗣・金子　英高・○長谷川佐久信・○伊丹　新・川島　博・室橋　学・五井　正彦・荒瀬　亨・川又　成高・近藤　真弘 小林　大輔・飯田　和宏・山岸　利安
青少年委員会	○茨木　和朗	○磯貝　哲夫	吉田　了	佐藤　英次	本間　厚自・韮沢　正志・大竹　祐介・栃倉　恒明・佐藤　崇・○平澤　政幸・○石坂　篤史・高野　健次・市村　栄大・風間　正信 大塚　隆則・諏方　浩二・丸山　栄紀・鈴木　朋和
ひとづくり委員会	○小林　薫	○市村　亮介	○渡辺　茂治	高橋　一貴	家坂　貴宏・○村上揚市郎・渡辺　至誠・猪井　一之・伊丹　征紀・○田中　貴夫・○丸山　繁昭・高橋　亨・町田　浩二・西山　和里 高野　泰・青木　勝彦・田中　正樹・中村　陽・平澤　敏弘
復興特別委員会	○水澤　元博	○梅澤　順一	○丸山　清貴	上村　英輔	小山　勝彦・○佐野　純・中條　秀樹・○諸橋　京輔・丸山　一弥・長谷川　幹・五十嵐陽平・神谷　淳一・長谷川　浩・栗原　夕輝 礒田　信彦・丸山　慶太・堺　淳・道場　拓哉

主な事業

3月9日	3月例会	討論例会～企業倫理を考える～その時、あなたならどうする?
4月14日	4月例会	素晴らしき哉、JC!
4月26日	4月事業	聞かせて長岡空襲のこと～失くしてはならない記憶を未来へ～
5月14日	5月例会	公益?一般?それとも解散?5年後の「社団法人」長岡青年会議所!
5月30日	5月研修事業	「素晴らしき哉、JC!」～実践編～
6月2日	公開討論会	衆議院選挙公開討論会を学ぶ公開委員会
6月19日	6月例会	伸ばそう!活かそう!子どもたちの個性 ～夢に向かう子供たちの為に、大人たちが出来ること～
6月20日	6月事業	トキめき新潟国体開催100日前記念事業　青少年事業 「夢にトキめき!明日にかがやき!～ドリームチャレンジ　Yes!We　Can～」
7月8日	7月例会	環境経営を考える～これから、あなたならどうする?～
7月12日	柿川事前清掃	柿川灯籠流し事前清掃
8月1日	宵宮神輿渡御	夢神輿
8月1日	柿川灯籠流し	8月1日恒久平和を誓う日
9月27日	長岡婚活プロジェクト	素晴らしき哉、出逢い～ここから始めよう～
10月8日	10月例会	平和のために、今、私たちに出来ること
10月25日	10月事業	新潟県中越大震災発生から5年 「Thanks　From　NAGAOKA」～震災から立ち上がる文化の祭典～

7月例会　「環境経営を考える ～これから、あなたならどうする?～」

4月事業　「聞かせて長岡空襲のこと
～失くしてはならない記憶を未来へ～」

4月例会　「素晴らしき哉、JC!」

6月事業　トキめき新潟国体開催 100 日前記念事業　青少年事業
「夢にトキめき!明日にかがやき!～ドリームチャレンジ　Yes！We　Can～」

ASPAC 長野大会

9月事業　「長岡婚活プロジェクト
素晴らしき哉、出逢い～ここから始めよう～」

トレーニングセミナー

宵宮神輿渡御

Thanks From NAGAOKA

56代理事長
木村信丈

2010

変革の志が希望に満ち溢れた未来(あす)を創る
己を律し誇りのある地域・企業の発展に

55周年という記念すべき年に理事長に就任しましたが、最初は周年のことはそこまで深くは考えてはいませんでした。時代は2008年に起きたリーマン・ショックの余波を受け、社会の経済状態は悪く、それはこの長岡でも例外ではありませんでした。その中でいかに多くの会員拡大を行うかを試行錯誤していました。しかし、そんな時代だからこそ、JCとは自分を伸ばすだけでなく、企業を伸ばす機会が得られる団体にしたいという想いを抱いていました。

私は常にメンバーには、「JCを語れ!」と伝えてきました。その想いに惹かれて人は集まります。中途半端な人間を無理に入会させても長くはないと思い、「こいつは!」という人間をメンバーが引っ張ってきてくれたおかげで、素晴らしい会員拡大を行えたと自負しています。

また、周年のことはあまり考えなかったと冒頭で述べましたが、その時の周年を担う委員会でもあったひとづくり委員会の委員長であった丸山清貴現理事長が、PRキャラバンに精を出して、各地から多くの人が集い、素晴らしい盛り上がりを見せた55周年記念大会を開くことができました。

その他にも、セルフエスティームを基とした事業を行いました。個人的に学ぶ機会があり、これをJCの活動に生かせないかと考えておりました。セルフエスティームとは自尊心を持つことであり、ポジティブな自己をイメージし、自分自身を価値のある人間だと自覚し、自らの意識を高める。そして、自己だけでなく周りも支えて結束力を強くするなどの、他人に対しての影響力があるものでもあった。このセルフエスティームに関わる事業を経て、メンバーひとりひとりが自らを成長させ、その各々が強靭な組織を創り上げた結果、この大変な1年を乗り越えることができたのだと信じています。結果、55周年記念大会や、毎年の灯籠流しに神輿、そして3割を超えるカップルが成立した婚活事業と、すべてが大成功を収めました。

親交深いソウル江南青年会議所の方々を迎えた時は、両国の国旗を掲げた送迎車を用意して、長岡から新潟空港まで迎えに行き大変喜ばれました。こちらが江南JCに訪問した際には韓国語にてスピーチをするなど、こうした心を込めたおもてなしもこのJCで学び、育んだものです。

JCは私にとって学び舎でした。ここで知り合えた仲間とは何でも言い合える仲であり、もはやこれもひとつの新しい形の家族であると思う。JCに入っていなければ私はどうなっていただろうかと思う。それほどまでの多くの経験をこの長岡JCでは得ることができました。憧れの先輩の真似をするなどして学び、後に続く後輩に気付かせ導き、今こうした経験が私の人生の糧となっています。

●委員会と役員名

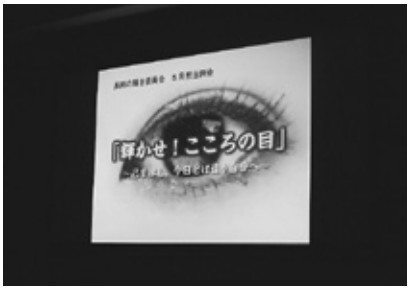
○：理事

理事長	○木村　信丈	専務理事	○水澤　元博
直前理事長	渡邊　滝博	監事	平石　祥吉・平野　利幸・大原　邦夫
副理事長	○長谷川佐久信・○平澤　政幸・○諸橋　京輔・○鷲頭加思郎	事務局長	○鈴木　朋和
		財政局長	○長谷川　幹

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
情報システム室	井筒　一郎	総務委員会	○梅澤　順一	○神谷　淳一	上村　英輔	内野　誠	韮沢　正志・○石坂　篤史・○茨木　和朗・伊丹　征紀・市村　栄大・吉田　巌・高橋　亨・難波　俊輔・野上　修佑 竹島　祥三・井上　賢太・脇本　瑠美・小谷松蔵人・土田　雅彦・山岸　弘幸・吉原　昌宏・星野　昌弘
		真経営道委員会	○佐田　直人	○深見　太朗	○佐藤　英次	神林　克彦	栃倉　恒明・佐藤　崇・中條　秀樹・丸山　裕樹・丸山　繁昭・○工藤　伸二・田中　貴史・今井進太郎・近藤　真弘 町田　浩二・石橋　一寛・信賀　悟士・田中　正樹・○河内　健一・大石慶太郎・青柳　恵介
地域維新室	村上揚市郎	歴史力学委員会	○田中　貴夫	○恩田　孝夫	風間　正信	佐藤　直樹	古川　勇人・小林　隆洋・土田　直人・○村田　靖・高野　健次・丸山　一弥・山崎　勤・栗原　夕輝・広井　義晃 ○石黒　俊之・大塚　隆則・○近藤　正明・竹樋　直也・伊丹　正和・稲川　雄一・齋藤　伸輔
		長岡の輝き委員会	○西澤　茂博	阿部　宣宏	○諏方　浩二	江口健太郎	吉原　章一・○竹中　進介・大竹　祐介・○伊丹　新・佐野　純・室橋　学・五井　正彦・○渡辺　茂治 川又　成高・丸山　慶太・青木　勝彦・丸山　裕・中村　陽・村山　陽司・平澤　敏弘・柳　吉見・神保　昌史
人間力室	小林　薫	おまつり委員会	○中村　徹	○長谷川　章	○西山　和里	竹野　裕介	中村　義孝・川島　博・丸山　雄二・渡辺　至誠・渡邉辰太郎・荒瀬　亨・○市村　亮介・草間　格・山崎嘉平太 五十嵐　稔・○松本　光央・高野　泰・堺　淳・三富　秀良・真貝　信行・池田　治
		ひとづくり委員会	○丸山　清貴	○五十嵐陽平	○高橋　一貴	渡部総一郎	綿貫　賢一・近藤　久嗣・小山　勝彦・長部　亮司・瀧川　寛人・○遠藤　富幸・○吉原　一博・吉田　了・樫出　昭義 白瀬　辰次・小林　大輔・山岸　利安・大川　直人・平沢　晃・道場　拓哉・丸山　栄紀・高野　恭司

主な事業

3月10日	3月例会	わたしのセルフ　エスティーム
4月14日	4月例会	変革の志～明治維新から学ぶ青年の気概～
4月18日	55周年特別事業	取り戻そう!輝く大人の背中
5月12日	5月例会	輝かせ!こころの目～己を律し、今日とは違う自分へ～
6月16日	6月例会	JC劇場2010～JCとは何か、JAYCEEとは何か、誇り高くある為に～
7月3日	7月事業	トキめきHeart　輝いて長岡!BBQ婚活♥MEATdeMEET♥
7月14日	7月例会	みんなでセルフ　エスティーム～そして強靭な組織へ～
7月18日	柿川事前清掃	柿川灯籠流し事前清掃
8月1日	灯籠流し	柿川灯籠流し～語り継ぐ慰霊の想い～
8月1日	宵宮神輿渡御	夢神輿
8月6日	納涼例会	みんな家族だ!夏まつりを楽しもう!
8月21日	8月事業	長岡藩校"平成崇徳館"
9月5日	55周年記念式典	社団法人長岡青年会議所55周年記念式典
9月5日	55周年懇親会	社団法人長岡青年会議所55周年記念式典懇親会
10月6日	10月例会	変革の志～三度の苦難を乗り越えた不死鳥たちの気概～
10月9日	新入会員設営事業	長岡JCファミリンピック2010～快汗、皆汗!一体感!!～
10月16日	10月事業	セルフ　エスティーム×JC青経塾=永続する元気な企業!
11月16日	11月例会	輝いて長岡!婚活inウェディングテーマパーク
11月26日	卒業生スピーチ例会	卒業生スピーチ例会～残したい!伝えたい!この想い～



5月例会　「輝かせ!こころの目 ～己を律し、今日とは違う自分へ～」

100% 総会

55周年記念式典

BBQ 婚活

55周年懇親会

55 周年特別事業「取り戻そう!輝く大人の背中」

10月例会　「変革の志 ～三度の苦難を乗り越えた不死鳥たちの気概～」

57代理事長
平石祥吉

2011

長岡 PRIDE
～自らに責任と誇りを持ち、新たな一歩に向けて～

前年に創立55周年という新たな節目を迎えた翌年に、第57代理事長を拝命することになりました。2011年3月11日に発生した東日本大震災の直後より、新潟県中越地震での恩返ししなければないという想いで、被災地での支援活動に積極的に取り組みましたが、当初から予定していた例会や事業をすべて行うことができたのは、会員の皆さんが頑張ってくれたおかげだと感謝しております。私自身の所信にも、「厳しい状況下においてもJCがしなければならないこと、JCだからこそ出来ること冷静に見つめ直し、それを見極め、活動に取り組んで参ります」と記載いたしましたが、まさに震災での支援活動は、厳しい時代だからこそ我々JCの真価が発揮できた時だったような気がします。

長岡JCは人財育成・会員開発に対して、県内LOMのなかでも定評があり、会員同士の絆も強く、組織の結束力はできあがっていたので、次のステップとして、我々の活動の素晴らしさを伝えていく必要性を感じておりました。また、多くの市民の方々にJCの活動に参加していただきたいという想いから、対外的な発信もプレスリリースなどを積極的に利用して、会員にも長岡JCの活動や団体に誇りとプライドを持ってもらいたいと考えておりました。

「自らに責任と誇りを持ち、新たな一歩に向けて」というスローガンですが、この年に公益法人制度改革と全国会員大会誘致について決断しなければならず、組織の今後の方向性を決めるのは会員一人ひとりであるから、みんなで決めたのであれば責任を持ってJC活動に邁進してほしいという想いがありました。また、翌年にはアオーレ長岡が竣工して、本格的に市民協働のまちとして期待されるなか、長岡JCは以前から行政と市民の協働を目指して活動をしておりましたので、行政との距離がぐっと縮まった年ではなかったかと思います。

長岡JCの事業で中途半端なことはやりたくなかったので、どのような手法を使えばまちの魅力を最大限に発信できるかを考えて、アイドルユニットYOYを結成しました。予想以上の反響があり数多くのメディアで取り上げられ、若い世代の人間がわかりやすく自分たちのまちの魅力を発信しているということを、多くの市民の方々に理解をしていただくことができたと思います。

理事長をさせていただいて、たくさんの仲間と共に汗をかき感動を共有し、未来を語ることができたことは私にとってかけがえのない財産であり、自分を磨ける多くの機会が持てたことに本当に感謝しております。会員は希望に満ち溢れた次世代の為に、このまちの明るい未来の為に素晴らしい活動をしている誇りとプライドを一人ひとりが持つことができ、そして新しい価値を創造することによって、人を惹きつける魅力を常に生み出す組織づくりに邁進した1年でした。いかなる状況下においてもJCが社会で果たすべき役割は不変です。明るい豊かな社会を築くためには、未来に向けて希望が持てる社会を創るために、我々はJCとして歩みを止めてならないと信じています。

●委員会と役員名

○：理事

理事長	○平石　祥吉	専務理事	○工藤　伸二
直前理事長	木村　信丈	監事	渡邊　滝博・村上揚市郎・諸橋　京輔
副理事長	○水澤　元博・○伊丹　新・○小林　薫	事務局長	○上村　英輔
		財政局長	○鷲頭加思郎

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
情報推進室	○梅澤　順一	総務委員会	○石黒 俊之	○江口健太郎	田中　潔	青木征一郎	近藤　久嗣・韮沢　正志・丸山　雄二・渡辺　至誠・○茨木　和朗・草間　格・風間　正信・村山　陽司・髙野　恭司 伊丹 正和・渡部 総一郎・土田　正憲・桃生 鎮雄
		まちづくり委員会	○鈴木 朋和	○佐藤　英次	○田中　正樹	佐藤　健	佐藤　崇・○平野　利幸・高野　健次・丸山　一弥・恩田　孝夫・道場　拓哉・井上　賢太・土田　雅彦・吉原　昌宏 清水　毅・岸　竜二・塩入　健之・北原　禎一
未来創造室	○遠藤　富幸	柿川灯籠委員会	○深見　太朗	○佐藤　直樹	近藤　正明	綱島健太郎	中村　義孝・中村　徹・室橋　学・吉田　巌・平沢　晃・河内　健一・柳　吉見・小谷松蔵人・○齋藤　伸輔 長谷川　啓・中村 健介・八木野 寿人・竹田 義将
		青少年夢学委員会	○竹中　進介	○白瀬　辰次	山崎嘉平太	倉重　一郎	小山　勝彦・石坂　篤史・渡邉辰太郎・長谷川　章・五十嵐　稔・広井　義晃・町田　浩二・○竹島　祥三・高野　泰 ○諏方　浩二・平澤　敏弘・三富　秀良・真貝　信行
ひとづくり室	○丸山　清貴	おまつり委員会	○五十嵐陽平	○樫出　昭義	長部　亮司	大川　俊泰	吉原　章一・○長谷川佐久信・平澤　政幸・○吉田　了・丸山　慶太・小林　大輔・大塚　隆則・丸山　裕・中村　陽 井上　洋・亀山　基・佐藤　大樹・野村 紘二
		拡大育成委員会	○渡辺　茂治	○高橋　一貴	○稲川　雄一	丸山　司	小林　隆洋・市村　亮介・高橋　亨・栗原　夕輝・西澤　茂博・○大川　直人・脇本　瑠美・竹樋　直也・山岸　弘幸 青柳　恵介・田中 康雄・永澤 政裕・小宮 信太郎
地域デザイン室	○村田　靖	地域力向上委員会	○今井進太郎	○西山　和里	池田　治	髙頭　明紀夫	五井　正彦・伊丹　征紀・○田中　貴夫・佐田　直人・川又　成高・石橋　一寛・青木　勝彦・堺　淳・竹野　裕介 桑原　望・渡辺　富幸・大宮　丈範・久保　和喜
		長岡JCビジョン戦略委員会	○中條　秀樹	○難波　俊輔	○神林　克彦	大石　慶太郎	大竹　祐介・阿部　宣宏・丸山　裕樹・○長谷川　幹・瀧川　寛人・松本　光央・信賀　悟士・内野　誠・星野　昌弘 伊比　寿志・村田　信幸・佐藤 和哉・高木 裕次

主な事業

4月1日~12月31日	まちづくり事業	市民協働プロジェクト～アイドル編～
4月16日	4月例会	長岡検定
5月22日	5月例会	平和の語り部　～未来へ語り継ぐ平和への想い～
5月28日	トレーニングセミナー	RUN　FOR　長岡PRIDE～個々の資質を高める為に～
6月2日	臨時総会内	法人格に関する決議
6月19日	6月事業	i-challenge　体験編～DreamingTennis　School～
6月19日	6月例会	i-challenge　講演編～夢はかなう!想い続ける大切さ～
7月13日	7月例会	故郷～自国の問題を地域の問題として～
7月18日	柿川事前清掃	「柿川灯籠流し」～慰霊の想いを込めて～
8月1日	灯籠流し	「柿川灯籠流し」～忘れてはならない長岡空襲～
8月1日	宵宮神輿渡御	長岡JC神輿
8月2日	長岡まつり昼事業	今、我々が出来る「感謝」
8月6日	8月納涼例会	夏・楽・演・祭　KA-RAKU-EN-SAI～元気ハツラツ?おまつりDAY～
8月20日	8月事業	i-challenge　職業編～大人の階段のぼる夏・・・～
9月4日	9月事業	地産地消祭り～くおーれ　ながおか～
9月25日	9月事業	「縁～えにし～」婚活in国営越後丘陵公園
10月7日	10月例会	共に描こう長岡の未来
10月22日	10月事業	「JCブランディング」～本気でJCを語る為に～
11月2日	11月総会	定款変更決議
11月2日	11月総会	全国会員大会主幹立候補に関する決議

5月例会「平和の語り部 ～未来へ語り継ぐ平和への想い～」

JC 救援隊 in 陸前高田

9月事業　「くおーれ長岡」

7月例会　「故郷 ～自国の問題を地域の問題として～」

新年例会

柿川灯籠流し

市民協働プロジェクト ～アイドル編～ Y.O.Y

宵宮神輿渡御

新潟元気宣言

杉山愛テニス教室

58代理事長
村上揚市郎

2012

気　概　～青年の青年による誇れる長岡の創造～

本年度は東日本大震災の翌年という特別な年でした。私は中越大震災が起きた翌年に50周年記念誌の作成を行う広報委員長になり、周年記念事業や中越地震の復興フェニックス花火の事業に動きましたが、結局周りがどんなに手出しをしても被災地の方が頑張り、活動できるようにならないと真の復興ではないと痛感しました。東日本大震災についても周りからの義援金を集めて送るなどの側面から支援を行い、現地の被災者の方に前向きに立ち上がってもらいたいと思っておりました。

その中でまず大きな事業だったことはタイムカプセル事業です。12月の最終例会で当年理事長が次年度理事長にキーを引き継ぐセレモニーが毎年ありました。JC入会以来、最初は何のキーなのかと思っていましたが、1982年の上越新幹線開業に合わせて長岡駅を盛り上げようと長岡JCが作ったものだと教えられました。前会長が日本JC歴代会頭だったという縁で、SEIKO本社に当時珍しかった逆算計の時計を依頼して作っていただき、長岡の新しい時代にふさわしい華やかなメインイベントが行われたと聞いています。30年間引き継がれてきた事業の締めくくりを担当する30年後の理事長として、オープニング当日は全国のNHKのニュースにも報道され、30年間で1番大きな役割をさせてもらいました。

また、本年度独特のカラーとして農業にスポットを当てた『農と地域活性化委員会』を作りました。農業だけにこだわる必要はないですが、JCの力では大きな企業を誘致できる力があるわけではないので、経済発展のために“今あるものを使って効率的にやろう”“長岡には何があるだろう”と考えたときに「農業」は何かしらの力を少し加えてやるだけで進むのではないかという考えがあり、異業種が集まった中で農業を考えてみたらどうかという事でやってみました。

アオーレ長岡が誕生し、市民協働の精神がより進展した年でした。アオーレ長岡誕生祭・エンジン02・婚活イベント・“Y.O.Y”ファイナルコンサート等々、前年から引き継いで締めくくったものと当年から挑戦したものを行政や他団体と係りあいながら実施してきました。行政や他団体との絡みが多い年だったと思います。

基本的に1年間何をやろうか考えたときに、JCはどうしても『友情』とか『仲間』というワードが出てきますが、それは修練をこなしていくからこそ達成できるのであって最初からそれが目的では出来ないという考えがずっとありましたので、メンバー向けのひとづくり活動は比較的少なめだったと思います。JCメンバー180人もいるのだから地域振興や経済振興など、長岡の発展に係っていこうと考えたわけです。

2012年度のJCメンバーには苦労もかけましたが、皆一生懸命やってくれたと思います。役職者や理事など皆快く引き受けてくれ、人事構築の段階で凄くスムーズに決まって本当に有難く思っております。多くの先輩から受け継がれてきた情熱と様々な協力をもって、まちづくり活動に全力で取り組むことができた1年だったと、今振り返ってみても胸を張って言える1年間であったと深く心に焼き付いております。

●委員会と役員名

○：理事

理事長	○村上　揚市郎	専務理事	○渡辺　茂治
直前理事長	平石　祥吉	監事	遠藤　富幸・鷲頭加思郎・工藤　伸二
副理事長	○村田　靖・○中條　秀樹・○梅澤　順一・○佐田　直人	事務局長	○高橋　一貴
		財政局長	○恩田　孝夫

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
開発室	○茨木　和朗	総務委員会	○田中　潔	○田中　正樹	井口　明彦	大谷　実	○近藤　久嗣・草間　格・竹島　祥三・河内　健一・伊丹　正和・綱島　健太郎・竹田　義将・野村　紘二・杉本　淳　相澤　英紀・片沼　貴志・松本　孝之
		まちづくり委員会	○大石慶太郎	○佐藤　健	齋藤　伸輔	藤島　源康	韮沢　正志・○中村　徹・室橋　学・丸山　裕樹・伊比　寿志・岸　竜二・中村　健介・八木野　寿人・多田　一浩　小林　史明・柳沢　浩史・貝間　元義・下條　淳
ひとづくり室	○五十嵐陽平	長岡青少年育成委員会	○阿部　宣宏	○風間　正信	大宮　武	鈴木　顕治	大竹　祐介・丸山　雄二・渡辺　至誠・渡邉辰太郎・○山崎嘉平太・平沢　晃・丸山　裕・村山　陽司・三富　秀良　長谷川　啓・佐藤　大樹・近藤　友秀・小森　葉子
		拡大おまつり委員会	○市村　亮介	○丸山　司	田中　康雄	小林　大輔	小林　隆洋・中村　義孝・○長谷川　章・小谷松蔵人・竹樋　直也・竹野　裕介・倉重　一郎・佐藤　和哉・亀山　基　大川　俊泰・高橋　渉・佐藤　義治・荻野　拓実
地域創造室	○田中　貴夫	地域ビジョン推進委員会	○上村　英輔	○内野　誠	青木征一郎	吉原　昌宏	○吉田　巌・難波　俊輔・青木　勝彦・堺　淳・江口健太郎・渡部総一郎・土田　雅彦・星野　昌弘・小宮信太郎　伊丹　高士・小林　正人・星野　勇人
		平和への誓い委員会	○近藤　正明	丸山　一弥	○脇本　瑠美	上野　隆吉	吉田　了・広井　義晃・○樫出　昭義・白瀬　辰次・稲川　雄一・山岸　弘幸・青柳　恵介・北原　禎一・永澤　政裕　鈴木淳之介・中澤　秀和・長部　茂也・齋藤　敦
経営革新室	○今井進太郎	農と地域活性化委員会	○神林　克彦	○池田　治	松本　光央	竹内　剛	小山　勝彦・○深見　太朗・石橋　一寛・佐藤　直樹・土田　正憲・大宮　丈範・久保　和喜・渡辺　道郎・小川　文太　齋藤　恵・西脇　直人・野口　真・高田　光
		経営変革推進委員会	○佐藤　英次	井上　賢太	○桑原　望	渡辺　富幸	吉原　章一・○竹中　進介・平澤　政幸・栗原　夕輝・町田　浩二・大塚　隆則・高野　泰・信賀　悟士・大川　直人　鈴木　朋和・平澤　敏弘・塩入　健之・高野　雅之
渉外特別室	○水澤　元博	日本ＪＣ連携会議	議長	副議長	幹事		
			○丸山　清貴	○瀧川　寛人　諏方　浩二	○髙頭　明紀夫・西山　和里・六車　慎一郎・北澤　晃		

主な事業

3月8日	合同例会	Forum21～あなたのまち好きですか?～
4月5日	4月例会	～アオーレと市民協働を学ぼーれ!～
4月7日・8日	アオーレ誕生祭	
4月15日	会員交流サッカー大会	長岡開催
5月18日	5月公開例会	Let'sSports!ココロ編～大人が子どもにできること～
6月19日	6月例会	平和～今、私たちに出来ること～
7月7日	アオーレ　DE　婚活	七夕に願いを込めて
7月12日	7月例会	Let'smakeVision～魔法の質問が引き寄せるあなたのビジョン～
7月15日	柿川事前清掃	
7月16日	トレーニングセミナー	AYUMI
8月1日	宵宮神輿渡御	長岡JC神輿
8月1日	柿川灯籠流し	～平和への誓い～
8月3日	長岡まつり昼事業	アオーレでかつごーれ
8月6日	納涼例会	サマーギフト　UTAGE～ココロとカラダが躍る夏～
9月2日	9月事業	Let'sSports!カラダ編～楽しむことからはじめよう～
10月5日	10月公開例会	ガッチリ儲ける農商工連携
10月28日	フェニックス花火事業	～みんなであげようフェニックス～
11月18日	11月事業	農業サポーターゼミナール
11月25日	11月事業	ドリームビジョンフェスティバル

6月例会

事前清掃

11月事業
「ドリームビジョンフェスティバル」

トレーニングセミナー AYUMI

9月事業「Let'sSports!カラダ編～楽しむことからはじめよう～」

納涼例会

宵宮神輿渡御

雪しか祭り

忘年会

59代理事長
村田　靖

2013

『Be gentleman』
～自らの良心に従い、誇りある行動を～

『 Be gentleman 』　紳士たれ。　クラーク博士のこの言葉を私は所信とし青年会議所の応援団を増やしたいと一年間、精力的にメンバー全員と共に活動しました。理事長になる以前より「自分の良心に従い、自分は紳士として行動する」という気持ちではいましたが、長岡JCも信頼関係を前提として各自が自分の良心を選択する方向で活動すれば、求める活動・運動展開にそぐった言動を取れると確信しておりました。そして、やるときはやるという姿勢が、地域の人達に認めて頂くことが出来たとき力強い応援団が、私達　青年会議所のサポーターになって頂けるとも考えました。

まず、会員交流委員会を復活させてメンバー間の親睦を深め、チームワークを高めるべく会員交流を深めた結果、4月担当例会は出席率 100%を達成 できました。

他の委員会には命題として、長岡の歴史・青年会議所の運動展開を考えた中で、活動を行っていただきました。

具体的には、まちづくり委員会は、市民を巻き込んで大々的に活動していくとして、丘陵公園での気球を上げて空の上から長岡の町を一望し、長岡を認識して頂くことができました。おまつり委員会は、宵宮で神輿を担ぐとともに「NAGAOKA高校生フェスタ」を新事業として立ち上げ、アオーレのアリーナに高校生パワーを集約、夏の学園祭のような形で長岡まつりに若い人達に集いの場・活躍の場を提供できました。ひとづくり委員会は会員拡大の目標以上の新入会員を受け入れ、フォローアップをしっかりしてもらったおかげで、ひとりもやめることもなく一緒にやりきることができました。灯籠委員会に対して、「8月1日は何の日か?」ということを再考することにこだわりました。そもそも長岡まつりの起源は、長岡空襲があった日に行う戦災復興祭です。そこをないがしろにしてはいけません。まもなく戦後70年を迎えるところで　今、声を出しておかなければ、みんなの気持ちがますます薄まってしまい、ただ楽しいだけの長岡まつり・宵宮となってしまう。

「8月1日は何の日か?」を考えることが『　Be gentleman　』の精神に繋がると私は思います。花火がメインのおまつりとなって、慰霊祭としての「8月1日の在り方」を戦後70年の今、再確認して頂きたい、そんな思いで灯籠の無料配布を行い、参加者の制限を撤廃することで多くの長岡市民の方々に再認識して頂く機会が出来たらと実行しました。私の思いを委員会も理解してくれ、慰霊の灯籠を流すことができました。

こういった活動・運動展開では、メンバーのチームワークを強くすることで、辛いことが多い中、メンバー同士がフォローし合って楽しくなることができれば辞めずに続けられる。

自分の理事長としての立ち振る舞い次第では、分裂や退会も在り得る中、自らの成長を知り、楽しんでもらうことが出来る環境を整え、常に『　Be gentleman　』という姿勢でメンバーとの交流を図ることを心掛け理事長としての重責の任を全う出来たと思っております。

●委員会と役員名

○：理事

理事長	○村田　靖	専務理事	○五十嵐陽平
直前理事長	村上揚市郎	監事	茨木　和朗・水澤　元博・佐田　直人
副理事長	○丸山　清貴・○竹中　進介・○田中　貴夫・○大石慶太郎	事務局長	○倉重　一郎

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
総務室	○鈴木　朋和	総務委員会	○江口健太郎	近藤　久嗣 ○齋藤　伸輔	永澤　政裕	齋藤　恵	室橋　学・吉田　巌・草間　格・平沢　晃・伊比　寿志・○土田　正憲・杉本　淳・柳沢　浩史・伊丹　高士 ○片沼　貴志・大谷　実・松本　孝之・諸橋　賢二・渡辺　秀幸・樋口　伸宏・大関　雅人
地域創造室	○深見　太朗	青少年育成委員会	○諏方　浩二	○恩田　孝夫 ○井上　賢太	杉本　良輔	光野　和宏	吉原　章一・中條　秀樹・栗原　夕樹・竹島　祥三・堺　淳・○近藤　正明・丸山　裕・池田　治・井口　明彦 竹内　剛・荻野　拓実・下條　淳・佐藤　亮伴・小野　高啓・星野　美奈子
		灯籠委員会	○瀧川　寛人	○大川　直人 稲川　雄一	○北澤　晃	長谷川　啓	○難波　俊輔・石橋　一寛・高野　泰・中村　健介・竹田　義将・大宮　丈範・渡辺　道郎・上野　隆吉・西脇　直人 長部　茂也・高野　雅之・今泉　知久・田中　渉・山田　菜津紀・勝俣　知和
Jaycee確立室	○佐藤　直樹	ひとづくり委員会	○高橋　一貫	平石　祥吉 ○今井進太郎	○渡部総一郎	六車慎一郎	風間　正信・青木　勝彦・○竹野　裕介・内野　誠・吉原　昌宏・綱島　健太郎・岸　竜二・田中　康雄・鈴木　顕治 貝間　元義・小林　正人・野口　真・橋本　康史・石橋　智弘・池田　優花
		会員交流委員会	○髙頭明紀夫	○佐藤　英次 丸山　司	○高田　光	小宮信太郎	市村　亮介・○鷲頭加思郎・○渡辺　茂治・脇本　瑠美・小谷松蔵人・竹樋　直也・山岸　弘幸・青柳　恵介 渡辺　富幸・小川　文太・中澤　秀和・星野　勇人・井上賢太郎・渡邊慎太郎・高橋　晋・中村　嘉則
地域飛躍室	○上村　英輔	おまつり委員会	○長谷川　章	亀山　基 ○青木征一郎	野村　紘二	○八木野寿人	中村　義孝・丸山　一弥・吉田　了・白瀬　辰次・小林　大輔・平澤　敏弘・佐藤　和哉・○大川　俊泰・多田　一浩 高橋　渉・深田　純・小林　直樹・高野　洋平・鈴木　和義・高橋　伸行・丸山　豊
		まちづくり委員会	○西山　和里	○山崎嘉平太 ○桑原　望	伊丹　正和	佐藤　義治	中村　徹・丸山　裕樹・渡邊辰太郎・松本　光央・大塚　隆則・信賀　悟士・土田　雅彦・田中　潔・久保　和喜 ○鈴木　淳之介・藤島　源康・小森　葉子・小林　孝行・阿部　巧・内藤　秀郷

主な事業

4月1日	一般社団法人へ移行	
4月23日	4月例会	～One for all,all for one～
5月14日	5月例会	～教科書では学べない地域のたから～
6月3日	6月例会	～これからの「8月1日」～
7月2日	7月例会	命の道しるべ
7月15日	柿川事前清掃	柿川灯籠流し事前清掃
7月29日～8月11日		水害ボランティア活動
8月1日	宵宮神輿渡御	長岡JC神輿
8月1日	灯籠流し	柿川灯籠流し～未来へ繋ぐ「8月1日」～
8月3日	長岡まつり昼事業	Nagaoka高校生フェスタ2013
8月5日	納涼例会	納涼祭　～夏の夜空と思い出の縁日～
9月29日	9月事業	地域のたからアドベンチャー
10月12日	10月例会	「生きるちから～未来の宝が輝くために～」
10月20日	10月事業	長岡空襲体験保存プロジェクト ～語り継ぐ8月1日～
11月6日	卒業生スピーチ例会	～真のJaycee継承塾　語り継ぐ誇り高きフレーズ～

一般社団法人へ移行

Nagaoka 高校生フェスタ 2013

9月事業
「地域のたからアドベンチャー」

職業体験 ～仕事ってなんだろう～

トレーニングセミナー ～真の Jaycee 育成塾～

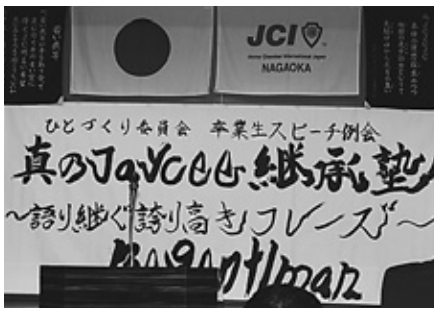
10月事業
「長岡空襲体験保存プロジェクト ～語り継ぐ8月1日～」

10 月例会　「生きるちから～未来の宝が輝くために～」

宵宮神輿渡御

4月例会　「～ One for all,all for one ～」

新入会員夜営事業 ～ファミスポ 2013 ～



スピーチ例会

灯籠流し

忘年会

60代理事長
佐田直人

2014

『温故知新』
～魂を燃やし自ら未来への扉を開け～

中越大地震の発災からちょうど10年を迎える節目に理事長を拝命致しました。震災から10年が経ち、長岡市内は震災の爪痕をほとんど見ることがない程見事に復興を遂げることが出来ました。震災から10年という節目の年だからこそ私たちが今一度長岡の現在、未来を見つめ、私たちそして長岡がどうあるべきか議論し、未来の長岡JCそして未来の長岡を描いていくことが必要であると考え、創立から先輩の皆様がどのような想いでどのように活動されてこられたかを学び、これからの活動へ活かすため理事長所信として「温故知新」を掲げました。

私が理事長として、メンバーにまず伝えたかったことは、JC活動を「やらされる。」「ただ参加する。」のではなくメンバー一人ひとりが長岡JCのど真ん中に立って活動する意識を持ってほしいということでした。そうすることで、自分自身が成長することを実感し、JC活動にやりがいを持ち、組織に対する誇りに繋がると考え、1年間務めてきました。また、翌年には60周年記念式典、祝賀会を控えていたため、メンバーが地域及び長岡JCの歴史を知り、自らの郷土、組織に誇りを持って60周年を迎えることができるようにすることが私に与えられたもう一つの大きな役割であると感じていました。

この60周年では各委員会の連携が必要とされるため、全体事業としてフェニックスまつり2014を開催しました。この事業は、震災を風化させずこれから私たちが何をしていくべきかを改めて考えさせるとともに、未来への想いを長岡JCとして多くの市民に発信する事が出来ました。更に全体事業として大きな事業を行ったことで、60周年を迎えるにあたって、委員会単位での枠を超え、それぞれの委員会が横に連携して活動していく能力を養うことが出来たのではないでしょうか。

1年間を通じて私は、委員会が行う各事業について具体的な指示を出しませんでした。それは、委員長をはじめとする委員会メンバーに私が所信に込めた想いを読み取り、十分に理解し、本質をしっかりととらえて問題を解決する力を身に着け、何事も他人事にせず自発的に自分で行動して物事に取り組んでほしいと考えたからです。そうした私の考えを理解し私に代わってフォローをしてくれたスタッフの皆さん、そして自ら考え行動してくれた委員長及び委員会メンバーには大変感謝しています。

これからの長岡JCは、私たちがこれまで学んできた多くのことを地域に向かって発信していくことを常に意識して行動してほしいと思います。また、長岡JCで学んだことをぜひ自分の会社に活かしていただきたいです。JCと仕事を別々に考えているメンバーが多いように思いますが、JCで学んだノウハウは私たちが思っている以上に会社そして社会で役に立ちます。

最後に人生はJCを卒業してからが本番だと思います。現役の皆さんはより豊かな人生を送るために限られたかけがえのない青年期を精一杯走りぬいていただきたいと思います。

●委員会と役員名

○：理事　※：長岡の未来特別委員会出向副委員長

理事長	○佐田　直人	専務理事	○大石慶太郎
直前理事長	村田　靖	監事	茨木　和朗・丸山　清貴・田中　貴夫
副理事長	○渡辺　茂治・○五十嵐陽平・○深見　太朗・○今井進太郎	事務局長	○髙頭明紀夫

室名	室長	委員会名	委員長	副委員長	運営幹事	会計幹事	委員
	専務理事 事務局長担当	総務広報委員会	○齋藤　伸輔	※伊丹　正和 ○大谷　実	諸橋　賢二	星野　眞樹	青木　勝彦・○長谷川　啓・伊比　寿志・柳沢　浩史・中澤　秀和・片沼　貴志・渡邊　慎太郎・佐藤　智之 北國　真哉・大関　英晃・佐藤　栄治
未来創造室	○瀧川　寛人	青少年委員会	○桑原　望	○※野村紘二 齋藤　恵	髙見　礼央	佐藤　辰徳	○井上　賢太・江口健太郎・綱島健太郎・中村　健介・渡辺　富幸・杉本　淳・貝間　元義・内藤　秀郷・鈴木　和義 関﨑　貴志・小柳　圭介・横山　智樹
		灯籠委員会	○難波　俊輔	髙野　泰 ※北澤　晃	○大宮　丈範	髙橋　晋	上村　英輔・竹島　祥三・大塚　隆則・○倉重　一郎・○渡辺　道郎・小川　文太・鈴木　顕治・今泉　知久 大関　雅人・小野　高啓・安藤　一成・松沢　裕太
人財継承室	○中村　徹	人財育成委員会	○山崎嘉平太	※渡部総一郎 ○杉本　良輔	諸橋　和彦		吉原　章一・○竹中　進介・渡邊辰太郎・○西山　和里・佐藤　英次・丸山　裕・竹田　義将・小森　葉子・渡邊　雄也 野上　将司・田村　一貴・北原　潤一
		おまつり委員会	○丸山　司	小林　大輔 ※大川　俊泰	小宮信太郎	髙坂　英義	丸山　一弥・○白瀬　辰次・小谷松蔵人・佐藤　和哉・○高橋　渉・佐藤　義治・小林　正人・佐藤　亮伴 ○石橋　智宏・中村　嘉則・中野　和砂・吉川　浩司
地域の未来確立室	○諏方　浩二	まちづくり委員会	○青木征一郎	○井口　明彦 ※高田　光	深田　純	韮澤　圭介	○近藤　久嗣・吉田　了・堺　淳・竹野　裕介・土田　雅彦・吉原　昌宏・○久保　和喜・永澤　政裕・竹内　剛 西脇　直人・阿部　巧・二ツ家和樹・山口　芳春
		経営心学委員会	○風間　正信	藤島　源康 ※光野　和宏	○竹樋　直也	○高野　雅之	丸山　裕樹・草間　格・○長谷川　章・栗原　夕輝・石橋　一寛・近藤　正明・内野　誠・山岸　弘幸・長部　茂也 田中　渉・曳田　竜介・富澤　光伸・佐藤　太洋
60周年準備室	○高橋　一貴	長岡の未来特別委員会	○佐藤　直樹	○池田　治 八木野寿人	青柳　恵介	野上　修佑	水澤　元博・吉田　巌・松本　光央・岸　竜二・○六車慎一郎・板山　正樹・鄭　ダウン

主な事業

2月～7月	特別会員交流事業	未来を創造する力
2月23日	経営事業	『千思万考』～考えに考え　考え抜け～
3月17日	3月例会	SOYがぁ～て枝豆 ～キックオフ集会～
3月24日	広報セミナー	広報活動セミナー
4月15日	4月例会	尊敬できる大人へ ～大人が変われば子供も変わる～
5月19日	5月例会	「和」未来に繋ぐ心
6月～8月	フェニックス事業	「復興祈願花火フェニックス」への想い～みんなであげようフェニックス10～
6月～8月	フェニックス事業	「復興祈願花火フェニックス」への想い～ようこそフェニックス先生～
6月30日	6月例会	近現代史から読み解く日本の誇り
7月15日	7月例会	未来を創造する力～長岡の未来CMコンテスト2014～
7月21日	柿川事前清掃	柿川灯籠流し事前清掃
8月1日	宵宮神輿渡御	「一心」
8月1日	灯籠流し	柿川灯籠流し　～未来へ繋ぐ、慰霊の灯～
8月3日	長岡まつり昼事業	Nagaoka高校生フェスタ2014～未来に繋げ!Second Stage～
8月3日	クラブソイガイヤー	14ソイガイヤー8.3ミッション
8月7日	納涼例会	夏の思い出はディナーとともに
9月23日	トレーニングセミナー	トレーニングセミナー2014　Let's Try! Communication!!
10月21日	10月例会	「継往開来」～経営の心を承継し、未来の扉を開け～
10月25, 26日	震災10周年事業	フェニックスまつり2014　～新たな一歩で未来への扉を開こう!～
通年事業	まちづくり事業	郷土長岡発信プロジェクト SOYがぁ～て枝豆　～創造編～
通年事業	まちづくり事業	郷土長岡発信プロジェクト SOYがぁ～て枝豆　～枝豆発信編～『郷土長岡から枝豆を』
通年事業	広報活動	広報活動

3月例会　「SOYがぁ～て枝豆 ～キックオフ集会～」

4月例会　「尊敬できる大人へ ～大人が変われば子供も変わる～」

7月公開例会　「未来を創造する力～長岡の未来CMコンテスト2014～」

トレーニングセミナー2014　Let's Try! Communication!!

「復興祈願花火フェニックス」への想い
～ようこそフェニックス先生～

広報活動セミナー

郷土長岡発信プロジェクト　SOY がぁ～て枝豆

6月例会　「近現代史から読み解く日本の誇り」

『千思万考』～考えに考え 考え抜け～

10月例会「継往開来」～経営の心を承継し、未来の扉を開け～

Nagaoka高校生フェスタ2014～未来に繋げ!Second Stage～

宵宮神輿渡御　「一心」

2005

日本青年会議所出向者

経営資質向上委員会	委員	中條秀樹

北陸信越地区出向者

地域力創造会議	副議長	金子英高

新潟ブロック協議会出向者

新潟地域力創造委員会	委員長	可児雅幸
〃	副委員長	中山靖男
〃	幹事	仲丸達雄
〃	〃	渡邉辰太郎
〃	委員	家坂貴宏
〃	〃	佐藤善則
〃	〃	河村直人
Ambitious Jaycee 育成委員会	副委員長	上村宏
〃	委員	丸山誠
〃	〃	高野健次
〃	〃	丸山裕樹
会員交流委員会	幹事	大竹祐介
〃	委員	鈴木友也
〃	〃	川島博
〃	〃	阿部宣宏
〃	〃	小林英之
広報委員会	委員	伊丹新
〃	〃	今井毅

2006

北陸信越地区出向者

地域フォーラム運営委員会	副委員長	渡辺至誠

新潟ブロック協議会出向者

	監事	長谷川隆
会員交流委員会	幹事	布施さゆり
〃	委員	長谷川佐久信
〃	〃	渡邊滝博
〃	〃	水澤元博
感響研修委員会	委員	村上揚市郎
〃	〃	細木智広
２３魅力委員会	〃	志水謙一
〃	〃	田中貴夫
〃	〃	丸山繁昭
広報委員会	委員長	平石祥吉
〃	副委員長	大竹祐介
〃	幹事	鷲頭加思郎
〃	幹事	工藤伸二
〃	委員	土田勝也
〃	〃	茨木和朗
〃	〃	吉田巌

2007

日本青年会議所出向者

近現代史教育実践委員会	委員	木村信丈
〃	〃	渡邊滝博
〃	〃	水澤元博
〃	〃	丸山清貴

北陸信越地区出向者

	監事	今井雅人
事務局		土屋博司
〃		三浦明
〃		吉野輝昭
ＡＣＰ提案委員会		可児雅幸
〃		磯谷哲夫
〃		深見太朗

新潟ブロック協議会出向者

	副会長	長谷川佐久信
組織連携推進委員会	委員長	志水謙一
〃	幹事	神谷淳一
〃	委員	佐藤暢展
〃	〃	長谷川朗
〃	〃	喜多村浩
〃	〃	中島光嘉
〃	〃	上村宏
〃	〃	可児雅幸
〃	〃	小林健一
〃	〃	原千鶴子
越後の魂委員会	副委員長	小林隆洋
〃	幹事	吉田巌
〃	委員	近藤久嗣
〃	〃	星野敬
〃	〃	丸山繁昭
アドバンス新潟創造委員会	〃	飛田義行
国民主権確立委員会	副委員長	土田直人
〃	委員	丸山誠
〃	〃	茨木和朗
〃	〃	遠藤富幸
〃	〃	丸山裕樹

2008

日本青年会議所出向者

規則審査会議委員会	委員	村上揚市郎
憲法改正実践委員会	〃	中條秀樹
ﾛｰｶﾙｺﾐｭﾆﾃｨ復活推進会議	〃	猪井一之
国家安全保障問題委員会	〃	田中貴夫

北陸信越地区出向者

財政審査会議委員会	委員	村上揚市郎
〃	〃	長谷川幹

新潟ブロック協議会出向者

	会長	桐生伸一
	副会長	志水謙一
	監事	上村宏
	運営専務	水澤元博
ブロック事務局	事務局長	布施さゆり
〃	財務局長	長谷川幹
〃	副事務局長	村上揚市郎
〃	〃	遠藤富幸
〃	副財務局長	井筒一郎
〃	事務局次長	阿部宣宏
〃	〃	高橋亨
〃	〃	梅澤順一
〃	〃	難波俊輔

新潟交流委員会	幹事	丸山清貴
〃	委員	原千鶴子
〃	〃	五十嵐陽平
〃	〃	渡辺茂治
環境推進委員会	〃	磯谷哲夫
〃	〃	佐田直人
〃	〃	広井義晃
慈愛委員会	〃	大竹祐介
〃	〃	伊丹新
〃	〃	佐野純
〃	〃	平野利幸
〃	〃	大原邦夫
タウンミーティング委員会	幹事	吉田了
〃	委員	丸山一弥
〃	〃	瀧川寛人
〃	〃	吉田巌
〃	〃	長谷川章

2009

日本青年会議所出向者

真の経済活動探究委員会	委員	中村徹
全国大会運営会議	〃	上村宏
〃	〃	中條秀樹
〃	〃	水澤元博
〃	〃	堺淳

新潟ブロック協議会出向者

	副会長	木村信丈
己の美学育成委員会	副委員長	神谷淳一
〃	幹事	佐藤直樹
〃	委員	風間正信
〃	〃	渡邊辰太郎
〃	〃	松本光央
郷土愛育成委員会	幹事	飯田和宏
〃	委員	恩田孝夫
〃	〃	野上修佑
真日本建国創造委員会	〃	竹中進介
〃	〃	長谷川章
〃	〃	竹島祥三
〃	〃	平沢晃
会員交流委員会	幹事	鈴木朋和
〃	委員	平澤政幸
〃	〃	田中貴夫
〃	〃	上村英輔
〃	〃	高橋一貴

2010

日本青年会議所出向者

全国大会運営会議	第3小会議委員長	中條秀樹
〃	委員	渡邊滝博
〃	〃	平野利幸
〃	〃	川島博
〃	〃	高橋亨
〃	〃	渡辺茂治
〃	〃	栗原夕輝
〃	〃	佐藤英次
輝く地域創造委員会	〃	平石祥吉
〃	〃	石橋一寛

新潟ブロック協議会出向者

新潟公民意識醸成委員会	委員	茨木和朗
〃	〃	石坂篤史
〃	〃	大石慶太郎
新潟情報戦略委員会	幹事	真貝信行
〃	委員	吉田了
新潟情報戦略委員会	委員	江口健太郎
「新潟の誉」確立委員会	委員長	佐藤直樹
〃	副委員長	五井正彦
〃	幹事	松本光央
〃	〃	近藤正明
〃	委員	土田直人
〃	〃	大原邦夫
新潟会員交流委員会	委員	伊丹正和
〃	〃	山岸弘幸
総務委員会	委員	石黒俊之

2011

日本青年会議所出向者

全国大会運営会議	第5小会議副議長	渡邊滝博
〃	第5小会議小幹事	丸山清貴
〃	〃	佐藤英次
〃	第2小会議委員	西澤茂博
〃	〃	諏方浩二
〃	〃	丸山司
〃	第5小会議委員	瀧川寛人
〃	〃	髙頭明紀夫
人間力大賞運営委員会	委員	佐藤直樹
法人格移行支援委員会	委員	大石慶太郎
〃	〃	内野誠

北陸信越地区協議会出向者

財政特別委員会	委員	鷲頭加思郎
〃	〃	恩田孝夫

新潟ブロック協議会出向者

Energy NIIGATA委員会	委員長	中村義孝
〃	副委員長	松本光央
〃	幹事	八木野寿人
〃	〃	田中康雄
〃	委員	村上揚市郎
〃	〃	村田靖
〃	〃	長谷川啓
Next NIIGATA委員会	幹事	大川直人
〃	委員	平沢晃
〃	〃	渡辺富幸
NIIGATA Citizen委員会	副委員長	真貝信行
〃	委員	五井正彦
〃	〃	野村紘二
Education NIIGATA委員会	副会長	佐田直人
〃	副委員長	堺淳
〃	委員	清水毅
〃	〃	小宮信太郎
NIIGATA Academy委員会	委員	竹野裕介
〃	〃	渡部総一郎
Interaction NIIGATA委員会	委員	高橋亨
〃	〃	村山陽司
財政局	委員	齋藤伸輔

2012

日本青年会議所出向者

全国大会運営会議	副議長	丸山清貴
〃	小幹事	諏方浩二
〃	〃	髙頭明紀夫
〃	委員	瀧川寛人
〃	〃	田中貴夫
〃	〃	五十嵐陽平
〃	〃	高橋一貴
〃	〃	西山和里

2012

日本青年会議所出向者

全国大会運営会議	委員	鈴木朋和
〃	〃	野村紘二
〃	〃	小宮信太郎
〃	〃	六車慎一郎
〃	〃	北澤晃
自主憲法制定委員会	委員	深見太朗
〃	〃	鈴木淳之介
日本のエネルギー選択委員会	委員	中村義孝
〃	〃	石橋一寛
復興支援委員会	委員	水澤元博
財政審査会議	委員	恩田孝夫

北陸信越地区出向者

地域ﾃﾞｻﾞｲﾝ･ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ育成会議	副議長	佐藤直樹
〃	幹事	八木野寿人

新潟ブロック協議会出向者

ひとのちから想造委員会	委員長	堺淳
〃	副委員長	竹野裕介
〃	幹事	江口健太郎
〃	〃	齋藤恵
〃	委員	鈴木朋和
〃	〃	青柳恵介
〃	〃	倉重一郎
故郷のちから想造委員会	副委員長	吉田了
〃	委員	長谷川啓
〃	〃	小川文太
日本のちから想造委員会	副委員長	大川直人
〃	幹事	渡辺道郎
〃	委員	土田正憲
〃	〃	平沢晃
〃	〃	永澤政裕
JAYCEEのちから想造委員会	幹事	片沼貴志
〃	委員	竹中進介
〃	〃	長谷川章
〃	〃	亀山基
〃	〃	高野雅之

2013

日本青年会議所出向者

拡大委員会	副委員長	中條秀樹
〃	小幹事	佐藤直樹
〃	委員	村上揚市郎
〃	〃	渡辺茂治
復興支援委員会	委員	水澤元博
〃	〃	鈴木朋和
〃	〃	藤島源康
規則審査会議	副議長	大石慶太郎
〃	小幹事	杉本淳
〃	委員	恩田孝夫
〃	〃	貝間元義
〃	〃	大谷実
全国大会運営会議	委員	上村英輔
〃	〃	丸山司
〃	〃	井口明彦
人間力大賞運営委員会	委員	平石祥吉
〃	〃	山崎嘉平太
主権国家確立委員会	委員	佐藤英次

北陸信越地区出向者

地区フォーラム委員会	委員	土田正憲
会議委員会事務局	委員	深田純

新潟ブロック協議会出向者

	副会長	中村義孝
public relation(広報)	幹事	高橋晋
〃	委員	丸山裕樹
〃	〃	大川直人
〃	〃	池田優花
jaycee pride(交流系)	委員長	松本光央
〃	副委員長	近藤正明
〃	幹事	渡辺富幸
〃	〃	片沼貴志
〃	委員	水澤元博
〃	〃	鈴木朋和
〃	〃	長部茂也
〃	〃	高野雅之
〃	〃	田中渉
〃	〃	諸橋賢二
〃	〃	鈴木和義
national pride(国家)	委員	田中貴夫
〃	〃	渡邉慎太郎
niigata pride(エネルギー系)	委員	石橋智宏
〃	〃	小林孝行
〃	〃	橋本康史

2014

日本青年会議所出向者

褒賞委員会	委員長	丸山清貴
〃	総括幹事	瀧川寛人
〃	会計幹事	六車慎一郎
〃	委員	五十嵐陽平
〃	〃	吉田了
〃	〃	高橋一貴
〃	〃	北澤晃
真の経済復興創造委員会	副委員長	江口健太郎
〃	小幹事	小川文太
〃	委員	藤島源康
〃	〃	大関英晃
〃	〃	松沢裕太
災害･復興支援委員会	副委員長	佐藤英次
〃	小幹事	渡邉慎太郎
〃	委員	吉原章一
〃	〃	水澤元博
〃	〃	松本光央
主権国家確立委員会	委員	今泉知久

北陸信越地区出向者

地区フォーラム委員会	委員長	谷川啓

新潟ブロック協議会出向者

ACTION新潟意識変革委員会	委員長	上村英輔
〃	副委員長	西山和里
〃	総括幹事	今泉知久
〃	運営幹事	曳田竜介
〃	委員	竹野裕介
〃	〃	内野誠
〃	〃	渡辺富幸
〃	〃	齋藤恵
〃	〃	野上将司
ACTION発信委員会	委員	深見太朗
〃	〃	柳沢浩史
ACTIONリーダー育成委員会	委員	髙坂英義
〃	〃	横山智樹
ACTION JAYCEE委員会	委員	長谷川啓
〃	〃	中野和砂

2015

日本青年会議所出向者

国史会議	委員	佐田直人
〃	〃	山崎嘉平太
〃	〃	池田治
〃	〃	桑原望
日本の未来選択委員会	委員	髙頭明紀夫
〃	〃	高田光
「真の復興」推進委員会	委員	水澤元博
財政審査会議	副議長	大石慶太郎
〃	小幹事	八木野寿人
〃	委員	上村英輔
〃	〃	高野雅之
〃	〃	細川一彦

2008年度 新潟ブロック協議会 会長　桐生伸一先輩

北陸信越地区出向者

JCI WORLD CONGRESS 金沢大会支援委員会	委員	松本光央
〃	〃	佐藤直樹

新潟ブロック協議会出向者

	副会長	佐藤英次
JAYCEE 核心委員会	委員長	井口明彦
〃	副委員長	杉本良輔
〃	統括幹事	細川一彦
〃	会計幹事	伊部貴成
〃	委員	今井進太郎
〃	〃	堺淳
〃	〃	竹野裕介
〃	〃	伊丹正和
〃	〃	野村紘二
〃	〃	佐藤辰徳
〃	〃	小林孝史
〃	〃	田村智宏
日本核心委員会	委員	山崎嘉平太
〃	〃	西山和里
〃	〃	小森葉子
〃	〃	野上将司
〃	〃	渡邉雄也
リーダー核心委員会	副委員長	大宮丈範
〃	会計幹事	下条祐貴
〃	委員	近藤正明
新潟核心委員会	委員	風間正信
〃	〃	高野雅之

2011年度 全国大会運営会議 副議長　渡邊滝博先輩

2014 年度 日本青年会議所 褒賞委員会 委員長　丸山清貴君

2015 年度　JAYCEE 核心委員会　井口委員長　佐藤副会長

(社)日本青年会議所
本部団
KLVII JCI ASPAC 97 PATTA AILAND
"Yesterday's Problems" Tomor
Japan JC Kic
Thursday

年会議所創立15周年

社団法人 長岡青年会議所創立25周年記念式典

創立40周年記念式典
NAGAOKA

2003年度 地区フォーラム in Niigata 大懇親会
ロック会員大会長岡大会
第33回ブロック会員大会長岡大会

ふれあいトーキングパー

第33回新潟ブロック会員大会

第33回新潟ブロック会員大会

社日本青年会議所 北陸信越地区協議会
グローバル トレーニング
スクール in モンゴル
磨け北信越、モンゴルの熱い風となれ!

'97 JCI ASPAC PATT
JAPAN NIGHT

事業の歩み

総務広報系委員会 事業の歩み

1955年	1956年	1957年	1958年	1959年	1960年	1961年	1962年	1963年	1964年	1965年	1966年	1967年	1968年	1969年
昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年
35歳卒業　事務局は商工会議所		40歳卒業　事務局は商工会議所	【出席委員会】	【出席委員会】 【広報委員会】	創立5周年記念誌制作・発行【広報委員会】	JCニュース創刊【広報委員会】	【広報委員会】	経済経営研究会発足			【広報委員会】 【総務委員会】 例会にゴング使用 例会会場をレストラン「金星」に変更	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】

40周年・20周年・5周年記念誌

'94 JCニュース

'91マスコミ懇談会

ペーパーレス理事会

1970年	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年
昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年
【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】 創立20周年記念誌製作・発刊	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】 1月 長岡JCシニアクラブ結成 12月 社団法人格取得。 以後、社団法人長岡青年会議所	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】 例会場を長岡グランドホテルに変更 経済経営研究会会則作成 【財務会計特別委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】 会費納入方法　自動振替制度の実施	【広報委員会】 【総務委員会】 室長職を設ける

1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】 マスコミ懇談会（3回）開催	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】	【広報委員会】 【総務委員会】 マスコミ懇談会 JCニュース発行	【広報委員会】 【総務委員会】 創立40周年記念誌発刊	【LOMサービス委員会】 【総務委員会】 「我ら地球市民」発行	【総務委員会】 LOM情報ネットワーク化推進 （17回理事会ペーパーレス） JCNEWS、97「共生の時代へ」発刊	【総務委員会】 パソコンお助け倶楽部 （社）長岡青年会議所ホームページ開設	【総務委員会】 インターネット教室 電子メール普及の促進

'05 ホームページ

'08 卒業例会

'10 新年例会

'14 広報セミナー

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
【情報ネットワーク委員会】 【Lom運営特別委員会】 パソコン教室、メーリングリストの開設 LOM内各種会議の設営	【総務委員会】 理事会ペーパーレス化 PC-HELPDESKによる情報化推進・ロバート議事法の学習	【総務委員会】 担当例会「議事録JCカップ」	【総務委員会】 LOM内各種会議の設営 ホームページ運営	【事務局長】 【総務委員会】 LOM内各種会議の設営 ホームページ運営	【総務委員会】 【広報委員会】 新年会・新年例会設営 創立50周年記念誌発刊	【総務委員会】 各委員会にメールアドレス提供開始	【総務委員会】 担当事業「市民意識変革 ～マニフェスト型公開討論会～」を学ぶ	【総務委員会】 情報開示 （理事会・スタッフ会議）開始	【総務委員会】 長岡の礎作成 公開討論会「衆議院選挙公開討論会を学ぶ公開委員会」	【総務委員会】 長岡の礎改定	【総務委員会】 組織運営の基盤の整備	【総務委員会】 一般社団法人移行準備	【総務委員会】 一般社団法人移行 公開委員会「組織力向上セミナー～円滑な会議運営に向けて～」	【総務広報委員会】 担当事業「広報セミナー」

経営系委員会 事業の歩み

1955年	1956年	1957年	1958年	1959年	1960年	1961年	1962年	1963年	1964年	1965年	1966年	1967年	1968年	1969年
昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年
【経済活動委員会】	【経済活動委員会】	【経済活動委員会】	【経済活動委員会】	【経済活動委員会】	【トレーニング委員会】	【トレーニング委員会】					【経済活動委員会】国際経済交流委員として日韓会議の為原信一君が訪韓	【経済活動委員会】	【経済活動委員会】	【経済活動委員会】

'76 吉本晴彦氏講演会

'93 第1回経営開発セミナー 講師：大原久治先輩

'94 経営開発例会

1970年	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年
昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年
【経営者開発委員会】	【経営者開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】・年間事業　経営開発講座　経開シリーズPARTI～Ⅲ　・経営シンポジウム	【経営開発委員会】市民経営スクール開催	【経営開発委員会】〝市民経済大学日本JC褒賞「新経営開発プログラムの推進賞」部門で最優秀賞受賞〟	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】戦略マネージメントゲームを5回開催			

1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】県内企業訪問	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】経営開発セミナー（3回） 担当例会人材戦略「花と蝶」	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】	【経営開発委員会】経営開発セミナー	【経営開発委員会】経営開発セミナー「長岡経済の動き」 「日本JCブレークスループログラム受講」「冒険家 九里徳泰氏講演会」

'10 7月例会　みんなでセルフエスティーム
～そして強靭な組織へ～

'12 7月例会「Let's make Vision
～魔法の質問が引き寄せるあなたのビジョン～」

'14 10月例会「継往開来」
～経営の心を承継し、未来の扉を開け～

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
【ふれあい環境委員会】担当例会「ISO14001について」 【JC変革特別委員会】担当例会「借金」				日本JCマネジメントスキル研修設営（震災のため中止）		【経営開発委員会】経営開発訪問事業 「真・お客様満足」 「顧客づくりを学ぼう」	【経営開発委員会】経営開発事業「LoveCompany?～今、そして未来を映すサバイバルゲーム～」 担当例会「ESアップでやるKING!!」	【経営創造委員会】担当例会「JC活動は会社に活かせる！」～JCを頑張れば会社は良くなる、地域は良くなる～」 事業「素晴らしき経営の実現を目指して」	【経営環境委員会】担当例会「討論例会～企業倫理を考える～その時、あなたならどうする?」 担当例会「環境経営を考える～これから、あなたならどうする?～」	【経営環境委員会】担当例会「わたしのセルフエスティーム」 担当例会「みんなでセルフエスティーム～そして強靭な組織へ～」 担当事業「セルフエスティーム×JC青経塾＝永続する元気な企業！」		【経営変革推進委員会】担当例会「Let's make Vision～魔法の質問が引き寄せるあなたのビジョン～」 事業「LOM向けセミナー3回」		【経営心学委員会】経営事業「『千思万考』～考えに考え　考え抜け～」 担当例会「継往開来」～経営の心を承継し、未来の扉を開け～

ひとづくり系委員会 事業の歩み

1955年	1956年	1957年	1958年	1959年	1960年	1961年	1962年	1963年	1964年	1965年	1966年	1967年	1968年	1969年
昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年
高田自衛隊見学	会員は35歳で卒業	会員は40歳で卒業			【トレーニング委員会】	【トレーニング委員会】	【会員銓衡委員会】		自衛隊1日入隊		【LD委員会】 【会員銓衡特別委員会】	【LD委員会】 【会員拡大特別委員会】 【会員銓衡特別委員会】	【LD委員会】 【会員拡大特別委員会】 【会員銓衡特別委員会】	【LD委員会】 【会員拡大委員会】 自衛隊1日入隊

'69 自衛隊1日体験入隊

'73 新入会員オリエンテーション

'01JC 井戸端会議

1970年	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年
昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年
【指導力開発委員会】 【会員委員会】	【指導力開発委員会】 【会員委員会】 実践指導力講座（LIA）開催	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】 ニューLIA講座開講	【指導力開発委員会】	【指導力開発委員会】	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】 JCテニスクラブ発会式	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】	【指導力開発委員会】 【拡大オリエンテーション特別委員会】 人生道場 皆んなで歩こうナイトラリー

1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
【指導力開発委員会】 【拡大オリエンテーション特別委員会】 寒中大荒行	【指導力開発委員会】 【拡大オリエンテーション特別委員会】 MIAセミナー 模擬結婚披露宴及び前期納会	【指導力開発委員会】 【拡大オリエンテーション特別委員会】 ウィニング・パフォーマンス研究会 地獄の特訓「MIAセミナー」 「11/8トライアスロン」 PIPセミナーあなたも理事長になれる	【指導力開発委員会】 【拡大オリエンテーション特別委員会】 山岳ラリー	【指導力開発委員会】 【拡大オリエンテーション特別委員会】	【指導力開発委員会】 【研修委員会】 ビーチマラソン（石地） 人間関係セミナー	【指導力開発委員会】 【会員開発委員会】 リーダーシップセミナー	【研修・指導力委員会】 【会員開発委員会】 会員拡大200名運動	【人間開発委員会】	【拡大・研修委員会】 会員拡大オリエンテーション 新入会員企画「プロ野球日本シリーズ観戦、バス内研修」	【ひとづくり委員会】 新入会員企画 「イエローハット本社清掃研修」	【LOMサービス委員会】 【ひとづくり委員会】 ・リーダーシップ講演会「よろこびと感謝と敬いの心」・リーダーシップ研修会資質向上セミナー「心の伝え方、豊かな人間関係が作り出す人生の成功例」・担当例会「こんなとき、あなたならどうする」・新入会員企画「横浜元町商店街との意見交換会」	【ひとづくり委員会】 藤本義一氏講演会「思いやりのあるコミュニティ社会の創造」 担当例会「生きる姿勢」	【ひとづくり委員会】 担当例会「人と人とのコミュニケーション」	【JC活動PRビデオ作成 担当例会「笑顔の効用」 心身トレーニングセミナー「深まる絆、湧き上がる感動」委員会対抗駅伝

'03 自衛隊研修

'07 山伏修行体験

'05 新入会員研修事業 [LIVE TALK]

'13 真の Jaycee 育成塾

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
【拡大研修委員会】 担当例会「中村真衣後援会」 井戸端会議設営40人入会を達成 新入会員企画「大運動会」 新入会員事業 「いかに人を育てるか」 ㈱ハードオフ研修	【拡大交流委員会】	【拡大お祭り委員会】 【会員の絆委員会】 【2002研修特別委員会】 ・メンタルトレーニングセミナーin栃尾 ・担当例会小林至氏講演会「日本人、今我々に必要なもの」・福地裕文氏講演会「奇跡を起こせ」	【ひとづくり委員会】 【拡大交流委員会】 自衛隊研修 担当例会藤口光紀講演会「夢に向かって」	【LD委員会】 【交流委員会】 担当例会「明日への希望」 担当例会向井亜紀講演会「明日への希望」 担当例会「真のリーダーシップとは」4回シリーズ	【人間力委員会】 【交流委員会】 担当例会「THINKING A GO GO会員拡大について」 担当例会「Action!~気づき実践し向上し続けるために~」 担当例会「心で咲き逢う交流の種」	【ひとづくり委員会】 担当例会「More Vision! More Action!~気づき実践し向上し続けるために~」 担当例会「武士道から学ぶ~「礼」を重んじる心~」 トレーニングセミナー「剣道体験・研修」	【次世代育成特別委員会】 トレーニングセミナー 「山伏修行体験塾」	【ひとづくり委員会】 トレーニングセミナー「くどー漁船スクールin寺泊~更なる結束を求めて~」 担当例会「~更なる創造に向けて~」	【ひとづくり委員会】 担当例会「素晴らしき哉、JC!」 担当事業「素晴らしき哉、JC!」~実践編~	【ひとづくり委員会】 担当例会「JC劇場2010~JCとは何か JAYCEEとは何か、誇り高くある為に~」 新入会員設営事業「長岡JCファミリンピック2010~快汗、皆汗!~体感!!~」	【拡大育成委員会】 トレーニングセミナー「RUN FOR 長岡PRIDE~個々の資質を高める為に~」 事業「JCブランディング」~本気でJCを語る為に~	【拡大お祭り委員会】 トレーニングセミナー「AYUMI」	【ひとづくり委員会】 ・トレーニングセミナー「上田博和先輩講演会」 ・トレーニングセミナー~真のJaycee育成塾~私たちに必要な新たな息吹~・新入会員設営事業「Let's Smile Jumping ファミポ2013」	【人財育成委員会】 トレーニングセミナー「2014 Let's Try! Communication!!」

まちづくり系委員会 事業の歩み

1955年	1956年	1957年	1958年	1959年	1960年	1961年	1962年	1963年	1964年	1965年	1966年	1967年	1968年	1969年
昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年
【社会奉仕委員会】	【社会奉仕委員会】大長岡市建設構想パンフレット作製	【社会奉仕委員会】	【社会奉仕委員会】		【サービス委員会】	【サービス委員会】	【サービス委員会】交通安全ポスター募集		新潟地震（6／10）被災地の新潟JCへ救援物資を輸送	JCデー市長談話	【社会福祉委員会】討論会「中越地区開発について県、4市長を囲む」	【社会福祉委員会】	【社会開発委員会】社会開発アンケート〝明日の長岡を！〟	【社会開発委員会】

'82 タイムカプセル 2012

'88 光と夢のシンフォニー

'03 フォーラム 21 発足

1970年	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年
昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年
【社会開発委員会】	【社会開発委員会】小林長岡市長を囲んで例会 市民会館問題を中心にパネルディスカッション	【社会開発委員会】	【悠久山特別委員会】悠久山を守る運動 【社会開発委員会】北方領土返還促進署名運動	【悠久山特別委員会】悠久山を守る運動 【社会開発委員会】	【社会開発委員会】悠久山清掃	【社会開発委員会】悠久山清掃	【社会開発委員会】研究結果を小冊子にスライド「長岡のあゆみ」完成 「地方自治行政と市民生活の関連性」	【社会開発委員会】・「新スライド「長岡のあゆみ」試写会2 650名の参加者・グラフ「長岡のあゆみ」も一般市民、市の必要機関に配布	【社会開発委員会】市民アンケートの実施（市民のニュータウンに対しての意識調査）	【都市問題特別委員会】	【都市問題特別委員会】劇「ブブ子」上演と講演会「福祉のこころ」語ろう我らの長岡をPART1〝長岡駅東口開発について語ろう我らの長岡をPART2〝テクノポリスと長岡〟	【ニューカルチャー委員会】タイムカプセル2012号を設置	【長期対策特別委員会】長岡市民カレッジ「長岡サバイバル作戦・新時代への挑戦」	【社会開発委員会】三世代交流全国ゲートボール大会 【都市問題委員会】長岡ふるさと散歩

1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
【都市問題特別委員会】長岡青年会議所創立30周年記念植樹（けやきの木を市へ寄贈）	【都市問題委員会】担当例会　街づくりシンポジウム「NAGAOKA　明日のまちづくり」	【都市問題委員会】大学、高校生意見交換会	【アメニティタウン委員会】My stardust88 NAGAOKA光と夢のシンフォニー（駅前広場にイルミネーション設置）	【アメニティタウン委員会】稚魚の放流	【アメニティタウン委員会】光と夢のシンフォニー、イルミネーション点燈式	【アメニティタウン委員会】光と夢のシンフォニー、イルミネーション点燈式	【8LOM共同事業】ホワイトリアサミット（WAS）「こだわりマップ」の作成	拠点都市ネットワーク会議のスタート	【アメニティタウン委員会】担当例会「なぜ地方分権は必要か？そして地方はどうあるべきか？」 【拠点都市ネットワーク特別委員会】	【まちづくり委員会】まちづくり意識調査Ⅱ「都市づくりとデザイン」長岡セッション 担当例会「長岡のまちづくりの将来」 市民の役割とはもっと長岡好きになり隊事業	【まちづくり委員会】まちづくりワークショップ「市民による長岡駅前地区大絵地図作成」（計5回） 担当例会「市民主導のまちづくりを考える」 まちづくり子ども絵地図コンクール・行政懇談会（3回）	【まちづくり委員会】まちづくりワークショップ（計5回） 担当例会「都市計画マスタープラン」ワークショップ 【市民ネットワーク委員会】NPOネットワーク会議（計4回） 担当例会「夢ひろば97ネットワークの作り方」	【まちづくり委員会】まちづくりインタビュー まちづくりコーディネーター養成講座 長岡まちづくりシステム養成講座 【市民ネットワーク委員会】担当例会「共に生きるーべてるの家・NPOネットワーク会議・市街地バリアフリー調査隊 担当例会「心のバリアフリー」	【まちづくり委員会】担当例会「長岡地域の歴史」稲川明雄 NPOネットワーク会議

'08 みんなの遊び場　シティホール

'11「縁～えにし～」婚活 in 国営越後丘陵公園

フェニックスまつり 2014

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
【まちなか活性化検討会議】担当例会グループミーティング 市民まちなか未来地図募集事業	【JC変革特別委員会】市長懇談会（計3回）	【地域フォーラム特別委員会】合併について勉強会・講演会・市長懇談会	【地域交流委員会】担当例会「フォーラム21地域の文化紹介」 「フォーラム21」発足（見附・栃尾・小千谷・長岡4LOM）	【合併委員会】長岡地域合併意見交換会 担当例会「特命リサーチ　市町村合併」 「合併かわら版」発行（メールマガジン）	【地域創造委員会】担当例会 「夢に向かって・・・ ～すばらしき新長岡を創造する～」	【まちづくり委員会】担当例会「まちづくりの未来への一歩～私達の考える社会起業家とは～」・長岡市制100周年・合併記念事業 「DreamCanBus」「ソイガイヤー」	【まちづくり委員会】担当例会「市民意識変革～マニフェスト型公開討論会～」を学ぶ 担当例会「共に語り、考えよう！長岡のまちなか！」	【まちづくり委員会】担当例会「みんなで創ろうシティホール」	【復興特別委員会】新潟県中越大震災発生から5年「Thanks From NAGAOKA」 ～震災から立ち上がる文化の祭典～	【長岡の輝き委員会】トキめきHeart 輝いて長岡！BBQ婚活♥MEATdeMEET♥ 輝いて長岡！婚活inウェディングテーマパーク	【まちづくり委員会】担当例会「長岡検定」 【地域力向上委員会】「縁～えにし～」婚活in国営越後丘陵公園 市民協働プロジェクト～アイドル編～ 地産地消祭り　～くおーれ　ながおか～	【まちづくり委員会】担当例会「～アオーレと市民協働を学ぼーれ！～」・アオーレ誕生祭・アオーレ DE 婚活・公開例会「ガッチリ儲ける農商工連携」・長岡プロデュース事業「思いのほか」・タイムカプセル2012号開封・ドリームビジョンフェスティバル 【農と地域活性化委員会】 【地域ビジョン推進委員会】	【まちづくり委員会】担当例会 「～教科書では学べない地域のたから～」 アオーレ誕生1周年祭 気球事業「地域のたからアドベンチャー」	【まちづくり委員会】担当例会「SOYがぁ～て枝豆～キックオフ集会～・アオーレ誕生2周年祭 郷土長岡発信プロジェクト　SOYがぁ～て枝豆

おまつり系委員会 事業の歩み

1955年	1956年	1957年	1958年	1959年	1960年	1961年	1962年	1963年	1964年	1965年	1966年	1967年	1968年	1969年
昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年
		長岡まつりアンケート募金	長岡まつりに長岡甚句流しを入れる	長岡まつり運営	長岡まつり運営	長岡まつり参加（JCの山車をつくった）	長岡まつり仁和賀行列参加	長岡まつり参加	長岡まつり参加	長岡まつり参加	長岡まつり参加	長岡まつり参加	長岡まつり参加	長岡まつり参加

'73 神輿行列

'77 チャリティオークション

'83 ミス長岡まつりコンテスト

1970年	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年
昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年
長岡まつり参加	長岡まつり参加	長岡まつり参加	長岡まつり参加	長岡まつり昼行事参加、悠久太鼓、たるみこし、我楽苦多市、怪獣大会、ラクガキ大会、ふるさと絵画展	長岡まつり参加	長岡まつり参加	【お祭り特別委員会】長岡まつりにおいて、BSNラジオアナウンサー大倉修吾氏によるチャリティーバーゲンを行う	【お祭り特別委員会】長岡まつりで従来の樽みこしの他、OBメンバーと共に、初の米百票神輿を参加させる	【お祭り特別委員会】長岡まつり参加	【お祭り特別委員会】長岡まつりフォークフェスティバル（厚生会館）	【お祭り特別委員会】長岡まつり昼行事の参加（一坪店主、ぬいぐるみ大会、芸妓組の手おどり、子供米百俵御輿、本御輿及び山車）	【お祭り特別委員会】・長岡まつりチャリティー寄席「古典落語の夕べ」・ミス長岡まつりコンテストの開催【社会開発委員会】	【お祭り特別委員会】長岡まつり参加	【お祭り特別委員会】長岡まつり参加

1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
【お祭り特別委員会】長岡まつり参加	【お祭り特別委員会】長岡まつり参加	【お祭り特別委員会】長岡まつり参加	【お祭り特別委員会】長岡まつり参加	【お祭り特別委員会】長岡まつり参加 初の市民参加による米百俵御輿	【お祭り委員会】長岡祭り宵御輿、昼行事	【お祭り委員会】'91ながおか春を呼ぶ雪まつり 第10回ミス長岡まつりコンテスト（最終） 長岡まつり宵宮御輿・昼行事（子供御輿）	【お祭り委員会】長岡まつり参加	【お祭り委員会】長岡まつり参加「青春米百俵御輿」 東中学校の参加	【お祭り委員会】長岡まつり 宵宮御輿 昼行事 子供神輿（安塚、湯之谷から雪を運び、子供達を楽しませた）	【お祭り委員会】長岡まつり 宵宮御輿・昼行事	【お祭り委員会】長岡まつり 宵宮御輿 昼行事・縦走御輿	【お祭り委員会】長岡まつり 宵宮御輿 昼行事・縦走御輿	【お祭り委員会】長岡まつり 宵宮御輿 昼行事・縦走御輿	【お祭り委員会】長岡まつり 宵宮御輿・昼行事・縦走御輿 担当例会「どうする御輿、どうなる米百俵御輿」

'01 米百俵神輿

'11 長岡 JC 神輿

Nagaoka 高校生フェスタ 2013

'05 夢神輿

Nagaoka
高校生フェスタ 2014

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
【お祭り委員会】長岡まつり 縦走御輿	【ふるさと発見委員会】【お祭り委員会】長岡まつり 縦走御輿・宵宮御輿 例会「まつりの経済効果を知る」「大河信濃川から世界へ届け！平和の灯」（8/2信濃川灯籠流し）	【拡大お祭り委員会】長岡まつり 宵宮御輿・縦走御輿	【地域交流委員会】長岡まつり参加事業の再構築	【御輿委員会】長岡まつり 宵宮御輿	【おまつり委員会】宵宮神輿「夢神輿」	【おまつり委員会】宵宮神輿「夢神輿」	【おまつり委員会】宵宮神輿「夢神輿」	【おまつり委員会】宵宮神輿「夢神輿」 長岡まつり昼事業	【おまつり委員会】宵宮神輿「夢神輿」	【おまつり委員会】宵宮神輿「夢神輿」	【おまつり委員会】宵宮神輿「長岡JC神輿」 長岡まつり昼事業「今、我々が出来る『感謝』」	【拡大おまつり委員会】宵宮神輿「長岡JC神輿」	【おまつり委員会】宵宮神輿渡御「長岡JC神輿渡御」 Nagaoka高校生フェスタ2013	【おまつり委員会】宵宮神輿渡御「一心」 Nagaoka高校生フェスタ2014 ～未来に繋げ！SecondStage～

灯籠系委員会 事業の歩み

1982年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年
昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
柿川活動が立ち上がる	柿川リバーサイドプロムナード整備事業【植樹式、パネル建立式】第1回クリーン作戦	第1回柿川灯籠流し【文化事業特別委員会】『非核平和都市宣言』を受けて柿川灯籠流し事業を立案・実施	【都市問題特別委員会】第2回柿川灯籠流し 柿川沿い史跡パネル設置 第1回稚魚放流	【都市問題特別委員会】第3回柿川灯籠流し	【都市問題特別委員会】第4回柿川灯籠流し	【アメニティタウン委員会】第5回柿川灯籠流し	【アメニティタウン委員会】第6回柿川灯籠流し	【アメニティタウン委員会】第7回柿川灯籠流し	【アメニティタウン委員会】第8回柿川灯籠流し 第7回稚魚の放流（この年で終了）	【アメニティタウン委員会】第9回柿川灯籠流し 市長を招いてセレモニーを実施、水に溶ける灯籠を採用	【アメニティタウン委員会】第10回柿川灯籠流し	【アメニティタウン委員会】第11回柿川灯籠流し	【まちづくり委員会】第12回柿川灯籠流し	【まちづくり委員会】第13回柿川灯籠流し

'84 非核平和都市宣言

'85 柿川灯籠流し

'98 新聞記事

'01 信濃川での灯籠流し

1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
平成９年	平成１０年	平成１１年	平成１２年	平成１３年	平成１４年	平成１５年	平成１６年	平成１７年	平成１８年	平成１９年	平成２０年	平成２１年	平成２２年	平成２３年
【まちづくり委員会】第14回柿川灯籠流し運営マニュアル作成	【まちづくり委員会】第15回柿川灯籠流し	【まちづくりネットワーク委員会】第16回柿川灯籠流し	【歴史の語りべ委員会】第17回柿川灯籠流し 長岡まつり前夜祭にて、市内中央部においてセレモニーを実施『歴史の語りべ』事業において、市内小中学校の児童・生徒に長岡空襲の勉強会を実施、クリーン作戦を各団体に移管し、灯籠流しの祭事清掃となる	【ふれあい環境委員会】第18回灯籠流し柿川灯籠流し【ふるさと再発見委員会】信濃川灯籠流し（8月2日）	【くらしの環境委員会】第19回柿川灯籠流し 長岡まつり前夜祭にて、市内中央部においてセレモニーを実施	【柿川委員会】柿川清掃・第20回柿川灯籠流し『柿川塾』事業において市内小学校児童を対象に、会場となる柿川の勉強会（一般公開）を実施	【柿川灯籠委員会】柿川灯籠流し準備清掃・第21回柿川灯籠流し「平和の鐘」建立（灯籠流しセレモニーで鐘鳴）	【灯籠流し委員会】柿川灯籠流し準備清掃 第22回柿川灯籠流し	【まちづくり委員会】柿川灯籠流し事前清掃 第23回柿川灯籠流し	【歴史心学委員会】灯籠流し柿川事前清掃 第24回柿川灯籠流し『昭和二十年の夏の日を忘れない』	【長岡の誇り委員会】柿川事前清掃 第25回柿川灯籠流し	【長岡の誓い委員会】「聞かせて長岡空襲のこと～失くしてはならない記憶を未来へ～」事業を実施柿川事前清掃、第26回柿川灯籠流し『8月1日恒久平和を誓う日』「平和のために、今、私たちが出来ること」事業を実施	【歴史力学委員会】柿川事前清掃・第27回柿川灯籠流し～語り継ぐ慰霊の想い～・担当事業「長岡藩校『平成崇徳館』」・担当例会「変華の志～三度の苦難を乗り越えた不死鳥たちの気概～」	【柿川灯籠委員会】柿川事前清掃～慰霊の想いを込めて～・第28回柿川灯籠流し～忘れてはならない長岡空襲～・担当例会「平和の語りべ～未来へ語り継ぐ平和への想い」

'11 柿川灯籠流し

2012年	2013年	2014年
平成２４年	平成２５年	平成２６年
【平和への誓い委員会】柿川灯籠流し事前清掃 第29回柿川灯籠流し～平和への誓い～ 担当例会「平和～今、私たちに出来ること～」	【灯籠委員会】柿川灯籠流し事前清掃 担当例会～これからの8月1日～ 第30回柿川灯籠流し ～未来へ繋ぐ「8月1日」～	【灯籠委員会】柿川灯籠流し事前清掃 第31回柿川灯籠流し～未来へ繋ぐ、慰霊の灯り～ 担当例会「近現代史から読み解く日本の誇り」

'14 ～平和学習

青少年系委員会 事業の歩み

1955年	1956年	1957年	1958年	1959年	1960年	1961年	1962年	1963年	1964年	1965年	1966年	1967年	1968年	1969年
昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年
	乳児園「双葉寮」慰問	国際児童画展		乳児園「双葉寮」慰問			交通安全ポスター募集（市内小中学生） 第1回珠算競技大会（南中学校体育館300余名出場 小・中・一般の部）	第2回長岡珠算選手権大会	僻地小学校（蓬平、竹之高地、濁沢小）へ贈本 第3回長岡珠算選手権大会	僻地小学校訪問（図書500冊寄贈） 第4回長岡珠算選手権大会（南中学校）	【教育青少年委員会】第5回長岡珠算選手権大会（南中学校 450名参加）	【教育青少年委員会】	【教育青少年委員会】	【教育青少年委員会】

'73 JC スクール

'75 川上哲治氏野球教室

'03 青少年委員会サッカー教室

1970年	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年	1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年
昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年
【青少年開発委員会】	【青少年開発委員会】	【青少年開発委員会】	【青少年開発委員会】第1回JCスクール	【青少年開発委員会】第2回JCスクール	【青少年開発委員会】第3回JCスクール 川上哲治氏野球教室 岡野俊一郎サッカー教室	【青少年開発委員会】JCスクール1泊海水浴	【青少年開発委員会】JCスクール	【青少年開発委員会】長岡スーパーヤングクラブ発足	【青少年開発委員会】市長岡の子供の体の調査と明日への体づくりの提言活動 市民講演会で発表	【青少年開発委員会】子どものからだと心長岡会議 NHK全国ラジオ体操	【青少年開発委員会】	【青少年開発委員会】	【青少年開発委員会】東山ファミリーキャンプ	【青少年開発委員会】わんぱく共和国（市内小学生・外国人130人 於 大原キャニオン）

1985年	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
【青少年開発委員会】わんぱく共和国（市内小学生120名）	【青少年開発委員会】	【青少年開発委員会】わんぱく共和国　キャンピング&キャラバン	【青少年開発委員会】青少年サッカー教室 青少年サッカー大会	【青少年開発委員会】青少年サッカー大会（JCカップ）	【青少年開発委員会】チャイルド・アイランド（佐渡）	【青少年開発委員会】	【青少年開発委員会】	【青少年開発委員会】動物ふれあい教室（CAPP活動） 動物とのふれあいの旅 動物とのふれあい写真絵画展	【青少年開発委員会】米百俵の心を子ども達に伝える集い JCカップ青少年サッカー大会 親サッカーコミュニケーション 悠久山歴史探索	【青少年開発委員会】米長岡のたからさがし・夢づくり事業 JCカップ青少年サッカー大会	【青少年開発委員会】担当例会「いじめ原因と対策を考える」 青少年・お年寄り交流事業「お年寄りと一緒になって作ろう、遊ぼう、そして学ぼう」・JCカップ青少年サッカー大会 教室子ども創作ファッションショー	【青少年委員会】担当例会「子どもに自信をつける30の方法」星一郎 The創作「夢のまちNAGAOKA」	【青少年委員会】担当例会「子どものコミュニケーション」明石要一 子どもチャレンジランキングコンテスト	【青少年・文化委員会】担当例会「青少年の心の教育について」妙高ジュニアスクール「青少年心の創造事業」

'07 Dance for Joy

'11 i-challenge 体験編「Dreaming Tennis School」
杉山愛　テニス教室

'13 職業体験
～仕事ってなんだろう?～

'13 担当例会　「命の道しるべ」

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
【青少年委員会】青少年事業「しゃべり場inNagaoka」 担当例会「子供は地域の宝です」 今井　佐和子	【青少年開発委員会】担当例会「減点パパのしゃべり場」 Theキャンプin粟島（代おぐに森林公園）	【研修特別委員会】担当例会「家族と心と野球」巨人軍後藤孝志選手 担当例会「小学生の環境教育と実態」・担当例会「子どもの居場所、受け皿」・担当例会「地域のおじさん復活、急増」 体験事業「高柳町　こども自然王国」・講演会「大人が変わらなければ子どもは変わらない」	【青少年委員会】担当例会「生きる力　お父さん死なないで」 子ども事業「スポーツで仲間を作ろう」	【親子委員会】親子事業「親子ふれあい道場」	【青少年育成委員会】事業「夢と自然の体験研修」みかわ天文台 青少年育成委員会担当公開例会	【青少年委員会】担当例会「I am a father　～元気な。ただいま！。を聞く為に～」・事業「I am father～ヨシノテルリング～」（悠久山公園及びその周辺）	【次世代育成特別委員会】 子供向け事業「長岡思いやり教室」	【青少年委員会】担当例会「育てよう、子供達の環境」 事業「Dance for Joy！Jump for Joy！」	【育成環境委員会】担当例会「子育てを地域で考えよう～未来に子どもたちが笑顔で暮らすために～」 事業「お父さんも子育てを楽しもう！～学び、ふれあい、感動～」	【青少年委員会】担当例会「伸ばそう！活かそう！子どもたちの個性・夢に向かう子供たちの為に、大人たちが出来ること～」 担当事業「トキめき新潟国体開催100日前記念事業　青少年事業「夢にトキめき！明日にかがやき！～ドリームチャレンジ　Yes！We Can～」	【長岡の輝き委員会】55周年特別事業「取り戻そう！輝く大人の背中」 担当例会「輝かせ！こころの目～己を律し、今日とは違う自分へ～」	【青少年夢学委員会】担当例会「i・challenge Tennis School～杉山愛なう！想い続ける大切さ～」	【長岡青少年育成委員会】担当事業「i・challenge aming Tennis School～杉山愛　体験編～Dreaming」 担当事業「Let's Sports！カラダ編～楽しむことからはじめよう～」 公開例会「Let's Sports！ココロ編～大人が子どもにできること～」乙武洋匡	【青少年育成委員会】担当例会「命の道しるべ」志茂田 影樹 担当例会「「生きるちから～未来の宝が輝くために～」」	【青少年委員会】担当例会「尊敬できる大人へ　～大人が変われば子供も変わる～」

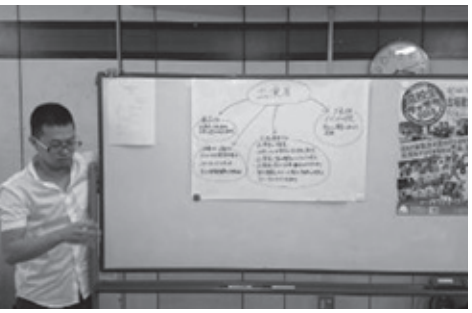
JCI

まだまだ花見は興わらな

『清水×青年レストラン』

JCI

JCI
長岡青年会議所

60


60周年記念式典
まであと0日

JCI
長岡青年会議所

からあげ
長岡青年会議所

クラブ活動紹介

野球クラブ同好会 ソフトボールクラブ

ブロック野球大会及びソフトボール大会を
メイン大会として参加。
勝利に向かって練習も行います。
野球を通じた交流を目的に活動します。

長岡 JC サッカークラブ

・サッカーを通じて自己修練すると共に、協調性を学ぶ。
・青少年の健全育成の一助となれるよう活動する。
・ブロック、全国等 JC 主催の大会に参加し、
　会員同志の交流を図る。
・OB メンバーとの親睦を深める。

2007.10.14NBC 会員交流サッカー大会 in 長岡

NBC 会員交流サッカー大会の歴史

回	年度	開催地 LOM	優勝 LOM
1	2000	長岡	長岡
2	2001	新潟	長岡
3	2002	いわふね	長岡
4	2003	十日町	長岡
5	2004	新井	長岡
6	2005	新発田	小千谷
7	2006	上越	長岡
8	2007	長岡	小千谷
9	2008	第 1 エリア合同開催	長岡
10	2009	新潟	上越
11	2010	十日町	見附・栃尾合同
ー	2011	ー	ー
12	2012	長岡	いわふね
13	2013	燕三条	新潟
14	2014	新潟	新潟
15	2015	十日町	新潟

じゃがいもクラブ同好会

ゴルフを通じて OB と現役メンバーとの交流を目的とする。

歴代じゃがいもゴルフコンペ優勝者

西暦	回	優勝者
2005	116	近藤英弥
	117	市村亮介
2006	118	本間厚自
	119	渡邊好雄
2007	120	石田章
	121	戸川則夫
2008	122	小林隆洋
	123	志水謙一
2009	124	今井富雄
	125	平石祥吉
2010	126	吉原一博
	127	真貝信行

西暦	回	優勝者
2011	128	真貝信行
	129	渡邊滝博
2012	130	吉田勉
	131	木村信久
2013	132	吉田勉
	133	長谷川幹
2014	134	今井富雄
	135	田村智弘
2015	136	高橋一貴
	137	桃生鎮雄

クラブソイガイヤー

設立：2006 年 8 月 3 日市政 100 周年長岡まつり
初代司令長官：イーグルテイル司令長官

馬高遺跡より発掘されたドリームストーンに、長岡まつりで復興を願うフェニックス花火のパワーを注入し完成したガイヤースーツ。一方、研究所の警備員であった、ある男がドリームストーンの魅力に取り憑かれ、シャグロー将軍と名乗り合併した新長岡市を我が物にしようと考えた。こうして、長岡の平和を乱そうと暗躍を始めた「シャグロー将軍率いるジャミル軍団」と「ゆめ100戦士ソイガイヤー」の戦いが始まった!

くおーれ長岡

設立：2012年1月1日
初代会長：石橋一寛

地域の宝である長岡の食の魅力を発信することを通じて、市民が郷土長岡への愛着と誇りを持てるように活動し、会員同士の交流や連携を通じて、食や農業に関する新たな取り組みを創出していきます。

マメリン枝豆振る舞い

エイシン祭

記者会見

幼稚園保育園事業

メディア対応（アオラジ出演）

バル街

クラブ Y・O・Y

設　立　：平成24年1月1日
メンバー：オーナー　村上揚市郎
スーパーバイザー　平石祥吉、工藤伸二、梅澤順一
エグゼクティブプロデューサー（EP）　平野利幸
プロデューサー（P）　鈴木朋和　他12名

市民自らがまちづくりに取組む『市民協働』を、誰もが興味を持ち、楽しく気軽に参加できる形で提案し、共に実践することを通じて、まちづくりへの主体者意識と地域の一体感を醸成することを目的として、2011年より活動を続けているアイドルユニット「Y.O.Y」のプロデュース及びサポートを行いました。

Y.O.Y　2012年出演イベント

1/7	110 番の日CPイベント	8/18	今井町地区おまつり
2/18,19	長岡雪しかまつり	8/19	田宮病院Gイベント「太陽の広場」
3/10	古志の火まつり	8/26	小国もちひとまつり / 大花火大会
4/7,8	アオーレ誕生祭	9/22	第 5 回ふれあい車まつり
5/3	鯉のぼりフェスティバル	9/30	緑フェスタ（みどりの百年物語）
5/3	長岡市成人式	10/6	摂田屋まつり
5/4	信濃川フェスティバル	10/6	米百俵まつり
5/12	新潟博（ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ）	10/7	長岡食の陣　新産場所
5/19	ux21eggイベントゲスト	10/7	栃尾ミュージックフェス
6/9	日赤健康祭り	10/13	第 19 回長岡中央綜合病院　病院祭
6/30	越路ほたる祭り	10/27	京急百貨店（横浜）新潟展
7/7	まちなか七夕祭り	10/28	中之島産業まつり
7/28	献血PRイベントへのゲスト出演	10/28	NCTアオーレカラオケ大会
8/1	エイシンカレッジ学園祭	11/4	市民活動フェスタ
8/2	長岡祭りふれあい広場イベント	11/25	ドリームビジョンフェスティバル
8/3	長岡まつりわんぱくお祭り広場イベント	12/1	越後長岡和太鼓まつり
8/16	岩田地区まつり	12/24	ファイナル（解散コンサート）

Y.O.Y
ロゴ

フェニックスクラブ

市民の皆様から、まちづくり活動を体験していただくことにより、まちづくりの素晴らしさや、市民協働の大切さを感じていただき、率先してまちづくり運動を展開することのできる組織へと成長することを目的とします。

設　立　：平成 27 年 4 月 28 日
会　長　：丸山　清貴
副会長　：六車　慎一郎
副会長　：佐藤　義治
事務局　：髙見　礼央
会　計　：遊座　将己
監　査　：深見　太朗

【活動計画】

(1)　長岡市及び地域の環境美化・清掃活動に関する事業
(2)　フェニックス花火協賛金ボランティア活動に関する事業
(3)　災害復興支援活動に関する事業
(4)　各地域で活動を行っているボランティア団体等との連携に関する事業
(5)　災害救援活動

復興祈願花火 フェニックス街頭協賛金募集活動

フェニックス継承事業

震災と復興

新潟県中越大震災

資料提供：長岡震災アーカイブセンター

2004年10月23日午後5時56分、突如として私たちの郷土長岡を中心とする中越地方を大地震が襲いました。
マグニチュード6.8、最大震度7。新潟県中越大震災です。
その年の7月13日には長岡市中之島地域および見附市を含めた刈谷田川流域で大規模な水害が発生し、その対応に追われたばかりだった後の10月にこの地震は発災したのです。
長岡青年会議所では、次年度理事長および組織が決まり、来たる50周年への期待が高まっていた時期でした。

山古志地域

川口地域

平成16年10月24日 妙見崩落現場
（株式会社 オリス 撮影）

復興祈願花火 フェニックスの誕生

当時について語る
2005年度 理事長　桐生　伸一 氏

「発災直後、私は長岡の中心街にいましたが慌てて、タクシーを捉まえて、帰宅し、家族の無事を確認しました。翌朝、日曜でしたができるだけの社員に会社へ来てもらい、会社の状況を確認しました。停電していたため、3日間くらいは車の中で寝泊まりしました。

当時の理事長だった早川博文先輩から招集がかかり、状況の確認と今後の活動について話し合いました。何かできないかと長岡市内の避難所を回って、炊き出しや支援物資の仕分けなど、とにかくやれることをやっていたと覚えていますが、具体的な記憶がないほど、無我夢中でした。それでも1～2週間で混乱も収束し、残すは山古志などの山間部のみとなりました。
我々青年会議所でも避難してきた方々に、ハートフルプロジェクトと名を打って、クリスマスツリーの設置やマグロの解体ショーなどを行って、支援を行いました。

私は次年度の理事長を拝命しておりましたが、発災当時にはすでに理事長方針を発表し、理事会で承認をいただいた後でした。急きょ、序文を追加して再上程し、メンバーのみんなにも新しいミッションを与えることがありました。

特に復興祈願花火フェニックスでは、石田筆頭副理事長、樋口室長を中心としたメンバーで受けていただき、協賛金の募金活動を行いました。市内の街頭での PR や東京県人会の総会など様々な場所に参加して協賛金を募りました。初回は振込の寄付が多くて、1400万円くらい集まりました。長岡大花火も全国トップクラスではあっても、今一つマンネリ化していた感が当時はあり、新しい動きをしたいという思惑が行政の方では、もともと持っていました。

そこで、このフェニックス花火はまさしく、新しい流れを作りました。地震が起きた直後でありながら、花火を上げようという長岡人の気概に感動しました。その気概があればこそ、3度目の復興を成し遂げることができたと思います。
日本JCや他LOMからも支援を多くいただきました。この支援に対する感謝を被災地LOMの代表として、京都会議の総会で挨拶させていただきました。

心折れずに復興に立ち向かった長岡人の気概、多くの友好LOMからの支援、これらがあったからこそ、長岡 JC としても中越大震災の中でも活動ができ、50周年記念大会も挙行することができたと思います。」

2011年8月に打上げられた復興祈願花火 フェニックス花火
（撮影：小 幡 和 成）

この年から始まった復興祈願花火フェニックスは、2015年8月現在で11回目の打ち上げが行われました。中越大震災からの復興祈願、いただいた多くの支援や励ましの言葉への感謝を込めて多くの長岡市民からの善意の協賛金で打ち上げられるこの花火は、「市民協働」の成果であり、震災から立ち上がった長岡市民の誇りでもあります。

中越大震災から5年がたった2009年度、復興特別委員会が設置されました。その目的は震災から5年が経ち、復興のめどが立った今こそ長岡の地から全国へ“感謝”を発信したいという思いでした。

フォトモザイク

スネオヘアーさん

西山茉希さん

「THANKS FROM　NAGAOKA」、元気になった長岡を見せて、感謝を全国へ伝える大事業です。
水澤元博委員長を中心としたメンバーが設営を行ったこの事業では、長岡市出身のアーティスト・スネオヘアーさんから「WALK AND JOY」という曲を作っていただき、発表してもらいました。
同じく長岡市出身の人気モデル西山茉希さんからも参加していただき、お話をいただきました。発災当時は山古志村長であり、衆議院議員長島忠美氏から講演をいただき、風化させてはいけない記憶、地域の絆の大切さを教えていただきました。
また、長岡市民3900名の写真を使ったフォトモザイクを作成し、元気になった長岡市を多くの方々に感じてもらうことができました。

復興支援活動を通じて

日本は中越大震災以降も多くの災害に襲われてきました。
お隣のまち柏崎市を含めた地域が被害を受けた中越沖地震では、近隣LOM（栃尾JC、見附JC、小千谷JC、長岡JC）によるフォーラム21が中心となり、柏崎JCを支援し、災害からの復興の一助となりました。現在でもフォーラム21は毎年3月に5LOMの持ち回りで合同例会を行い、互いの友情を深めております。

2013年7月には再び新潟県を水害が襲いました。7.30水害では長岡市でも寺泊地域や乙吉地区で大きな被害を受けました。
長岡JCは主に乙吉地区の支援を行うこととしましたが、折しも長岡まつりの直前の発災でした。一年間かけて準備を進めてきた灯籠委員会やおまつり委員会の事業を中止すべきかどうか、苦渋の選択の結果、長岡まつり後に全力で被災地への支援を行うことを決定いたしました。2013年度監事であり、公益社団法人日本青年会議所の災害復興系委員会に出向していた水澤元博君がボランティアセンターに常駐し、各団体との連携を取りまとめてくれました。

乙吉地区
支援活動の様子

東日本大震災直後、被災地にて

乙吉地区への支援にはフォーラム21を中心とした県内の友好LOMが続々と駆けつけてくれました。
長岡JCメンバーもそれぞれの得意分野を最大限に活用し、行政やほかの団体が行うことのできない様々な支援活動を買って出て、乙吉地区の復旧の一助とすることができました。
最後には、発災以来、心の休まることのなかった住民の皆様に少しでも元気を取り戻してもらおうと村田靖理事長を先頭に長岡JCメンバーが流しソーメンやアトラクションなどの催しを行いました。

そして、2011年3月11日に東北地方を中心とする広い地域を襲った未曾有湯の大災害、東日本大震災。今まで経験したことのないような巨大な災害を前にして、多くの人々が呆然とする中でも長岡青年会議所はいち早く活動を開始しました。当時の理事長である平石祥吉先輩が率先して動き、何も分からない暗闇の中でもがく様に被災地支援を行いました。
2004年に大きな被害を受けた長岡の人間だからこそ、その恩に報いるために他の地域の苦難を支援しなくてはいけない。無我夢中の行動でした。長岡JCの活動がどれだけの人々のためになったのかは分かりません。

「絆で繋ごう復興の襷」

気仙沼プロジェクト
集合写真

気仙沼プロジェクトの様子

2015年度の活動

1月

新年例会

新年会

2月

雪しかまつり

3月

委員会一括開催 DAY

4月

4月例会「道～おまつ Re ロード～」
設営：おまつり委員会
場所：ニューオータニ長岡 NC ホール

5月

アオーレ長岡誕生記念祭

5月担当例会「家族に灯す、あたたか笑顔」
設営：灯籠委員会
場所：会館 青善

6月

6月例会
「おもてなし～ここまでやるのが長岡流～」
設営：おもてなし委員会
場所：ニューオータニ長岡 NC ホール
講師・ゲスト：鈴木　拓将 氏
　　渡邊　滝博 氏

6.23 60 周年記念 ゴルフコンペ

場所：長岡カントリー倶楽部

ゴルフコンペ懇親会・表彰式

場所：ホテルニューオータニ長岡

優　　勝：関川　卓至 先輩
準 優 勝：水澤　純 君（上越 JC）
3　　位：吉田　勉 先輩
ベスグロ：宮下　嘉克 先輩

7月

7月例会「未来（あす）への夢～自らの決意表明～」
設営：60周年企画運営特別委員会
場所：ニューオータニ長岡 NC ホール

◆ 事 業 概 要

設　　営：おまつり委員会
日　　時：平成27年8月1日　20:50 ～22:30
場　　所：長岡大手通り周辺
参加者数：長岡青年会議所メンバー、一般 300名

長岡青年会議所は創立当初から長岡まつりに様々な形で参画し、その中でも神輿渡御はメインイベント的な活動です。昭和53年にOBメンバーとともに「米百俵神輿」を参加させ、その後長岡まつりのシンボル的神輿となりました。また、創立50周年の年となる平成17年には、「夢神輿」を新たに立ち上げ、華々しくデビューを飾りました。更に平成23年には、長岡青年会議所が誇る超巨大神輿「長岡JC神輿」を立ち上げ長岡まつりの新たなシンボルとなっています。

本年度も、長岡まつりの起源と本来の意義を伝え、長岡まつりに対する想いをさらに深めていただき厳粛且つ盛大に盛上げて執り行うことが出来ました。また本年度は、昼渡御を行い現役メンバーと特別会員が一緒になって60周年のPRをすると共に市民の皆様へ長岡JCが60周年を迎えることが出来たことに感謝の気持ちをもち、昼渡御を執り行うことが出来ました。宵宮渡御では大勢の市民の皆様と一体となり長岡JC神輿渡御を安全且つ盛大に盛上げ、皆様から「最高でした」「また来年も参加します」「ありがとうございました」などと私達が感謝しなければならないところにも関わらず、市民の皆様からの有難い声をいただきこの長岡JC神輿渡御の素晴らしさをあらためて感じる事が出来ました。

Nagaoka 高校生フェスタ 2015～夢と青春で繋がる夏！～

◆ 事 業 概 要

設　　営：おまつり委員会
日　　時：平成27年8月3日
　　11：00～16：00
場　　所：アオーレ長岡　アリーナ
参加者数：1,700 名

長岡まつりの昼行事に、高校生が主体となった行事を行うことで、高校生に「一生懸命」の楽しさを知ってもらい、若者の力で長岡まつりを更に活性化させようとの思いで2013年から開催しています。本年で3年目となり、年を重ねることに参加者も増え、内容もバンド演奏やダンスなど充実したものとなっています。次世代の長岡を担う高校生が市民と感動を共有し、高校生自身が楽しむことで郷土愛を育み、長岡の発展に繋げていくという想いが高まる事業となりました。

本年度は、高校生が自主性を持ち一生懸命創りあげ、市民と共に楽しめる活気ある事業構築ができるように、長岡まつり本来の意義を実行委員会、パフォーマーとして参加してくれた全ての高校生に伝え活動いたしました。また、高校生の発想と情熱の表現の場として、自立性を持った事業の継続を目指し、実行委員会の立ち上げに着手し21名の高校生が積極的に意見を出し活発な会議を行ない、助成金の申請、構築段階から各パートにおいてより具体的な作業に率先して取り組む事ができ、実行委員会会議を重ねる度に学校、学年の枠を越え絆が深まって行く事が印象的でした。事業当日に来場された皆様からは「高校生のエネルギー、感動しました」「元気をもらいました」「この事業を継続して下さい」等たくさんの意見をいただきました。

第 32 回柿川灯籠流し ～平和を紡ぐ、慰霊の灯～

◆ 事 業 概 要

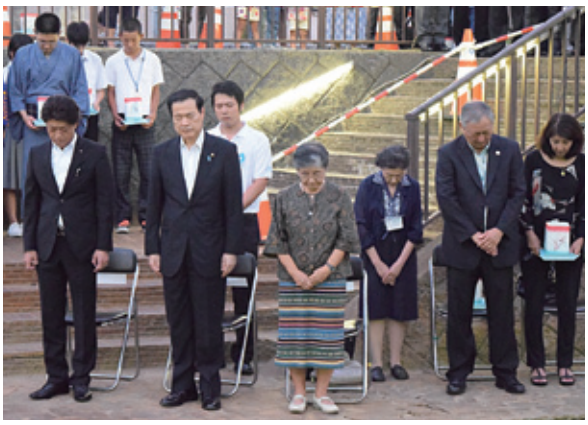
設　　営：灯籠委員会
日　　時：平成27年8月1日　19:00~20:30
場　　所：柿川（一之橋から追廻橋の周辺）
参加者数：長岡青年会議所メンバー、長岡市民　300人

昭和20年8月1日午後10時30分、長岡の市街地はアメリカ軍のB29爆撃機126機により大空襲を受け、焼け野原となり、平成27年現在わかっているだけで、1,486 名の尊い命が失われました。私たちは、戦災都市である長岡の歴史を風化させてはいけないという思いから、昭和59年より柿川灯籠流しを行っています。この事業が遺族の皆様にとって、戦災で亡くなられたご親族を想い偲ぶ、かけがえのない場となっています。

本年は「終戦70年」という節目の年であり、日本全体が太平洋戦争当時から現在に至るまでの歴史に注目が集まり、市民一人ひとりの戦争と平和への関心は非常に高まった1年間であると感じました。

第32回柿川灯籠流しでは、開会セレモニーにて長岡・ホノルル平和友好事業に参加している青少年たちに参加していただき、両市の若い世代が70年前の悲劇を学んだうえで一緒に灯籠を流していただきました。多くの尊い命が失われた柿川で当時の敵国同士である両国の青少年が一緒に慰霊の想いと恒久平和を願い柿川で手を合わせ、それぞれの想いを馳せて灯籠を流したことは未来に向けて国や年代を超えた友情に繋がったと思います。

また、平和学習に訪問した小中学校で作成した平和キャンドルを会場に灯し、子供たちの平和に対する願いを灯籠流し会場にお越しいただいた参加者へ広く発信すると共に、1,500個のキャンドルは会場を明るく灯し、灯籠流しを知らないで通りかかった方からも関心をもってご覧いただき、灯籠流し事業を広く知っていただくきっかけとなったと思います。



柿川灯籠流し事前清掃

◆ 事 業 概 要

設　　営：灯籠委員会
日　　時：平成27年7月 20 日　6:00~9:00
場　　所：柿川（一之橋から追廻橋の周辺）
参加者数：長岡青年会議所メンバー、長岡市内各小中学生、
教職員、専門学校生、他ボランティア多数

毎年8月1日に行われる柿川灯籠流しの開催を前に、当日安全に灯籠を流すことができるよう柿川及び平潟神社境内の清掃を行っています。毎年、長岡市内の小中学生や専門学校生をはじめとする多くのボランティアの方々がご参加され、慰霊の想いをこめて清掃を行っていただいております。
清掃事業はただ柿川を綺麗にするだけでなく、多くの尊い命が失われた柿川を慰霊の想いを持ち清掃ことが必要であるということをボランティア募集の際にしっかりと伝える事で、例年以上の参加者と新たなボランティアの協力をいただける結果に繋がりました。その中でも、教職員組合の「ときわ会」より参加していただき、日々子供たちと触れ合う先生方から直接、メンバーと共に平潟神社で黙とうを捧げ慰霊と平和への想いを持っていただいてから、清掃に参加していただいたことで、灯籠流しに対する長岡JCの姿勢と想いを十分に感じていただけたと思います。今後の長岡市の青少年育成活動においても教育の場から長岡空襲に対して一歩踏み込んだ発信をしていけるきっかけになったと思います。また、ボランティア参加の小中学生には清掃活動の前に平潟神社にて長岡空襲体験者の加沢様から当時の体験談をお話しいただけたことで、ただ綺麗にするだけでない、慰霊の想いを持って参加していただけたと思います。

60周年記念事業 中村真衣 水泳教室・記念講演

◆ 講師プロフィール

中村真衣（なかむら まい）

元競泳日本代表
1979年 長岡市生まれ
1983年 4歳から水泳を習い始める
1994年 15歳で日本選手権大会 100m 背泳ぎ初優勝
1996年 アトランタオリンピック 100m 背泳ぎ4位
2000年 シドニーオリンピック 100m 背泳ぎ2位 銀メダル
400m メドレーリレー3位
2007年 オーストラリア世界選手権後引退
現在スイミングアドバイザーとして活躍中

◆ 事業概要

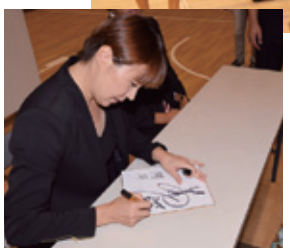
設　　営：60 周年企画運営特別委員会
日　　時：平成27年8月30日　10：00～16：00
場　　所：（水泳教室）JSS長岡スイミングスクール
（記念講演）アオーレ長岡アリーナ
参加者数：（水泳教室）115 名
（記念講演）281 名

一般社団法人長岡青年会議所の創立60周年記念事業にて、シドニーオリンピック銀メダリスト・長岡出身の中村真衣氏をお迎えし、地域の皆様へ感謝を伝え、未来ある子供たちへ常に目標を持って挑戦し続けることの素晴らしさを伝えることで、長岡市民の皆様が自らの可能性を広げて地域の未来を切り拓く人財に成長する機会を創出する事を目的として開催致しました。会場として、JSS長岡スイミングスクールにて小学生対象の水泳教室、アオーレ長岡アリーナにて長岡市民対象の記念講演を開催し、多くの市民の方々よりご参加頂けました。

中村真衣氏　　澤田[illegible]氏

中村真衣 記念講演

どん底から這いあがれ！
～挑戦と覚悟～



60周年記念式典

◆ 事 業 概 要

日　　時：平成27年9月5日　13:30~15:30
場　　所：シティホールプラザ アオーレ長岡 アリーナ
参加者数：826名

多くのご来賓、特別会員、県内各会員会議所の皆様をお招きして、一般社団法人長岡青年会議所の創立 60 周年式典を開催致しました。森長岡市長をはじめとするご来賓の皆様よりお祝いのお言葉を頂戴するとともに、チャーターメンバーの畠山真一先輩、スポンサー JC、姉妹 JC、第51代から第60代の歴代理事長の皆様へこれまでの活動やご支援、ご協力に敬意を表し、感謝状を贈呈させて頂きました。また、長岡 JC の未来へ向けた挑戦を表明させて頂きました。

◆ 式 次 第

1. 物故会員追悼
2. 開会宣言並びに主催者挨拶
3. 国歌斉唱
4. JCソング斉唱
5. JCI Creed唱和
6. JCI Mission並びにJCI Vision唱和
7. JC宣言文朗読並びに綱領唱和
8. 長岡JC宣言唱和
9. 来賓紹介
10. 来賓祝辞

長岡市長
森　民夫 様

長岡商工会議所
会 頭　丸山　智 様

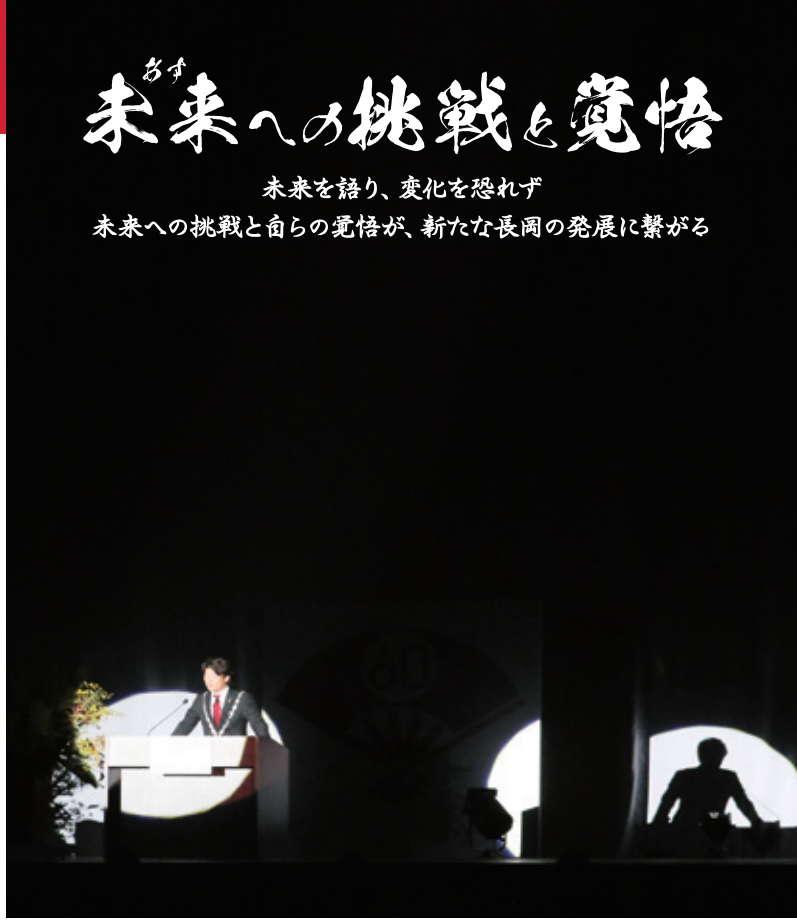
長岡 JC シニアクラブ
代表幹事　田村 和仁 先輩

公益社団法人 日本青年会議所
副会長　青木 照護 君

公益社団法人 日本青年会議所 北陸信越地区協議会
会 長　浦　崇典 君

公益社団法人 日本青年会議所
北陸信越地区新潟ブロック協議会 会 長　小山大志 君

11. チャーターメンバーの紹介並びに感謝状贈呈
12. スポンサーJCへ感謝状贈呈
13. 姉妹JCへ感謝状贈呈
14. 第51代~60代理事長の紹介並びに感謝状贈呈
15. 「未来（あす）への挑戦」表明並びに閉会宣言



JCI Creed唱和
近藤 正明　常任理事

JCI Mission並びにJCI Vision唱和
佐藤 直樹　常任理事

司会：中村　徹　副理事長（右）

JC宣言文朗読並びに綱領唱和
西山和[illegible]　常任理事

長岡 JC 宣言
渡辺茂治　常任理事

祝辞：森　民夫 長岡市長

丸山清貴 理事長

祝辞：丸山　智 長岡商工会議所 会頭

祝辞：田村和仁 長岡JCシニアクラブ 代表幹事

祝辞：青木照護（公社）日本青年会議所 副会頭

祝辞：浦　崇典 北陸信越地区協議会 会長

祝辞：小山大志 新潟ブロック協議会 会長

スポンサーLOMへ感謝状贈呈
東京青年会議所　中村豪志 理事長

姉妹JCへ感謝状贈呈
韓国ソウル江南青年会議所　ナムヨンジェ会長

チャーターメンバー紹介並びに感謝状贈呈
畠山真一先輩

歴代理事長感謝状贈呈

2005年度理事長　桐生伸一先輩

閉会宣言：五十嵐陽平 60周年実行委員長

60周年記念祝賀会

◆ 事 業 概 要

日　　時：平成27年9月5日　16:45～ 18:45
場　　所：シティホールプラザ アオーレ長岡 アリーナ
参加者数：907名

祝賀会では、式典の厳粛な雰囲気とは一転しご出席いただいた皆様により楽しんでいただける様にオープニングでは、悠久太鼓・華童会の子供達による太鼓演奏から始まり、来賓、特別会員の方々からご協力いただき、執り行った鏡開きや長岡市乾杯条例による日本酒で乾杯など長岡を感じていただきました。また、締めではおまつり委員会を中心に長岡JC恒例の木遣り3本締めを行うことで伝統を受け継いでいる姿の一端をお見せすることができました。

悠久太鼓・華童会（長生保育園・恵和保育園）太鼓演奏

◆ プ ロ グ ラ ム

1. オープニング
   悠久太鼓・華童会
   （長生保育園・恵和保育園）太鼓演奏
2. 開会挨拶
   一般社団法人 長岡青年会議所
   副理事長　佐 藤 英 次 君
3. 来賓挨拶
   公益社団法人 日本青年会議所
   直前会頭　鈴 木 和 也 君
4. 来賓紹介
5. 鏡開き
   来賓・歴代理事長
6. 乾杯挨拶
   長岡青年会議所シニアクラブ
   大 原 久 治 先輩
7. シークレットライブ
8. フェニックス花火（映像）
9. 謝辞
10. 木遣り三本締め

来賓 直前会頭 鈴木和也 君

乾杯 大原久治 先輩

シークレットライブ

謝辞

木遣り三本締め

Anniversary 60th
NAGAOKA JC

2015.9.5

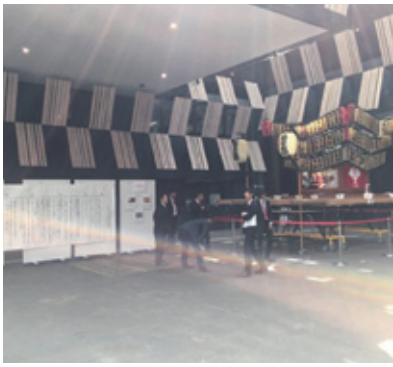
Anniversary
NAGAOKA JC
60th

未来（あす）への挑戦と覚悟

未来を語り、変化を恐れず
未来への挑戦と自らの覚悟が、新たな長岡の発展に繋がる

Anniversary 60th
NAGAOKA JC

2015.9.5



寿

宝

鶴

宝

Anniversary 60th
NAGAOKA JC

2015.9.5

60周年記念講演 9月公開例会 ～一人ひとりが長岡のまちのセールスマン～

講 師 ジャパネットたかた 前社長 **髙田　明**　地域活性化モデル **今井美穂**

◆ 事業概要

設　　営：未来創造特別委員会
日　　時：平成27年9月29日　18:30～21:00
場　　所：長岡リリックホール
参加者数：515名（長岡JCメンバー含む）

60周年記念事業として株式会社ジャパネットたかた社長を前年に勇退された髙田明氏、地域活性化モデルとしてご活躍されている、したみちオフィス株式会社代表取締役社長今井美穂氏、長岡まつり協議会フェニックス部会部会長として、長岡の大切な宝である復興祈願花火フェニックス打ち上げの先頭に立っておられた土田勝也先輩をお招きして公開例会と言う形で行いました。
本例会を通じ、市民一人ひとりが郷土長岡のことを考え、関心を持っていただき、まちづくりへの第一歩として踏み出してもらいたいという思いから設営いたしました。
また、長岡JCメンバーには、市民の先頭に立って「長岡のまちのセールスマン」として、より効果的な発信方法を学び、まちの魅力を全国に発信していける人財へと成長することを目指しました。
400名もの一般来場者の方々に来ていただき、郷土長岡に関心を持ち、まずは自分が出来るところからまちづくりに取り組んでいただきたいと考え、当日の設営に臨んだ結果、来場者の方々に非常に関心を持って聞いていただけたのではないかと感じております。
第一部では、髙田明氏の講演会を、第二部では六車委員長がコーディネーターとして、パネルスト3名とパネルディスカッションを行いました。
まちづくりには色々なやり方がありますが、講演いただいたことに共通するのは、出来ることを楽しんですること、継続していくことが大切だということを教えていただきました。これをきっかけに長岡に住む人々が、自分が出来るまちづくりを考えていただけるのではないかと感じております。

◆ 講師プロフィール

髙田　明（たかた　あきら）

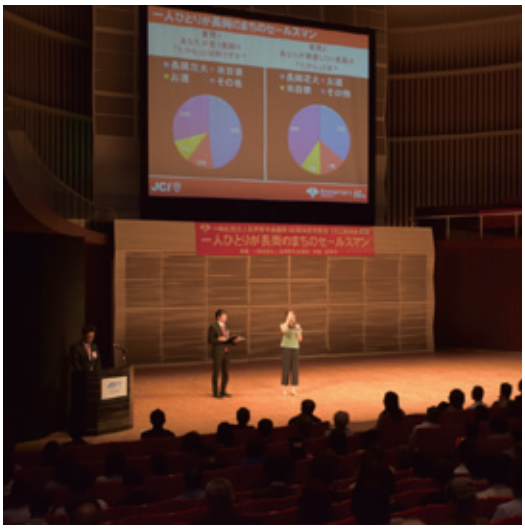
1948年11月 長崎県平戸市生まれ
1971年4月　大阪経済大学経済部経営学科卒業後、「㈱阪村機械製作所」入社
1974年2月　父親の経営する「㈲カメラのたかた」入社
1986年1月　分離独立し、「㈱たかた」を設立
1999年5月　「㈱たかた」から「㈱ジャパネットたかた」に社名変更
2015年1月　「㈱ジャパネットたかた」代表取締役退任
2015年1月　「㈱A and Live」を設立

今井美穂（いまい　みほ）

■したみちオフィス株式会社
　代表取締役　社長／地域活性化モデル
■1989年12月9日生まれ
■新潟県見附市出身

土田勝也（つちだ　かつや）

■長岡まつり協議会 フェニックス部会 部会長
■1968年9月14日生まれ
■新潟県長岡市出身



パネルディスカッション

11月

卒業生スピーチ例会
～受け継がれて行く情熱!誇り!絆!長岡 JC ～

設　　営：おまつり委員会
日　　時：平成27年11月17日　18:30~20:30
場　　所：ホテルニューオータニ長岡 NC ホール

12月

卒業例会　～卒業式・理事長引継式～

設　　営：総務委員会
日　　時：平成27年12月6日
　　13:00~ 14:10
場　　所：ホテルニューオータニ長岡

忘年会　「感謝」～未来（あす）への旅立ち～

設　　営：おもてなし委員会
日　　時：平成27年12月6日 15:00~18:00
場　　所：ホテルニューオータニ長岡

2015 年度 褒賞

最優秀 Jaycee 賞：山子　文孝君

最優秀活動委員会賞：灯籠委員会 委員長 井上　賢太君

特別賞：60 周年企画運営特別委員会 委員長 北澤　晃君

特別賞：　小林　孝史君

未来（あす）への挑戦と覚悟

未来を語り、変化を恐れず　未来への挑戦と自らの覚悟が、新たな長岡の発展に繋がる

「新日本の再建は我々青年の仕事である」一般社団法人長岡青年会議所は1954年9月5日に、先輩諸兄がこの言葉に情熱を抱き、志同じうする者によって創立されました。

それから60年後、本年度は記念すべき年を迎えることができました。これもひとえに戦後の荒廃が色濃く残るなか、経済人として志高き若者が、強い使命感と熱い情熱で設立し、長きに亘り長岡 JC を継続し揺ぎ無い情熱を注ぎ、固い絆で今まで幾多の困難にも打ち勝ち、長岡JCを支えてこられた600名を超える先輩諸兄の皆様、並びに様々な場面で支えてくださった関係諸団体の皆様のお蔭でございます。連綿と積み重ね、時代時代の地域問題に真剣に向き合い、輝かしい功績を築き上げてこられたことに現役メンバー一同感謝しております。

「青年会議所の目的は具体的な個々の目的をもった団体ではなく、莫としたある意味に於いては観念的な、抽象的な団体であります。よって、なすべき事、行うべきことは決して定まっているものではなく、むしろ無限定でありますが、そこに大きな意義があるのであります。」

これは長岡青年会議所を設立されたチャーターメンバーの先輩が作成された長岡青年会議所設立趣意書の一節であります。

具体的な個々の目的がないが故に、これからの青年会議所の活動にはさらなる発展の可能性があります。

我々は、60年間の先輩諸兄の活動の軌跡を糧にこれからも、地域に求められる活動を展開し続けます。

青年会議所へ入会すべき人財について設立趣意書にはこう書かれています。

「莫然とした会だから入会するというのではなく、自分が入会してこうしようと言う人々を以って形成されるものである。正しい理想と熱情によって結ばれし同士、相集い、品位ある青年実業家をもって結集する」、と。

常に我々に求められる会員の資質の向上。「まちづくりはひとづくり」「人は人によって磨かれる」。我々は青年会議所活動を通じ、これまでご尽力いただいた先輩諸兄に対しても恥ずかしくない、郷土長岡のまちづくりに貢献できる人財をこれからも育成してまいります。

長岡JC宣言の冒頭、**「われわれ長岡青年会議所はメンバーの絆を礎に」**

長岡青年会議所の最大のたからであるメンバーの揺るがぬ固い絆。我々はこれからも事業や様々な活動を通じて達成感や感動を分かち合い、組織としての強さ、個人としての魅力を高め、「心から仲間を想う強い気持ちと有難さ」を大切にしてJC運動を展開してまいります。

「夢あふれる社会の創造に向けて」毎年展開される様々な事業を通じて我々がなすべきことは、幾多の困難を乗り越えて父祖から父祖へ受け継いできた長岡というまちを、未来を生きる若い世代に引き継ぐことであります。

「国が興るのも、滅びるのも、まちが栄えるのも衰えるのも、ことごとく人にある。」これからも米百俵の精神を基に、夢を持ち続けることの大切さを訴え続けてまいります。

長岡JC宣言の最後はこう締めくくられます。**「地域とともに歩み続けることを宣言する」**

我々長岡市民が住み暮らす郷土長岡。市民協働のまちづくり運動の輪が拡がっている昨今において長岡青年会議所メンバーは企業、家庭、地域のリーダーとして、市民とともに全国に誇れる郷土愛と魅力に溢れた長岡の未来を想像してまいります。

60年前にチャーターメンバーの先輩諸兄が想いを綴られた設立趣意書。

10年前にこれからの長岡JCの指針を示された長岡 JC 宣言。

周年という過去と未来の橋渡しの節目だからこそ我々は改めて過去へ感謝し、現在を喜び、未来へ向かっていきます。

60年間の活動は、常に決まったものではなく、その年その年の理事長の思いを受けて、メンバーが青年らしい自由な発想で地域の進運に寄与すべく、雄々しく、若々しく活動を展開してまいりました。

「未来を語り、変化を恐れず、未来への挑戦と自らの覚悟が、新たな長岡の発展に繋がる」と信じ、夢あふれる社会の創造に向けて、進取の気概を持ち、愛するふるさと長岡のの皆様と共にこれからも歩み続けて参ります。

創造のはじまりは人と人との繋がり。共に歩む仲間がいるからこそ新たな自分と出会いそこから新たな物語が始まると信じて。

60 Anniversary NAGAOKA JC 60th

過去を引継ぎ未来へのJC活動へ繋がるメッセージ

LOMスタッフ

- 人に夢を見せること
- 自らの人間性の成長
- 一緒に活動する方々に夢を持っていただけるような人間になる
- 子供たちへ正しい教育のできる社会
- 誠の仲間づくり
- 郷土長岡の発展
- 無事に卒業
- 明るい豊かな社会面倒くさい先輩
- 地域に必要とされる人間になる事

地域の発展に寄与するということ

夢というものは特にありませんが、残されたJC在籍期間中に試してみたいこと、勉強できることを何でも吸収したいと改めて決意しています。

おもてなし委員会

- 想いを伝えられる人間
- 夢を持ち続ける事
- 平和
- 子供の笑顔
- 地域に必要とされる人間
- 人と人が支え合う社会の実現
- 夢というものは特にありませんが、残されたJC在籍期間中、試してみたいこと、勉強できることを何でも吸収したいと改めて決意しています。
- 必要とされる人間
- 会社経営
- 地域活動
- 想いを伝えられる人間
- 長岡の魅力を全国に発信
- 率先して行動できる人間になること

総務委員会

- 社会に必要とされる人間
- 共感力の高い人間
- 気配りができる人間
- 則天去私
- 世界一の長岡ＪＣ
- 選んでいただける人
- 意思疎通
- 家族が幸せに暮らせること
- 頼られる存在
- 自分が必要とする組織や団体から必要とされる人間
- 裏表なく感謝の気持ちで何事も取組むこと
- 感謝の気持ちを持ち行動すること
- 必要とされる人間
- 逃げない心をもった人間
- 継続的な自己成長

おまつり委員会

- 長岡JCの発展と想いに
- 地域に誇りをもてる市民総参加
- 郷土長岡の発展と大切な仲間づくり
- 時代の変化、情勢の変化に対応できる経営者
- JC卒業そして希望ある未来
- 長岡最高、最強
- 成長し続ける
- 言ったことは実行する
- 人の気持ちがわかる人
- できる漢
- 器の大きい人間
- 周りの人に役立つ人間、必要とされる人間になる
- 自分の目指すところ
- カッコイイ大人
- 思いやりのある人間
- KYじゃない人間
- 自身の成長

灯籠委員会

- 地域に必要とされる人間
- 覚悟をもって行動
- 器を大きくする
- 明るい豊かな社会の創造
- 支える人
- 社長
- 必要とされる人間
- 地域に愛される会社づくり
- 自分自身の成長
- 濃密な人間関係の構築
- 笑顔あふれる長岡のまちの創造
- 求められる人
- 自己成長と結婚
- 人と人のつながり
- 自己の成長
- 信じ合える仲間を多く作り、自分自身も信じられる人間になる
- 恥じない人間

未来創造特別委員会

- 子供が郷土に誇りを持ち、夢と希望にあふれた魅力ある長岡の創造
- 笑顔が溢れ、永続的に発展し続ける長岡
- 必要とされる人間になること
- 必要とされる人間になること
- 活気ある長岡に向けて
- 長岡と人を世界に通じるまち、ひと
- 長岡を発信できる人
- 長岡から日本を変える
- 人材を育てる事ができる経営者
- 明るい豊かな社会の創造
- 長岡を誇りをもって発信できる人間になるという夢
- 感謝し、感謝される人への成長
- 月や宇宙にテントを貼る事!!
- また会いたいと思われる人間
- 大きな人間
- 子供が楽しく過ごせる長岡
- 必要とされる人財
- まちづくり

60周年運営企画特別委員会

- 地域に愛され、会社、家族に認めてもらえる活動
- 幸せに生きる
- 地域が統合して、多様性と競争力のある長岡市を市民総出で創生していく社会
- 多くのつながりがもてる人間
- 笑顔溢れる家庭づくり
- 明るい豊かな社会の創造
- 会社を永続させる
- 平穏無事な生活
- 夢を持ち続けること
- 郷土長岡の発展と自身の成長
- 地域に必要とされる人財に成長する事
- 自らが経営するお店を日本一のお客様満足度のあるお店にする事
- 必要とされる人間
- 私に関わる人たちを皆幸せにする男になる事！
- 日本と韓国の掛橋になる事
- 長岡を盛り立てる
- 地域を豊かにすること
- 長岡の発展、経済の向上、平和
- 長岡市にとって必要不可欠な企業
- 地域の方々に愛され地域の方々と共に歩んでいける八百屋になる夢

2015年度 新入会員

- 自己の成長
- 光と影・対極の考え思想を知る事
- 家庭、会社、社会に必要とされる自分
- 自身の発展と一生の仲間の獲得
- 長岡の素晴らしさを広げたいという夢
- 夢を持ち続ける事
- 長岡青年会議所と長岡市の市民協働への更なる発展
- 誰からも頼られるようなしっかりとした一人の人間になるという目標
- 会社を大きくする目標
- 意志のある人間
- 自立と自律した人間になる事
- 人の役に立ち、共に成長できる人間になる

このメッセージは60周年記念大会を通じてメンバーひとり一人が未来への挑戦と覚悟を表明した、7月例会の決意表明シートより抜粋したものです。

一般社団法人 長岡青年会議所 2015年度 組織表

○：理事

理事長	直前理事長	監事
○ 6 丸山 清貴	10 佐田 直人	19 今井進太郎　22 上村 英輔　30 源方 浩二

副理事長	専務理事	常務理事	事務局長	事務局次長
○ 9 五十嵐陽平　○ 1 中村 徹　○ 11 深見 太朗　○ 24 佐藤 英次	○ 7 田中 貴夫	○ 34 江口健太郎	○ 14 長谷川 章	○ 15 吉田 了

常任理事	
	○ 13 渡辺 治　○ 21 西山 和里　○ 28 近藤 正明　○ 29 佐藤 直樹

委員会名		総務	おもてなし	おまつり	灯籠	未来創造特別	60周年企画運営特別
委員長		○ 69 大谷 実	○ 4 丸山 一弥	○ 18 白鳥 辰次	○ 32 井上 賢太	○ 59 六車慎一郎	○ 64 北澤 晃
副委員長		○ 78 諸橋 賢二	○ 3 渡邊辰太郎	○ 54 高橋 渉	○ 35 竹鶴 直也	○ 61 佐藤 義治 88 高見 礼吏	43 長谷川 啓 ○ 68 高田 光
運営幹事		117 飛永 賢樹	79 石橋 智宏	120 和田 雅史	105 野上 修佐	97 高坂 英毅	90 二ツ家和樹
会計幹事		119 山子 文孝	112 北原 潤一	122 田中 重良	115 金山 泰	113 遠座 将己	124 西脇 宏
委員	1	5 水澤 元博	○ 20 松本 光央	○ 8 吉田 巌	○ 16 風岡 正信	2 丸山 裕樹	25 青木 勝彦
	2	○ 17 難波 俊輔	○ 37 池田 治	27 堀 淳	23 大塚 隆郎	○ 12 山崎嘉平太	○ 38 伊丹 正和
	3	25 高野 泰	41 山岸 弘幸	39 渡部総一郎	31 丸山 裕	○ 33 大石慶太郎	○ 44 高須明紀夫
	4	48 八木野寿人	55 移本 淳	42 吉柳 憲介	40 土田 雅彦	36 竹野 裕介	46 岸 竜二
	5	49 竹田 義昇	57 中澤 秀和	47 佐藤 和哉	○ 50 大宮 文義	45 桑原 皇	71 高野 雅之
	6	53 久保 和喜	62 貝岡 元義	51 大川 俊泰	74 佐藤 亮伸	58 鈴木 源治	76 田中 渉
	7	83 大岡 雅人	63 井口 明彦	52 野村 紘二	80 移本 良輔	60 藤島 源庭	84 小野 高啓
	8	89 北岡 真哉	○ 75 深田 純	○ 56 小川 文太	82 光野 和宏	65 竹内 剛	99 韮澤 圭介
	9	○103 星野 翼樹	77 髙橋 晋	66 小林 正人	93 岡崎 貴志	67 長部 茂也	101 山口 芳春
	10	109 佐藤 栄治	94 野上 将司	73 渡邊慎太郎	111 吉川 浩司	○ 70 小森 憲二	102 鄭 ダウン
	11	129 田中 智晴	95 大岡 英晃	81 中村 嘉明	114 森山 芳彦	72 今泉 知久	○107 諸橋 和彦
	12	130 野村 裕太	96 富澤 光伸	85 内藤 秀郎	123 三浦 真人	86 曳田 竜介	108 佐藤 太洋
	13	135 田村 智宏	104 松沢 裕太	91 渡邊 基也	126 岡 光太	87 佐藤 智之	121 中川 正和
	14		110 横山 智樹	98 中野 和紗	131 下条 祐貴	92 板山 正樹	128 細川 一彦
	15		116 佐々木 悠	100 佐藤 辰雄		106 小柳 圭介	135 清水 崇史
	16		125 岡田 崇	127 伊部 貴成		134 小林 孝史	139 上野 智弘
	17		133 阿久津磨人	132 山田 太一		137 風間 真	
	18			138 小川 義則			

2015年度 新入会員

内田めぐみ	井上 徹	小林 良博	佐藤 裕人	笠原 満	西尾 貴之
高桑 [illegible]	亀山 大輔	大橋 邦生	西脇 広紀	平石 優介	鈴木 良寛
小熊 孝幸	五十嵐信一	横田 毅	小林 友和	小川 恭子	星野 慶
吉原 智也	大郷 崇秋	星野 正男	佐藤 有亮	土田 誠	砂山 越矢
小沼 貴史	江口 龍司	風間 政一	瀧川 昌大	竹内 洋平	西脇 隆文
安達 努	三条 朋美	石塚 昌紀	大橋 剛	南波 大器	斉藤 和也

編集後記

60年という歴史を誇る長岡青年会議所の発刊にあたり、まずもって先輩諸兄よりご協力いただきましたことを御礼申し上げます。

2014年秋より60年という人でいうなれば還暦を迎える区切りとして、これまでの輝かしい歴史をまとめ、未来の長岡 JC の活動へ繋げてもらえる周年誌を作成しようと取り掛かりました。記念誌の内容の多くは40周年、50周年記念誌より活用させていただき、第51代から第60代までの歴代理事長へ取材させていただいた直近10年の活動をはじめ、中越大震災東日本大震災の支援活動、そして中越大震災を起源とするフェニックス花火に関する記事を中心に新たにまとめました。歴代理事長の取材に際しては、60周年企画運営特別委員会メンバーが新入会員と共にさせていただき、取材を通じて JC の活動意義などについても多くを勉強させていただきました。60周年記念大会の企画運営と並行しながら作成をしてまいりましたが、過去を紐解くことで、今の我々がやらなければならない事、未来へ引き継がなくてはならないことを再認識することができました。60年という歴史をどこまで伝えることができたかはわかりませんが、本誌をこれからの青年会議所メンバーが有意義に活用し、これからも JC の活動を発展させ続けていただけると幸に思います。最後に、60周年誌作成という大役をいただけたことに、60周年企画運営特別委員会メンバー一同、心から感謝を申し上げ周年誌編集の後書とさせていただきます。

2015年度 60周年企画運営特別委員会
委員長　北澤　晃

発行日　2015年12月26日
発行者　理事長　丸山清貴
60周年実行委員長
五十嵐陽平

編　集　60周年企画運営特別委員会
委員長　北澤　晃
副委員長　長谷川　啓
副委員長　高田　光
運営幹事　二ツ家和樹
会計幹事　西脇　宏
委員　青木　勝彦
7月例会チーフ　伊丹　正和
高須明紀夫
60周年記念式典チーフ　岸　竜二
60周年記念誌チーフ　高野　雅之
田中　渉
小野　高啓
60周年祝賀会チーフ　韮澤　圭介
山口　芳春
江島JC訪問チーフ　鄭　ダウン
水泳事業チーフ　諸橋　和彦
佐藤　太洋
60周年ゴルフコンペチーフ　中川　正和
ナカドマ事業チーフ　細川　一彦
清水　崇史
上野　智弘

印刷・製本　株式会社 中　越

発　行　一般社団法人 長岡青年会議所
〒940-1151
長岡市三和3丁目123-15
TEL.0258-34-0069
FAX.0258-34-0395
E-mail:info@nagaoka-jc.or.jp
http://www.nagaoka-jc.or.jp

Anniversary
NAGAOKA JC
60th